

つうご 通話(名) 同上

つうこく 通告(名) 告知、知會、達知、通告(通告書) (シヨ) 通告書

つうこく 痛哭(名) 痛哭

つうさつ 通察(名) 通察

つうさん 通算(名) 共算 「通事

つうじ 通事(名) 翻譯的人、翻譯、(つうじ 通(名) ①大便(二日間ちつ

とも通がない) 大便兩天不通(通

をつける) 緩瀉、通便 ②理會、懂

「いくらほのめかしても彼には通

がない) 怎麼拿話點他他也不理

會

つうじぐすり 通藥(名) 與げざい

つうしやう 通傷(名) ①疼(イタ) ②

痛傷(ナシムカ) ③

つうしやう 通商(名) 通商、貿易

つうを許す 允許通商(通商條

約) (ウヤク) 通商條約、商約(通商

港) (カウ) 通商口岸

つうじやう 通情(名) 通情

つうじやう 通常(名) 平常、尋常

「通常の人」平常的人、庸人、凡

人(通常會) (クワイ) 通常會、常會

「株主通常會」股東常會(通常服)

(フク) 便衣、便服

つうじやう 通稱(名) 通稱

つうしん 通信(名) 音信、通信、通

訊(一向通信がない) 總沒有音信

「委細は後便に通信します」 細微

的事情後來再奉告(電線が切れ

て通信が止った) 電線折了音信

不通了(通信社) (シヤ) 通信社(通

信處) (カ) 通信處、通信地點(通

信處) (カ) 通信處、通信地點(通

信教授(ウジク) 函授(通信費) (ヒ) 郵

電雜費(通信鳩) (ト) 信鳩(通信

文) (フシ) 尺牘、來往書札(商業通

信文) 商務尺牘、商業書札(通信

員) (キ) 通信員、訪事員

つうじん 通人(名) ①開通的人 ②

明白花柳事情的人

つうず 通ズ(佐變自動) ①通(此處へ

來た當座は言葉が通じないで困

た) 我一到這兒來時言語不通

很困難了「意味が少しも通じな

い) 意思一點兒也不通(二音相

通ず) 兩個音相通(電話が通じな

い) 電話不通(大便が通じない)

大便不通(道路四方に通ず) 道路

通達到四方(物窮すれば通ず) 絕

處逢生、窮極智生 ②通達、精

「彼は英語に通じて居る」 他通達

英國話(世情に通ずる) 通達世

情(醫術に通じて居る) 精於醫道

③都(今年は全國に通じて不作で

す) 今年通國都是不好的年頭

兒(これは誰にも通じてある癖で

す) 這是誰都有的毛病 ④勾搭、

私通(敵に通ずる) 私通敵人(人

の女房に通じる) 私通別人的媳

婦、和別人的媳婦勾搭上了

つうせん 通船(名) 過往的船

つうそく 通則(名) 通則

つうぞく 通俗(名) 通俗(通俗教育)

(ウイク) 通俗教育(通俗圖書館) (トシ

ヲク) 通俗圖書館

つうたつ 通達(名) ①通達 ②知會、

つうたん 痛歎(名) 痛歎 「告知

つうち 通知(名) 知會、告知、報

知、通知、達知(貴下へも通知が

來ましたか) 您那兒也來了知會

了麼(手紙で通知する) 用信知

會、函知、函告(通知を出す) 出

知會(御通知申上ぐ) 奉告(通知

書) (シヨ) 知會的信、知單

つうづうし 圖圖シ(形志久話) 無耻、

沒皮沒臉、沒羞沒臊(お前はつ

うづうしくもよく又來たな) 你沒

つう

つうてふ 通牒(名) 知會、通牒

つうほう 通寶(名) 通寶

つうほう 通報(名) 通報、報告

つうふう 通風(名) 透風、透氣、通氣(通風機) 通風機、送風機、扇風器(通風孔) 透氣眼

つうへい 通弊(名) 通弊

つうべん 通辯(名) 通事、翻譯的人、通譯

つうやう 痛痒(名) 痛痒(彼はいくら困っても私は痛痒を感じない) 他怎麼樣爲難于我不痛不痒痒(于我不相干)

つうやく 通譯(名) 翻譯、翻譯

つうよう 通譯(名) 翻譯的人、通譯、通行、通用、通用

つう

行使(此銀貨は通用しない) 這

個洋錢不通行(此紙幣は永久通用します) 這張紙幣永遠通用

〔英語は世界の何處でも通用する〕 英國語是世界到那兒都通行

〔この札の通用期限は三日間です〕 這張票以三天爲通用的期限

〔あふふ事を云つては今の世の中に通用せぬ〕 說那樣的話在現在的世上行不開

〔この紙幣は額面通用に通用します〕 這張紙幣可以照票面價額行使(通用門) 便門

つうらん 通覽(名) 通覽

つうりき 通力(名) 神力、神妙

つうれい 通例(名) 平常(私は通例六時に起きます) 我平常六點

つう

鐘起來の通例、常例、常行、常法(通例はさうだが、この場合は違) 按着常例說是如此可在此時不一様(當地の各銀行は通例六分の利子です) 這裡的各銀行常行是六釐利錢

つうろ 通路(名) 通路、通街、通衢

つうろん 痛論(名) 痛切的談論

つうろん 通論(名) 通論

つうわ 通話(名) 通話(通話度数計)

つか塚(名) 土堆兒、墳頭兒

つか束(名) 把

つか柄(名) 刀靶兒、筆管兒

つかあな 塚穴(名) 埋死人的坑

つかい 圖解(名) 圖解、圖說、圖考、以圖說明、用圖解說

つがいこつ 頭蓋骨(名) 腦蓋骨

つかいと 柄絲(名) 纏刀靶的繩子

つかがしら 柄頭(名) 刀靶的坐頭

つかさ司(名) 衙署(シヨ)、官署(ウ)、差使(ヤツ)

つかさざる 掌ル・司ル(四段他動) 掌理、掌管、司理、主持、司(事を司る) 司事(獄を司る) 司獄(國政を司る) 掌管國政(家政を司る) 主持家務

つかつか(副) 大搖大擺的(つかつかと進寄る) 大搖大擺的挨着進

つかぬ 束ヌ(下二段他動) 束、打捆兒

〔手を束ぬ〕 束手(藁を束ぬ) 把稻草打上捆兒

つかのま 束間(名) 一會兒的工夫、一息間、霎時、頃刻、片時

つか

つかはしめ 伺候神仙的禽獸

つかはしら 束柱(名) 排山柱

つかはす 遣ス(四段他動) 遣、遣發、遣派、打發、給

つかひ使(名) 使者、打發的人(使を出す) 打發人、遣人(使に行く) 買東西去、辦事去(使が歸つて來た) 打發去的人回來了(使の者に御渡し下され度候) 即望檢交去差(小价・去价) 帶回是荷(御使の方に渡し呈上仕候) 即交臺使(尊紀・貴价) 遞呈

つかひ番(名) 公母倆、一對(眼白の一番) 一對粉眼兒 節關(骨の番) 骨頭的節關

つかひかた 使方(名) 用法、使法

つか

〔君は道具の使方を知らない〕 你不明白東西的用法(旦那は下の者の使方がひどい) 老爺使喚底下人太利害(金の使方が荒い) 花錢花的太冲

つかひこなす(四段他動) 使喚得了

つかひ(名) 彼の腕前では逆もあれだけの人を使ひこなせない(看他那麼樣能耐我想到底使喚不了那麼些個人)

つかひこむ 使込ム(四段他動) 吞、侵

用、私用、私挪、竊用、虧短、侵吞(官金を使込む) 侵吞官項、私用公款

つかひて 使手(名) 使主、使喚

的主兒(道具も使手によつては役

つか

つか

あるから早く返事して下さい」我還得前路商量商量請您快快的給我回信

つか 都合何圓です」共總多少塊錢

つか 仕官、做官、當差

つか 支・問(名) ①礙、妨礙、礙事

つか ②噎、停滯(食間)(シヨク)食物停滯

つか つかへまつる仕ル(四段自動) 與仕

つか つかまつる仕ル(四段他動) 爲す、爲

る之恭敬語、尺牘多用此語(韋耕錄參考致し度候につき拜借仕り度候 韋耕錄一書現欲考察懇借稍用是荷(御手紙拜見仕候)現接到華翰

つか

つかまへる捉へル(下二段他動) 拿、捉、拿獲、捕拿、擒獲、捉拿、扶、揪(ヒツ)「巡查が賊を捉へた」巡警拿住了賊了(彼は私を捉へて放さない)他揪住我不讓走(意味が邈然として捉へ處がない)意思迷迷糊糊的沒有把持(この子は机を捉へて立ち出した)這個孩子扶着桌子會站起來了

つか つかまる捉ル(四段自動) 拿、捉、拿獲、捉拿、捕拿、扶、揪(先日貴下の家へ入った賊は捉りました)前幾天偷您府上的那個賊得住了(綱に捉る)揪着繩子(私に捉って居なさい)手を放すと落ちます)你揪着我罷撒手你就掉下去了

つか つかみ 把(土を一掴んで)

つか つかまへる捉へル(下二段自動) 乏、乏倦、疲勞、疲倦、困、困乏(今日は一日中歩きつめて疲れた)今天走了一天很乏了(今日は一日勉強して疲れたから明日は休まう)今天用了一天的功很乏了明天歇歇兒罷

つか つかれ 疲(名) 乏、累(疲がまだ治らない)乏還沒歇過來哪(昨日は無お疲でしたらう)昨天您想必是很乏了罷(彼の病氣は疲が出たのです)他的病是累出來的(病後の疲でまだ腰が立たない)因爲病累的腰還直不起來哪

つか つかんこと(名) 眞個的(Chin-ko) (つかんことを御尋致しますが今米の相場は如何です)眞個的

つか

投げる) 抓一把土揚

つか つかみあひ 掴合(名) 滾架、滾蛋、揪扭、打架、動武、交手仗

つか つかみあふ 掴合フ(四段自動) 滾架、滾蛋、揪扭、動武、打架、開交手仗

つか つかみころす 掴殺ス(四段他動) 攢死

つか つかみだす 掴出す(四段他動) 攢出去(犬の首を掴んで掴出しなさい)你抓着狗脖子把他攢出去

つか つかむ 掴ム(四段他動) ①抓、得、拏(偽物を掴む)得了假東西、上了人家的擋得了假的(泥を掴む)抓泥(米を掴み出す)抓出米來(手を掴む)執手、握手、拏手(要領を掴む)抓住要領(許(彼に金を掴ませて)かう云ふ風にやらせた

つか

のです)許了他幾個錢叫他這麼辦的(上擋、冤(偽物を掴まされた)被他拿假貨冤了(彼に一杯掴まされた)上了他的擋了(撲拏(敵を)、撲抄(上) [雲を掴む] 樣な話)雲烟兒的話

づから(接尾) 自己、親身(手づから渡す)親手交給(口づから)親口(身づから)親身、自己(自づから)自然

づからす 疲ス(四段他動) 弄乏(敵を疲す)把敵人弄乏

つか 漬ル(四段自動) ①醃得(漬物が漬る)鹹菜醃得了(淹、漬(大水が出て家が漬る)發了大水房子淹了(水に漬った代物)水漬的貨、潮傷的貨(海水)

つか

つか つかんこと(名) 眞個的(Chin-ko) (つかんことを御尋致しますが今米の相場は如何です)眞個的

つか つかまへる捉へル(下二段自動) 乏、乏倦、疲勞、疲倦、困、困乏(今日は一日中歩きつめて疲れた)今天走了一天很乏了(今日は一日勉強して疲れたから明日は休まう)今天用了一天的功很乏了明天歇歇兒罷

つか つかれ 疲(名) 乏、累(疲がまだ治らない)乏還沒歇過來哪(昨日は無お疲でしたらう)昨天您想必是很乏了罷(彼の病氣は疲が出たのです)他的病是累出來的(病後の疲でまだ腰が立たない)因爲病累的腰還直不起來哪

つか つかんこと(名) 眞個的(Chin-ko) (つかんことを御尋致しますが今米の相場は如何です)眞個的

つき

我問您一事情現在白米的行市怎麼樣

つき 月(名) ①月、月亮(月) ②月經、月水(三日月)月芽兒(滿月) ③圓月(弦月)弦月(月の初)月初、初幾(月の中頃)十幾兒(月の末)月底、二十幾兒(此月)本月、這月(先の月)上月(來月)下月(二と月)一個月(二た月)兩個月(三と月)三個月(月が出た)月亮出來了(月に百圓の收入がある)一個月有一百圓的進項(月が足らずに生れた)不够月兒生下了(學費は月月父が送って來ます)學費是每月我父親給送來(月と鼈程違ふ)差得天地懸殊(月が満ちて兒が生れる)足月兒小孩兒生下

つき

來了「此月は大の月ですか小の月ですか」這月是大建是小建「月を跨ぐ」占兩個月

つき 坏(名) 土器

つき 盡(名) 盡、過(運の盡)運氣過

つき 搗(名) 搗、確、串「此米は搗が十分でない」這個米確的不細

つき 附(名) ①着「この炭は附が悪い」這個木炭着的不快 ②隨、跟、附「公使館附武官隨公使的武官、公使館附屬的武官「聯隊附中佐」團附中校「御附の者」跟班的、跟隨的人 ③帶、付「模樣付の布」帶花樣的布「配當附」付有紅利、含有股息

つき 付(接尾) 様子「顔付」模樣兒「口付」嘴樣兒「言葉付」說話的

つき あたり 突當(名) ①碰 ②溜頭兒「路の突當」道路的溜頭兒、丁字路口

つき あたる 突當ル(四段自動) 碰(汽車と自動車)が突當った「火車碰上汽車了」私が突當ったのではない向うから突當ったのです「不是我碰的他他碰的我」此處を真直に突當って左へ曲って三軒目です「從這兒一直的走碰到頭兒往左一拐第三門就是

つき あつ 突當ツ(下二段他動) 撞(自動車)を電信棒に突當てた「把腳踏車撞在電信桿子上了」頭を柱に突當てた「把腦袋撞在柱子上

つき あはす 突合ス(四段他動) 對、照對、查對「元の帳簿と突合す」和

つき

つき

様子

つき 次(名) 次、下、第二、底下、回頭、下次、下回、緊接着「次の日」次日、第二天「次の頁」下篇兒「次の人」往下的人「其次」其次、往下「次の伴」二兒子「次の娘」二姑娘「次の日曜日」下禮拜日、下星期日「次は貴下の番です」底下到您的班了「次の停車場は何處です」下站是那兒「次の問題を解説せよ」試解説下問題「次に數個の例をあぐ」往下舉出幾個例來「合格の第一番は私で次は彼です」考中第一名就是我其次是他「此次に來た時買はう」下次我來時買罷「上等がなければ次の品でもよい」沒有上等的就是其

原眼對一對、對眼「書付と品數と突合す」按着單子對一對件數兒「顔を突合す」打了個照面

つき あはす 繼合ス(四段他動) 接合、接上、編上(茶碗、井鐵(鐵ナ)、煨鐵(同)、接鐵(同))

つき あひ 附合(名) 交際、來往「友達の附合」交朋友「親類の附合」走親戚、親戚往來

つき あひ 突合(名) 頂(牛が角で突合をする)兩隻牛用犄角頂

つき あふ 附合フ(四段自動) 交際、來往、交待「あの人は附合ひ悪い人です」他不是好交待的人「彼とは數年間親密に附合つて居ます」我和他親密的交往有好幾年

つき

つき

九九二

次的也可以「彼の次に坐りなさい」挨着他坐、貼近他坐「先づ英語を習ひ次に佛語を習ふ」先學英語回頭再學法語

つき 繼(名) ①補叮「着物に繼をあてる」衣裳上補補叮 ②嗣「彼は後繼がない」他沒有後嗣

つき あかり 月明(名) 月明、月光

つき あぐ 築上グ(下二段他動) 砌上、堆上「塀を築上げる」砌上牆「築山を築上げる」堆山子石兒

つき あぐ 突上グ(下二段他動) 往上推「後の方から突上げる」從後頭往上推

つき あげ 突上戸(名) 上摺的窓

つき あし 繼足(名) ①接腿兒 ②假腿

年「貴下が行くなら私も附合ひませう」你去我也可以做陪

つき あふ 突合フ(四段自動) 對扎「兵士が劍で突合ふ」兵拿槍刺對扎

つき いたす 突出ス(四段他動) 與つきだす同 「でる同

つき いづ 突出ツ(下二段自動) 與つき

つき いる 突入ル(四段自動) 闖進「敵陣に突入る」闖進敵陣

つき すす 搗白(名) 白子

つき すす 附馬(名) 跟孛客到他家裡去取錢的龜奴

つき うま 繼馬(名) 驛馬、馬撥子

つき うるし 繼漆(名) 黏接口的漆

つき おくり 月送(名) 推着月兒辦事

つき おくり 繼送(名) 按着次序往

九九三

つき

つきおとす 突落ス(四段他動) 撥落

下去(parley) 推落(斷崖の上から突落す) 打斷崖上推落

つきかかろ 突掛ル(四段自動) 挑

「槍で突掛る」拿槍挑 打「彼は怒って私に突掛って来た」他有了氣了打我來了

つきかげ月影(名) ①月亮、月光

②月陰、月亮照的陰涼兒

つきがけ月掛(名) 按着月兒上錢、每月上錢

つきがた月形(名) 月芽兒形

つきがはり月代(名) 按着月兒該班

つきかへす 突返ス(四段他動) ①往回推、推回、退回「善くない品は皆突返せ」不合理的的貨物都退回去

つき

罷(向うから突くと此方からも突返す) 他推我我也往回推他

② 避回「進物を突返す」把禮物避

つきかんな突鉋(名) 鉋子「回

つきぎ接木(名) 接樹(ツグ)、接的樹(ツギタ)

つきぎず突傷(名) 扎傷

つきぎめ月極(名) 包月、按月(月極で新聞を取る)包月看新報(月極で車を雇ふ)包月雇車(月極讀者)按月訂閱新報的

つききり附切(名) 在傍邊兒不離

つききり附切(名) 在傍邊兒不離

つききり附切(名) 在傍邊兒不離

つききり附切(名) 在傍邊兒不離

つききり附切(名) 在傍邊兒不離

つきころばす 突轉ス(四段他動) 推

つきさす 突刺ス(四段他動) 串透、扎

「槍で人を突刺す」拿槍把人串透

「竿を地に突刺す」把竹竿子扎在地上

つきぎを繼竿(名) 接竿兒

つきしたがふ 附從(四段自動) 跟、

跟隨、附從(後に附從って行く)在後頭跟着走(部下に附從ふ)在下跟隨(金融の逼迫には利息の騰貴が附從ひます)銀盤一緊利錢跟着就大起來了

つきしらぐ 搗精(下二段他動) 搗細

つきしろ月代(名) 剃頭

つきじろ月白(名) 玉頂兒(シロビタイノ馬)

つきずる月末(名) 月底、月梢

つき

つきこめ 搗米(名) 細米

つきこめ 搗米屋(名) 碓米房

つきころ 月頃(名) 這幾個月

つきころす 突殺ス(四段他動) 扎死

つき

つきころばす 突轉ス(四段他動) 推

つきさす 突刺ス(四段他動) 串透、扎

つきじろ月白(名) 玉頂兒(シロビタイノ馬)

つきずる月末(名) 月底、月梢

つき

冒、頂(風波を突切って港につく)衝冒風濤船進口了(雨風を突切

つて進む) 頂着風雨往前走

つききれ 繼布(名) 補叮

つきくたく 搗碎(四段他動) 搗碎、

碓碎、打碎、搗爛、砸爛

つきくづす 突崩ス(四段他動) 破、擊

破(敵陣を突崩す)破敵陣

つきげ月毛(名) 桃花馬

つきごし月越(名) 推着月兒

つきこむ 突込ム(四段他動) ①扎、刺

② 挿、挿入「兩足を泥に突込む」挿了兩脚泥(兩手をポケットに突込む)把兩隻手插在衣兜兒裏

③ 闖進、衝入「敵營に突込む」闖進敵營去、衝入敵陣 ④ 追問「一本突込んでやったら沈黙してしま

つきそひ 附添(名) ①服侍、伺候、

隨侍 ②服侍的人、隨侍的人、跟

人(附添人)同上

つきそふ 附添(四段自動) 服侍、伺

候、隨侍

つきだい 接臺(名) ①與臺木(たい)

同 ②板檯兒(ダイ)

つきだし 突出(名) ①推搡(あの相

撲は突出で勝ったのです) 那場兒

跤是以推搡得的勝 ②初首(大學卒業の者でも突出は五十圓位です)雖然就是大學校畢業的學生

初首兒也就是五十元上下的薪水

つき

つきだし 繼足(名) 找補、補上

つきだし しまと 突出(名) 上摺的

窓戶

つき

つきだす 突出ス(四段他動) ① 伸着、

伸出(足を外へ突出す) 把腿往外

伸着(蝸牛(カタツ)が角を突出す)

蝸牛兒伸出角來 ② 推出(怒って

彼を部屋の外へ突出した) 氣得

把他推出屋子外頭去了 ③ 挺出

(胸と腹を突出す) 挺胸凸肚

つきたす 繼足ス(四段他動) 續上、找

補、添上(油を繼足す) 續上油(煖

爐に石炭を繼足す) 洋爐子裡頭

添上煤(言葉を繼足す) 把話找

補找補(竿を繼足す) 把竹竿子

續上

つきたつ 突立ッ(四段自動) ① 扎上

(とげが突立った) 刺扎上了 ② 聳

立、壁立、直立(山が突立ッ) 山

峯聳立

つき

つきたつ 突立ッ(下二段他動) ① 挿立

(竿を地に突立てる) 把竹竿子挿

在地上立着 ② 推(非常の勢で突

立てたから彼は倒れた) 用猛力

推所以他倒了

つきたつ 繼立ッ(下二段他動) 換撥

つきたてば 繼立場(名) 站、驛站

つきたらず 月不足(名) 不够月兒、

日未滿而生的、未足月而生的、

先期産

つきぢ 築地(名) 塾的地

つきづき 月月(副) 毎月、月月兒、

按月的、月一次的(月月一回開

く) 毎月開一回 (月月一回の雜

誌) 毎月一次的報、月刊雜誌

つきづき(副) 一陣一陣的(齒が

つきづき(副) 牙一陣一陣的疼

つき

つきつぎに 次々(副) 挨着次序、

一個一個的(次次に渡す) 一個

一個的往下傳

つきつく 突付ク(下二段他動) 拿着、

擱在(證據を突付けて詰問する)

拿着對證追問(刀を鼻先に突付

けて嚇す) 把刀擱在眼頭裡嚇唬

人

つきてあて 月手當(名) 每月的津

つきでっばう 突鐵砲(名) 與紙鐵

砲(かみで) 同

つきとばす 突飛ス(四段他動) 推出

つきとばす 突通ス(四段他動) 串透、

扎透、刺透(槍で突通す) 拿槍串

透(錐で突通す) 拿錐子扎透

つきとばる 突通ル(四段他動) 串透、

つきば 繼場(名) 站、驛站

つきはつ 盡果ッ(下二段自動) 完了、

沒了、盡了(兵糧が盡果てた) 兵

糧全用完了(方法が盡果てた) 法

子都沒了、法子都盡了、用盡了

手段了

つきはなす 突放ス(四段他動) 推開

つきばらひ 月拂(名) 按月歸錢、月

つき

扎透、刺透(壁を突通らぬ) 硬

的扎不透

つきとむ 突止ム(下二段自動) ① 扎死、

刺死(槍で突止めた) 拿槍扎死 ②

斟問出來、查明、訪知(愈の所を

突止める) 斟問出事情的所以然

了、查其確實 ③ 尋着、打聽明白

(後に付いて行って住所を突止め

つき

る) 跟着他去尋着了他的住處

つきなみ 月並(名) ① 月月的、每月

有的、按月的、月一次的 ② 陳

腐、平平凡凡、平平無奇

つきに 次(接) 尺牘用語、再、再

者、順查……

つきぬく 突抜ク(四段他動) 穿、通(山

を突抜いて道を付ける) 穿山開

つき

道路(壁を突抜いて入口を開け

る) 把牆弄通了開一個門

つきぬく 突抜ク(下二段自動) 穿過

去、通着(この家は表町から裏町

まで突抜けて居る) 這個房子從

前街一直到後街通着(畑を突抜

けて通る) 穿過莊稼地走(桶の底

が突抜けた) 水桶底兒掉了

つき

つき(pot-ter-koi) 把人撥落開占了

自己的地步了

つきのさ 月障(名) 月經、月

水、癸水、月紅、月事

つきのでしほ 月出汐(名) 晚潮

つきのめぐり 月經(名) 與月障(つき

は) 同

つきのもの 月物(名) 同上

九九六

九九七

つき

つきまたげ月跨(名) 占兩個月

つきまどッ附纏(四段自動) 跟着、

纏繞、粘抓、跟着打轉(chiam)

兒(どこまでも)附纏(うて)離れな

い 走到那兒跟到那兒所離不

開(子供が母親に)附纏(ふ)小孩子

跟着母親打轉兒(乞食が)うるさ

く附纏(ふ)老花子纏繞我要錢很

討厭(病魔が)附纏(ふ)病魔纏身

つきみ月見(名) 看月、賞月(月見

の宴) 看月的宴會(月見月) (デキ)

桂月、中秋 「處、接合線

つぎめ接目(名) 接口、接縫、接合

つきもどす突戻(四段他動) 與突

返(つきか)同

つきもの附物(名) ①屬、連屬(鏡

に鍵は附物です) ②屬、連屬(鏡

③屬、連屬(鏡

④屬、連屬(鏡

⑤屬、連屬(鏡

⑥屬、連屬(鏡

⑦屬、連屬(鏡

⑧屬、連屬(鏡

⑨屬、連屬(鏡

⑩屬、連屬(鏡

⑪屬、連屬(鏡

⑫屬、連屬(鏡

⑬屬、連屬(鏡

⑭屬、連屬(鏡

⑮屬、連屬(鏡

⑯屬、連屬(鏡

⑰屬、連屬(鏡

⑱屬、連屬(鏡

⑲屬、連屬(鏡

⑳屬、連屬(鏡

㉑屬、連屬(鏡

㉒屬、連屬(鏡

㉓屬、連屬(鏡

㉔屬、連屬(鏡

㉕屬、連屬(鏡

㉖屬、連屬(鏡

つき

跟隨人、跟班的

つきもの繼物(名) 補町(繼物をす

る) 補補町

つきや春屋(名) 碓米房

つきやく月役(名) 與月物(つきのもの)同

つきやぶる突破(四段他動) ①捅

破(窓の紙を)突破(る)把窗戶紙捅

破(圍を)突破(る)圍を突破(る)

闖出重圍來 「石兒

つきやま築山(名) 假山子、山子

つきやる突遣(四段他動) 推開

つきよ月夜(名) 月夜(月夜鳥)

つきわり月割(名) ①按着月份合

算(ガリス)與月賦(つ)同

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つきん頭巾(名) 包頭、風帽

つき

同

つき附ク(即ク)就ク(着ク) (四段自動) ①

到、至(午後六時神戸に着ク)午

後六點鐘到神戸(船が着いた)

船到了(洪水が床(カ)に着ク)大

水到了炕上了(手紙はもう着い

たでせう) 信已經到了罷(就

就(師に)就(就)就師、投師(職に就

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

就座(就)就座(就)就座(就)

九九八

つき

「狐がつく」狐狸纏着了、狐狸裝

口(扎下、活)この木は根がまだ

附かない」這棵樹還沒扎下根兒

去哪(先月植替へた樹は)付きまし

たか」上月移種的樹活了沒有(

伏、上(鳥が巢に着く)鳥兒伏窩

「鶏が塒(ト)に着く」小雞兒上窩

⑤勻出(金の都合がつく)錢勻出

來了(時間の都合がつく)勻得出

工夫來了(着)着(火が着く)

火着了(このマッチは)着かない」

這個洋火劃不着(砂糖に)蟻が着

つき

可以看幾分利錢(六分の利につ

きます) 可以得六釐利息(有

「玉に傷が付く」玉上有傷(顔に

墨が付く) 臉上有墨(娘に傷が付

いた) 壞了姑娘的名聲了(印

「足跡がつく」印了脚印兒(跟、

跟隨(私に)附(いて)來(なさい)跟着

我來(先生に)就(いて)學(ぶ)跟着先

生學習(彼は)支那語(の程度は)好

くないが先づ附(いて)行(かれます)

他的中國話程度不大好可還隨

「跟」得上(壁に)附(いて)廻(って

つき

行(く)靠着牆邊走着(關

「彼の

身上(について)相談(致したい)關(于

他身上的事我要和你商量(打

「よい」思案(がつかない)打不出好

主意來(得

「病附(いて)からもう

「病附(いて)からもう

「病附(いて)からもう

「病附(いて)からもう

「病附(いて)からもう

「病附(いて)からもう

九九九

靠、攏〔船を岸に着ける〕把船攏
到岸、把船靠岸②講、給〔値段を
つける〕講價兒、要價兒還價兒
〔三十圓に付けたが負けなかった〕
我給三十圓的價兒他還不讓③
預備〔番人を付けておく〕預備下
一個看守的人④擦〔白粉を付け
る〕擦粉〔紅(ベ)を付ける〕擦胭脂
⑤使〔頭に油をつける〕頭髮上使
點兒油⑥開〔雪を拂って道を付け
る〕掃雪開道路⑦跟、跟隨〔後を
付けて行く〕跟隨在後頭、在後
頭跟下去〔彼の後を付けて東京
に行った〕跟着他的脚踪兒追到
東京去了⑧記、上、落〔試験の點
を付ける〕記考試的分數兒〔帳
面を付ける〕上賬、記賬、落賬〔標

〔シム)を付ける〕記上記號〔番號を
付ける〕記號數⑨穿〔禮服を着け
る〕穿禮服⑩點、打〔提灯をつけ
る〕打燈籠〔ランプを着ける〕點
洋燈〔電燈をつける〕點電燈、把
電燈捻開〔ヒキ)⑪弄〔火を着ける〕
把火弄着⑫蘸〔水を付けて擦く〕
蘸上水擦〔砂糖を付けて食べる〕
蘸上糖吃〔醬油を付ける〕蘸上醬
油⑬黏〔附箋を付ける〕飛箋兒、
黏上附箋⑭掛〔機關車をつける
(客車に)〕掛火車頭⑮釘〔釘(ボタ)
をつける〕把釘子釘住⑯上〔藥
を付ける〕上藥⑰拿〔節を付けて
歌ふ〕拿着調兒唱⑱提〔鹽で味
を付ける〕拿鹽提味兒⑲出來
〔見付ける〕看出來〔開き付ける〕

聽出來、聽見說了⑳開、上〔投
げ付ける〕扔開〔壓へ付ける〕壓
上、壓住㉑慣〔私は歩き付けて居
るから疲れない〕我走慣了不累
㉒漿〔着物に糊をつける〕用粉子
把衣裳漿一漿〔難癖をつける〕
挑剔〔傍から力を付けてやる〕在
傍邊兒鼓舞他〔滋養物を食へて
力を付ける〕吃滋養的東西養身
子〔氣を付けてする〕小心着辦
〔彼は早くからの事業に目を付
けて居た〕他早就於那件事情上
下了心了
つく盡ク〔上二段自動〕盡、滿、完、竭、
耗〔精力が盡きる〕精力耗竭、心
力費盡〔力が盡きる〕力竭〔財源
が盡きる〕耗盡財源〔力盡きて敵

に降る)力盡降敵〔契約の期限が
盡きた〕契約上の期限滿了〔面
白くて興が盡きない〕很有趣兒
高興的沒結沒完〔高興的了不
得〕〔なん)話しても話が盡きな
い〕怎麼說也說不完
つく築ク〔四段他動〕①砌〔塀を築く〕
砌牆、打牆②打〔竈を築く〕打灶
③堆〔築山を築く〕堆山子石兒
つく突ク〔四段他動〕①扎、刺〔針で
突く〕拿針扎②撞〔鐘を突く〕撞
鐘③戳〔指で突く〕拿指頭戳④
闖、衝〔敵陣を突く〕闖敵陣、衝
擊敵營〔口を突いて出る〕衝口而
出⑤跪〔膝を突く〕跪着叩膝蓋
兒⑥吐〔反吐(ヘ)を突く〕嘔吐⑦
頂〔雨を突いて歸る〕頂着雨回家

來了⑧揉〔力を込めて突く〕使勁
的揉⑨說、撒〔嘘(ウソ)を突く〕撒
謊、說謊話⑩抹〔喉(ノド)を突いて
死ぬ〕抹脖子死⑪拍〔毬を突く〕
拍毬⑫打、捅〔玉を突く〕打檯球
兒、打捅球兒
つく搗ク〔四段他動〕搗、確、春〔臼で
搗く〕在臼裏搗
つく漬ク〔下二段他動〕①泡、漚②醃
〔白豆を水に漬ける〕把黃豆擱在
水裡頭泡〔胡瓜を鹽に漬ける〕把
黃瓜拿鹽醃
つく次グ〔四段自動〕次、亞
つく注グ〔四段他動〕①倒、灌〔鐵瓶
に水を注ぐ〕開水壺裡頭灌上水
②斟〔杯に酒を注ぐ〕酒杯裡頭斟
酒③添〔御飯をつぐ〕添飯

つく繼グ〔接グ(四段他動)〕①承、繼、
襲、嗣、接續〔他人の家を繼ぐ〕承
繼別人的家當兒子〔位を繼ぐ〕
嗣位、繼位、接位、承大統、承接
王位〔家督を繼ぐ〕承襲家業〔竿
を繼ぐ〕接竹竿〔骨を接ぐ〕接骨
頭〔木を接ぐ〕接樹〔電話をつぐ〕
接電話線⑤添〔炭をつぐ〕添木
炭⑥鍋、補〔茶碗を繼ぐ〕鍋茶碗
〔鑄掛師が鍋をつぐ〕小爐兒匠錁
上鍋〔補鍋〕〔着物の破を繼ぐ〕補
衣裳
つく告グ〔下二段他動〕告、告訴、報
告〔これを彼に告げて下さい〕請您
把這話告訴他〔誰が、この事を彼
に告げたのか〕誰告訴他這件事
情的〔鷄鳴曉を告ぐ〕鷄鳴報曉

「あの工事も終を告げた」那個工程也告竣了「終を告ぐ」告終、告竣「二段落を告ぐ」告一段落
 つく 銑(名) 與づくてつ同
 つく 木莖(名) 貓頭鷹
 つく 盡(接尾) 以、拿、妥「腕づくで取る」以力得取「向うは金づくで来るから叶はない」他們拿財力來辦所以我敵不住「これは相談盡でし事たです」這是僑們商量妥了纔辦的
 つく 佛掌薯(名) 與つくねい
 つく 土筆(名) 問荊
 つく 盡(接尾) 俱全、具備之意「國盡」萬國國名「苗字盡」(メウジ) 百家姓
 つく 盡(四段他動) 盡、竭、效「國

の爲に盡す」爲國盡心、給國家効力「一言にて盡し難し」一言難盡「彼は私の爲には随分盡してくれた」他爲我很盡了心了「力を盡す」盡力、竭力「風景筆紙に盡し難し」風景筆紙難描「この文章はよく意味を盡して居る」這一篇文章把意思都說盡了「家財を使ひ盡す」費盡家財「精力を使ひ盡す」耗盡精力「言ひ盡す」說盡「金を使ひ盡す」錢都花沒了、費盡了錢財「あらゆる手段を盡す」用盡了手段、無計不施「善美を盡す」盡善盡美「人事を盡して天命を待つ」盡其人力聽其天命「數を盡す」盡數、悉數
 つく 盡(四段他動) 個

つく だに 佃煮(名) 醬小魚兒
 つく づく 熟(名) ①細細兒的「つくづく將來を考へる」細細兒的想想將來「つくづく眺める」細細兒的看②實在「私はそれを聞いてつくづく感心した」我聽他說的實在佩服
 つく づくし 土筆(名) 問荊
 つく つくほふし(名) 伏天兒
 つく てつ 銑(名) 生鐵
 つく なひ 償(名) 與つくのひ同
 つく なふ 償(四段他動) 與つくのふ同
 つく にふ 木莖(名) ①胖和尚似
 つく ねいも 佛掌薯(名) 山藥、茯苓
 つく ねにんぎやう 捏人形(名) 泥

人兒

つく ねる 捏(下二段他動) 捏、活
 つく ねんど 癡獸狀的「つくねんと一人で坐って居る」癡獸狀的一個人兒坐着
 つく のひ 償(名) 賠償、賠還、贖
 つく のひきん 償金(名) 賠款
 つく のふ 償(四段他動) 賠償、賠還、贖、抵、補償、填補「損害を償ふ」賠償損害「金で罪を償ふ」以錢贖罪「收支相償ふ」出入相抵「功過相償ふ」功過相抵
 つく ばね 衝羽根(名) ①雛兒(鳥ノ羽)
 つく ばね 肥子兒(子)
 つく ばふ 躑躅(四段自動) 躑

つく ほう 突棒(名) 狼牙棒
 つく む 噤(四段他動) 噤、閉口、緘口
 つく 口を 噤む 閉口無言、緘口不言
 つく め 一概都是「あの娘の頭飾は寶石づくめです」那個姑娘的首飾一概的都是寶石做的
 つく め 與づく同「金づくめで云ふ事を聞かせる」許給他錢叫他答應了
 つく り 造・作(名) ①造的、做的「此家は造が粗末です」這個房子做的糙②打扮的「あの女は造が派手です」那個婦人打扮的很華美「あの女は若作です」那個婦人打扮的很少像③生魚片
 つく り 字旁(名) 字旁

つく り いたす 作出(四段他動) ①做出來②出產出來
 つく り いづ 作出(下二段他動) 同上
 つく り かた 作方(名) ①做法「作方は如何しますか」怎麼樣做法②做的「この家具は作方が下手です」這個傢俱做的不高③種法(chung' fa)「土地が悪いのではない作方が悪いのです」不是地不好的緣故就是農家不知道種法
 つく り 兒 女は作方で丸で見違へる様になる」女人看他的打扮兒實在變了樣兒似的
 つく り かは 革(名) 與なめしがは
 つく り かふ 作替(下二段他動) 改做、重新作、再作、又作、另作
 つく り ごと 作事(名) 假事(chia?)

つけ

つげつけ(副) 叨叨念念的「つけつけ小言を云ふ」叨叨念念的說碎嘴子的話

つけて(動) 關於「此處は何かにつけて不便です」這個地方關於甚麼事情上都不方便「貴下の話につけて私も一つ思出した事がある」關於您所說的話我也有一件想起來的事情

つけどころ 着所(名) 着眼的地方

つけとどけ 附屆(名) 禮物、節敬

つげな漬菜(名) 鹹菜

つげね附根(名) 根兒「股の附根」大腿根兒

つげね附直(名) 買主兒出的價兒

つげばな附鼻(名) 假鼻子(chick)

つげび放火(名) 放火

つじばしや 辻馬車(名) 站口子的馬車

つじばん 辻番(名) 看街的(chick)

つじみせ 辻店(名) 攤子

つじやう 頭上(名) 頭上、腦袋上

つじよ 圖書(名) 圖書「圖書館」
つせつ 圖說(名) 圖說
つた葛(名) 蔓草之名、常春藤
つた寸莎(名) 與寸さ同
つた頭陀(名) 頭陀「頭陀袋」
つた和尚掛的口袋
つたぶた(副) 一段兒一段兒「ぶたぶたに切る」一段兒一段兒的切
つたなし 拙(形久活) 拙、笨、不

つしつた

つけつし

つけひげ 附鬚(名) 假鬚子

つけびと 附人(名) 伺候的人、服侍的人

つけひも 附紐(名) 小孩子衣裳上

つけふだ 附札(名) 籤兒

つけぶみ 附文(名) 情書

つけまげ 附鬚(名) 假頭髮(chick)

つけもの 漬物(名) 鹹菜

つけやき 附燒(名) 紅燒

つごもり 晦(名) 月底

つごう 頭瘡(名) 腦袋上的瘡

つぎん 杜撰(名) 杜撰(文)、疎忽的、

つじ辻(名) 十字路口

つじ旋毛(名) 與つむじ同

つじ厨子(名) 佛龕櫃子
つじ途子(名) 衚衕兒、小巷
つじあきなひ 辻商(名) 擺攤子的

つし

つじうら 辻占(名) 卦籤子

つじうり 辻賣(名) 與辻商(つじあきなひ)同

つじかうしやく 辻講釋(名) 在大街上說書的

つじかぜ 旋風(名) 羊角風、颶風

つじき 圖式(名) 圖樣

つじぎみ 辻君(名) 土娼

つじぐるま 辻車(名) 站口子的車

つじせっぽう 辻說法(名) 在街上講

つじだう 辻堂(名) 五道廟

つじつじ 辻辻(名) 各十字路口「辻辻を固める」把守各十字路口

つじつま 辻褻(名) 前後「辻褻が合はぬ」前後不符、前言不應後語、前言不答後言「辻褻を合はす」使前後照應、使首尾貫徹、使首尾一致

つたへ 傳(名) 傳(chuan)「安好

つたへきく 傳聞(副) 傳聞、聽說

つち土(名) 土、泥、坭「着物に土がついた」衣裳上着泥土「面色土の如し」面色如土②地、地土、土脈「此處は土が好いから作物が出来る」這兒的地土好所以莊稼長得好「草木は土が變るとつかな

つたつち

一〇〇七

一〇〇六

つち

い) 移種草木若是土脈不一樣就要死「あの力士は土つかずです」那個陸路的一回也沒輸過
 ⑤ 陶土、白土
 つち 槌(名) 槌子(名)、狼頭(名)、木槌(名)、木頭槌(名)
 つちあな 土穴(名) 土窖
 つちいろ 土色(名) 土黃色「顔が土色になる」臉嚇白了
 つちがご 土籃(名) 土筐子
 つちかふ 培(名) 培(四段自動)
 つちかべ 土壁(名) 土墻 「兒
 つちくさし 土臭(名) 有土味
 つちぐも 土蜘蛛(名) 土蜘蛛
 つちぐら 土倉(名) 土窖
 つちくれ 土塊(名) 土塊
 つちけぶり 土煙(名) 揚起來的土

つち

つちぎいく 土細工(名) 泥做的活
 つちせい 土製(名) 泥做的
 つちなべ 土鍋(名) 沙鍋
 つちならし 土均(名) 塾地
 つちにんぎやう 土人形(名) 泥人
 つちのえ 戊(名) 戊
 つちのこ 己(名) 己
 つちばし 土橋(名) 土橋
 つちぶね 土船(名) 運泥土的船
 つちふま 土不踏(名) 脚心
 つちふる 土篩(名) 土篩子
 つちふるひ 土篩(名) 土篩子
 つちへん 土偏(名) 提土兒
 つちほこり 土埃(名) 土(今日)は土埃(今日)は土
 つちほとけ 土佛(名) 泥佛
 つちやき 土燒(名) 瓦器、泥性的

つちつつ

一〇〇八

つちらう 土牢(名) 土牢
 つつ 筒(名) ① 筒「竹筒」竹筒兒「煙突の筒」煙筒「紙筒」紙筒兒「ぶりきの筒」洋鐵筒兒 ② 槍筒子(名) ③ 槍、礮 ④ 井口兒、井臺兒
 つつ ① 且、一面……一面「飲みつつ語る」飲且語、一面喝一面説 ② 着「雨降りつつある」雨下着哪
 づつ 宛(名) 每「子供に菓子を五つづつやる」每一個小孩兒給五個點心「一つづつ取出す」一個個兒的拿出來「順序に一人づつ読む」按着次序一個人念完了「個人念」各人が一ヶ月に二圓づつ出す」每人每月拿兩塊錢「巡查を二人づつ配る」把巡查兩個人兩個

つち

人的布置
 づつ 頭痛(名) ① 頭疼、腦袋疼、疼 ② 惦记、懸心「彼は此年末を頭疼にして居る」他很惦记這年底
 つつが 恙(名) 恙「恙無し」無恙
 つつかかる 突掛ル(四段自動) 與つきかかる同
 つつかひ 突支(名) 支、搯、頂「突支柱」頂的柱子、頂柱「突支棒」頂的棍子、餞木、挺棍
 つつかふ 突支(四段自動) 頂、搯、餞、撐「棒で突支ふ」拿棍子頂「突支棒で突支ふ」拿餞上、拿挺棍頂上 「きかへす同
 つつかへす 突返ス(四段自動) 與つ

つち

つづき 續(名) 連着、接着、連續
 「今日は昨日の續を講義します」今天接着昨天講「あの小説の續はまだ出ませんか」那個小說的後套「續編」還沒出來了麼「二軒續の家」兩處兒連着的房子
 「地續」地隣「災難續」災患相連、屢次的鬧禍害「前の續」前、承前、續編
 つづきもの 續物(名) 連臺合演(名)
 つつぎり 筒切(名) 與わぎり
 つつきる 突切ル(四段自動) 與つききる同
 つつく 突ク(四段自動) ① 啣、啣、啄「鳥が木を突く」鳥兒啣木頭「嘴(口)で突く」用嘴啣 ② 捅「蜂の巢を突く」捅蜂窩「自分で禍を突

つち

一〇〇九

き出す」自己捅出禍來 ③ 挑唆「この事件は誰か蔭で突いて居るのだ」這件事情背後裡有人挑唆的 ④ 離間「二人があまり仲が好いので妬んで突くのです」他們倆很對勁有人嫉恨給離開
 つづく 續ク(四段自動) 連、續、繼、連續、連接、接連着「此雨は三日續いた」這場雨連下了三天「學資が續かない」學費接不上了「天氣がよく續きます」接連着好天氣「年年豊年が續く」連年豐收「後(後)續く」接連不斷、陸續相繼、接續相連「彼は金遣が荒かったが近來は後が續かない」他從先那麼揮霍可是近來後力不佳了「今度の芝居は大入だから又續

つづる綴ル(四段他動) ①綴合、連綴、拼綴(文字を綴る)綴合文字(詩歌を綴る)綴合詩詞 ②釘(帳面を綴る)釘帳本

つづれ綴(名) 檻襖、破爛(つづれを着る)穿破爛、穿檻襖的衣裳

つづる筒井(名) 圓井

つて傳(名) 引線(傳に聞く)風聞、聽人說(傳を求める)求引線、求

つと苞苴(副) 苞苴、土物 「負縁」と立止まる ①「忽然間」站着 ②「都度」(名) 一、每次(彼は来る都度御飯を食べて歸ります)他

つと(副) ①「一瞬的」(つと差寄る)「一瞬的臨近」②「忽然間」(つと立ち止まる)「忽然間站着」(つと都度)(名) 一、每次(彼は来る都度御飯を食べて歸ります)他

つな(名) ①「起圖様、打圖様、畫圖様」(家の圖取)房子圖様、房屋圖様 ②「と放す」咕噎的放大礙

つな(名) 繩子

づな(名) ①「頭腦」(名) ②「頭目」

つな(名) 繫ル(四段自動) 繫(船が岸に繫る)船繫在岸上

つな(名) 繫(四段他動) 繫、拴(馬を繫ぐ)拴馬(船を岸に繫ぐ)把船繫在岸上(絲を繫ぐ)繫上線

つと(名) 接、掛(本局八十三番へ繋いで下さい)給我接本局八十三號(あの汽車は二十三臺の客車を繋いで居る)那個火車掛着二十三輛客車 ③攢(珠數を繫ぐ)攢念珠兒(親子三人漸く命を繫ぐ)母

來就必擾飯(缺席の都度届け出づべし)一告假就得報到學校

つと(副) 夙(副) 夙、早(夙に起き夜に寝ぬ)夙興夜寐(夙に學に志す)夙志于學(御芳名夙に承知致居候)夙聞駿望

つと(副) 集(四段自動) 聚、集

つと(副) 勤(四段自動) 當得了(この役は彼に勤まるか知ら)這個差他當得了當不了

つと(副) 勤(四段自動) 勤、勉、當、用功(學校の教師を勤める)當學校的教習(私は外務省に勤めて居ます)我是外交部當差(あの小使はよく勤めます)那個底下人很勤謹(勤めて怠らざれば必ず上達する)好好的用功

つな(名) 子三人對付着過日子 以外的

つな(名) 綱手(名) 縲繩子(綱手繩) 河、拉繩子、拽繩角力

つな(名) 津浪(名) 海嘯

つな(名) 網渡(名) 扯着繩子擺

つな(名) 網渡(名) 踩軟繩、走索、繩伎、戲繩、走繩索、緣繩走索

つな(名) 圖拔(名) 出羣、出衆、出號、超羣、超拔、超越、拔羣、出類拔萃

つな(名) 圖拔(名) 圖拔(ケル)(下一段自動) 同上

不懶惰就一定上進(勉めて本を讀む)勉勵念書(女役を勤る)(役者)扮花旦、取花旦

つと(副) 勤(名) 職、任、務、任務、職務、事務、差使(自分の務を大事にする)拿自己的職務致重(貴下のお勤は何ですか)您在那裡

つと(副) 勉(副) 勉、勉(勉めて同心した)勉強答應了

つと(副) 勤(名) 勤人(名) 吃薪水的人

つと(副) 勤(名) 勤向(名) 做官之道

つな(名) 超羣(名) 超越的能耐

つな(名) 平常、平生、平素、每常、常(常となら三十分も早く來た)比每常早來了三十分(常なら五圓以上もする品です)若是平常時值五塊多錢的東西(あの日も常の如く出勤した)那天也照常上官署去了(これは常の品とは差ひます)這是和平常的東西不一樣(そんな事は彼等の常だ)這是他們平常的事情(私は食事前に風呂に入るのを常として居る)我頭吃飯洗澡這是常事

つな(名) 頭熱(名) 腦袋有火

つな(名) 平常、平生、素

日、平素〔常常云ひ聞したのほ此
事だ〕我素日勸你的話就是爲
這件事〔常常から考へて居た〕打
平常就想着來着
つねなみ常並〔名〕 平常、尋常〔彼
は常並の女でない〕他不是尋常
的女子

つねに常〔副〕 常、平常、素日
〔これは常に有る事です〕這是常
有的事情〔私は常に頭痛がしま
す〕我平常愛腦袋疼〔彼は常に
注意を怠らない〕他素日時時刻
刻的留神

つねびと常人〔名〕 平常人、庸人
つねる抓ル〔四段他動〕 與つめる同
つの角〔名〕 犄角〔牛の角〕牛犄角
〔鹿の角〕鹿犄角〔馬の角〕水牛

兒犄角〔細君が角を出す〕媳婦兒
吃醋
つのかくし角隠〔名〕 結婚禮新人

つのつき角突〔名〕 ①頂犄角〔角デツ〕
②鬪牛、頂牛兒 ③犯犄犄兒〔ナカ
キアツ〕

つのつきあひ角突合〔名〕 同上

つのはし角箸〔名〕 犄角做的筷子

つのもだつ角目立ツ〔四段自動〕 ①立
了眼睛 ②犯犄犄兒〔ナカキアツ〕

つのもつきあひ角目突合〔名〕 犯
犄犄兒

つのもる募ル〔四段他動〕 募、招、招募
〔學校が生徒を募る〕學校招募學生
〔生〕巡查を募る〕招巡警〔義捐金
を募る〕募集捐款

つひき圖引〔名〕 起圖樣、畫圖〔圖
引機械〕〔キカイ〕畫圖儀

つひぞ終ツ〔副〕 總〔不〕、並〔不〕
〔つひぞ行つた事はない〕我總沒
去過

つひに終二〔副〕 ①終、到了兒、到
底、畢竟〔終に志を遂げた〕到了
兒如意了、畢竟達到了目的〔終
に絶交した〕末了了兒絶了交了
〔終に來なかつた〕到了兒沒來
總、並〔訪問しやうと思つて居て
もつひに行かなかつた〕想着要拜
訪去可總沒去過

つひやす費ス〔四段他動〕 費、花〔無
益に金を費す〕白花錢、妄花錢
〔無駄に時間を費す〕妄費工夫、

つのもる募ル〔四段自動〕 漸漸的利害
〔病が募る〕病漸漸的沈重〔奢が
愈募る〕奢華越發的利害

つは睡〔名〕 與つばき同

つば睡〔名〕 同上

つば鏢〔名〕 ①護手〔刀の鏢〕刀的
護手 ②沿兒〔帽子の鏢〕帽沿兒、
帽簷兒

つばき唾〔名〕 唾沫〔吐沫〕唾す
る〕唾唾沫〔手に唾する〕唾拳磨
掌〔唾を飛ばして話す〕說話迸吐

つばきは鏢際〔名〕 茶花
つばきは鏢際〔名〕 刀尾巴兒

つばくらめ燕〔名〕 同上

つばくる燕〔名〕 同上

つひ費工夫〔努力を費す〕費力氣
つひゆ費工〔下二段自動〕 費、花

つひゆ潰ユ〔下二段自動〕 潰

つぶ粒〔名〕 粒、子兒〔米の粒〕米粒
兒〔粟の粒〕穀子粒兒〔胡麻粒〕
兒〔芝麻粒兒〕珠數の粒〔念珠
兒〕的兒〔箕盤の粒〕〔ハコバン〕算
盤子兒〔豆粒〕〔豆〕豆粒〔一粒の
穀物も出來ない〕連一顆一粒的
糧食都不長

つぶぎれ粒切〔名〕 碎切

つぶぎん粒銀〔名〕 碎銀

つぶさ具・備〔副〕 具、備〔備に辛苦
を嘗む〕備嘗辛苦

つぶし潰〔名〕 ①潰 ②廢、毀、鎔 ③
迷〔目潰〕迷眼睛〔此金物は潰に
しても百圓の値打がある〕這個金

つはつれ圖外〔名〕 張翅蹄兒
つばな茅花〔名〕 茅草花兒
つばめ燕〔名〕 燕子〔若き燕〕年輕
的情夫
つばもと鏢元〔名〕 刀尾巴兒
つばもの兵〔名〕 ①兵 ②軍火、兵
つばり惡阻〔名〕 喜病、喜脈 〔器
つばる惡阻ル〔四段自動〕 有喜、得喜
つばん圖板〔名〕 圖板 〔病
つひ終〔名〕 終焉
つひえ費〔名〕 費、費用、嚼用〔無
用の費を省く〕儉省無用的花費
〔此處で一ヶ月の費〔生活〕は何程で
すか〕這塊兒一個月有多大嚼
用

まされる」叫人情絆住、礙着情面、情面所關

つまし儉シ(形志久活) 儉省

つましらべ 爪調(名) 調琴、調韻

つまじろ 端白(名) 鑲白

つまだつ 爪立(名) 拿脚尖兒站着、翹着脚

つまづく 躓ク(四段自動) ①躓、絆、摔(石に躓く) 石頭絆倒(躓いて倒れる) ②碰(事が躓く) 事情碰了、事情碰了釘子了「邊

つまざる 襖取ル(四段他動) 撩起襟

つまね 爪根(名) 指甲根兒

つまはじき 爪彈(名) 指彈、嫌厭、嫌惡、輕蔑、藐視、瞧不起

つまびき 爪彈(名) 用指頭彈琴

つまびら 爪詳(名) 詳細、顯明(詳細)

に話す」詳細細細的說「事の事情を詳にする」顯明事情的所以然「詳なる報道に接した」接了詳細的信息

つまみ撮(名) ①撮(一撮の鹽) 撮鹽

つまみあらひ 撮洗(名) 挑着洗

つまみぐひ 撮食(名) ①捏着吃(指ニ食フ) ②偷嘴吃(グヒ)

つまみこむ 撮込(四段他動) 捏進去

つまみだす 撮出ス(四段他動) 捏出來

つまみとる 撮取ル(四段他動) ①捏着

②擇取(ヨリド)

つまむ 撮ム(四段他動) ①指(花を撮み取る) 拈花兒

②捏(鼻を撮む) 捏着鼻子

③指先で撮む(用指頭尖兒捏) ④摘、撮(要を撮む)

撮む」撮要、摘要(要點を撮んで書く) 摘要緊的地方寫

④挾(箸で菜を撮む) 拿筷子挾菜

⑤迷糊(狐に撮まれる) 叫狐狸迷糊

⑥姦(女中を撮む) 姦頭

つまやうじ 爪揚枝(名) 牙籤兒

つまらぬ 詰ラナイ(形久活) ①沒能耐、稀鬆平常的、平平無奇

「あの人間は詰らない人間だ」他是稀鬆平常的人(行つて見れば詰らない處だった) 一去看就是平平無奇的地方

②沒用處、沒益處、不濟的(かうして何もせず居ても詰らない) 如此閒着任甚麼不做也沒益處(これは詰らない本だ) 這是沒用處的书(詰らない物) 不濟的東西(詰らない物)

ない物でも十圓する」至不濟的也得十元

③粗(詰らない品です) 詰不上げます」這是粗東西奉送

懲罷(不要緊) 「詰らない事から喧嘩をはじめた」爲不要緊的話就抬起來了(彼は詰らない話ばかり云つて居る) 他竟說沒要緊的話

④沒意思、沒趣兒、憂悶的(家にばかり居ても詰らない) 竟在家裡悶着也沒意思(詰らなく月日を暮す) 憂憂悶悶的度日、日坐愁城

つまり詰(名) 極處、到頭(此處は行詰です) 這塊兒是到了頭兒的地方(普通の士官は大尉が詰です) 平常的武官陞到大尉也就到頭兒了

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つまり詰(名) 究竟、畢竟、到底、總是(詰り誰が間違つたので) 究竟是誰的錯兒(詰り外國の事情を知らないからです) 總是明白外國事情的緣故(彼の説も君の説も詰りは同じ事なので) 究竟起來他所說的和衆說的歸於同理(詰り喧嘩になつてしまひました) 到底他們打起架來了

つまる 詰ル(四段自動) ①堵、堵住、塞住、閉塞(煙管が詰る) 烟袋堵住了、煙嘴子閉塞不通

②噎住(痰が詰る) 痰噎住

③不痛快(風を引いて鼻が詰る) 傷風鼻子不痛快

④憋(息が詰る) 憋氣

⑤裝(道具が箱に一杯詰つて)

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

つま

居る」傢俱滿裝在箱子裡頭

①短、短促(金錢に詰る) 錢短(日が詰る) 天短(丈が詰る) 尺寸短(日數が詰る) 時候短促

②滿(電車に客が詰る) 人滿在電車上(部屋が詰つて居る) 屋子都有人住滿了

「初めての家に行く」とかく氣が詰ります」上生人家兒裡去老愛怕怕子(返答に詰る) 回答不上來(彼の家は餘程詰つた様だ) 他們家很窮的樣子(此頃は) 何もよい事がなくて詰りません」

近來沒甚麼佳況實在不如意

つまる 詰ル(四段自動) 與つまり同

つまをる 端折る(四段他動) 折上尖兒

つみ 罪(名) 罪、罪惡、罪戾、罪辜、

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

つまつみ

罪孽、罪過兒〔罪を犯す〕犯罪、犯法〔罪を赦す〕赦罪、宥罪〔罪を贖(ナグ)ふ〕贖罪〔罪がない〕無罪、沒罪、無辜、沒罪過〔罪に行ふ〕定罪、辦罪、懲治、處治〔罪を造る〕造孽〔罪のない子供〕佛心的孩子〔罪のない事を云ふ〕説閒話〔罪、これより大なるはなし〕罪莫大於此

つみあぐ積上(下二段他動) 堆上、堆積〔山の如くに積上げる〕堆積如山

つみいし積石(名) 堆的石頭

つみおくる積送ル(四段他動) ①發送、發去 ②裝車船送、起運

つみおろし積卸(名) 裝卸、上貨卸貨、裝載和起卸

つみかさなる積重ル(四段自動) 堆積、累積

つみかさぬ積重ヌ(下二段他動) 堆積、累積、堆上、堆起來、摞起來〔高く積重れる〕高高的堆起來〔商品を倉庫に積重れる〕把貨堆在棧房裏

つみかた積方(名) 堆的法子、堆積

つみかふ積替フ(下二段他動) 換着堆、駁貨(商品)、盤駁(荷物)、轉載(他二)、撥運(同)、換船(同)

つみき積木(名) ①堆的木料 ②七巧圖、益智圖、積木

つみきん積金(名) 攢的錢、存的

つみくさ積草(名) 蹈青

つみこむ積込ム(四段他動) 搭、搭載、裝載〔船に荷物を積込む〕船

上搭載貨物、上貨〔石炭を積込む〕裝煤〔注文の品急ぎ積込御送下され度候〕所定各貨速裝發來爲感〔御注文の品は既に調へ何月何日出帆の何丸に積込み發送致すべく候〕蒙訂各貨已經配齊裝載某月某日開往之某輪船發去

つみす罪ス(左段他動) 罰罪、譴過、定罪、辦罪、治罪、懲治、科罰、責罰

つみだす積出ス(四段他動) 搭載上、積みだつ積立ツ(下二段他動) 存、攢、積存、儲存〔金を積立てる〕存錢、攢錢、積存錢財〔毎月積立てた金〕毎月儲存的錢

つみたてきん積立金(名) 存的錢、攢的錢、存款、存項、公積(庫)

つみつくり罪作(名) 造孽

つみな摘菜(名) 搨出來の白菜

つみに積荷(名) 貨物、搭載的貨物、裝載的貨、裝載的物件、運品〔積荷證書〕(ヨウシヨ)總單、總貨單、載紙〔積荷主〕(ヌシ)寄貨者、發主〔積荷目錄〕(クロク)船口單

つみびと罪人(名) 罪人、囚犯

つみほろほし罪滅(名) 消孽、滅罪、消罪、解罪惡、解罪自贖、懺悔自懲、補贖

つむ紡錘(名) 紡錘、與ぼうすの

つむ積ム(四段自動) 堆、積〔雪が積む〕雪堆着〔雪が三寸餘積んだ〕下的雪有三寸多深〔月日積み累る〕日積月累

つむ積ム(四段他動) ①積、堆、積堆

〔陰徳を積む〕積陰徳〔數年の功を積む〕積好些年的功勞〔材木を積む〕1. 堆積木料、堆放木料 2. 搭載木料 ②搭、上、搭載、裝載〔荷物を車に積む〕把貨物搭在車上〔船に荷物を積む〕船上裝貨、船上上貨、船上搭載貨物 ③存、攢〔金を積む〕存錢、攢錢、積存 ④下〔練習を積む〕下工夫 ⑤砌〔煉瓦を積み上げる〕砌上磚

つむ摘ム(四段他動) 摘、掐〔草を摘む〕摘草、蹈青〔花を摘む〕拈花兒

つむ詰ム(四段自動) ①厚〔織物の地が詰む〕綢緞的地兒厚 ②了局〔將棋が詰んだ〕象棋了局了

つむ詰ム(下二段自動) 老在一個地方

〔役所に詰める〕1. 老在公署裡值班 2. 上公署去〔詰所に詰める〕老在辦事處裡辦事

つむ詰ム(下二段他動) ①裝〔荷物を箱に詰める〕把貨物裝在箱子裡〔砂糖を瓶に詰める〕把白糖裝在瓶子裡 ②縮、縮小、縮短、去〔期限を詰める〕縮短期限〔丈を詰める〕去尺寸〔小さく詰める〕往小裡縮 ③縮、減省、擲節〔經費を詰める〕擲節經費、減省經費 ④填、塞、堵、植〔樽の詰を詰める〕把桶塞子塞上〔鼠の穴を詰める〕堵耗子窩〔齒を詰める〕填牙〔綿を詰める〕拿棉花植、拿棉花絮上〔隙(キ)を詰める〕填上縫兒 ⑤憋〔息を詰める〕憋氣 ⑥直、竟〔夜

つむ

晝泣き詰める「黒間(黒)」「白日竟
哭(腹が一日痛み詰めた)」「肚子直
疼了一天(一日詰めて勉強する)」「
一天到晚竟用功(儘)」「緊(暮を
少し詰める)」「往緊着點兒過(行
ギヤ)を詰めて書く」緊着邊兒
寫(「仕事を詰めてする)」「連氣兒
做活(一日歩き詰める)」「連氣兒走
了一天(問ひ詰める)」「問得無言
答對、張口結舌、辯論無話可應
「追ひ詰める)」「追究(煮詰める)」「煮
乾(理屈を詰める)」「講情講理

つむぎ紬(色) 繭紬

つむぐ紡グ(四段他動) 紡線(糸を紡
ぐ)紡綿成紗、由棉紡紗

つむじ旋毛(色) 頭髮旋兒、百會
旋毛(旋毛曲り)左性的、左強、拗別、

つめきる 詰切ル(四段自動) ①竟(友
達の家に詰切って手傳ふ)「竟在朋
友家裡幫忙兒」②守着(醫者が詰
切る)大夫守着看病

つめきる 詰切ル(四段他動) 裝滿(荷
物は皆詰切りました)「貨物都裝
滿了」

つめこすり爪擦(色) 指甲鏗

つめこむ詰込ム(四段他動) ①裝、續
上、塞滿、填滿、注入、塞入(荷
物を箱の中に詰込む)把貨裝在
箱子裡(試験問際に詰込む)臨考
試忽忽記誦、倉猝預備考試(詰
込主義の教授)注入式教法②多
吃(御飯を詰込む)多吃飯、撮合
飯、飽食 「處、會館

つめしよ詰所(色) 事務處、辦事
つめ

つめ

つむつめ

乖僻、乖戾

つむじ旋風(色) 羊角風、颶風

つむじかぜ旋風(色) 同上

つむり頭(色) 頭、腦袋

つめ爪(色) 爪、指甲(爪に火をと
ぼす)很儉省、苛刻(琴の爪)彈
琴的指甲(爪の垢)1. 指甲縫兒
裡頭的泥 2. 一點兒、稍微

つめ詰(色) ①塞兒、塞子、塞頭兒
「瓶の詰」瓶窟窿(孔に詰をする)
堵上窟窿②邊兒、頭兒(橋の北
詰)橋北頭兒

づめ詰(接尾) ①講(理屈詰)(リクツ)講
理②常川在(派出所詰の巡查)常
川在派出所的巡警③裝、聽(瓶
詰)瓶裝(五斤詰)五斤裝、五
斤聽

つめぢるし爪標(色) 指甲印的記
號

つめたし(形容) 冷、涼、冰涼(冷
い水)凉水(今日は風が冷い)今
天風冷(手が冷くて感じがない)
手氷涼的都木了(「體が氷の様に
冷い)身體冰冷(冷い人)冷心
人、薄情之人、鐵心人

つめばん爪判(色) 與爪印(つめ)同

つめびき爪彈(色) 與つまびき同

つめもの詰物(色) 填塞物、墊物、
填料、塞料、瓢兒 「同

つめめる詰メル(下二段他動) 與つむ
つめる抓ル(四段他動) 用指甲擰
づめん圖面(色) 圖、圖面、圖樣、
圖形(家の圖面)房屋圖、房屋圖
樣

つめ

一〇二二

つめあと爪痕(色) 指甲印兒

つめあひ詰合(色) 常川同事的

つめいん爪印(色) 用指甲爲號(ナシ)

つめえり詰襟(色) 立領洋服

つめがき爪書(色) 指書、指畫

つめかく詰掛ク(下二段他動) 擠、擁
擠、蜂擁而去(あの店には毎日客
が詰め掛けて居る)「那個舖子裡
每天客人擠滿了(多數の人が詰
掛けた)去的人多擠滿不開

つめかた詰方(色) 裝法

つめがた爪形(色) 指甲印兒

つめかふ詰替フ(下二段他動) 換着裝

つめきり詰切(色) ①守着②竟

つめきり爪切(色) 鉸指甲的剪子
(爪切鉄)同上

つもり積(色) ①積、累積、堆②打
算(私は來月又來る積です)「我打
算下月再來(私は人をたまたま積
ではなかつた)「我沒打算冤人(彼
はどう云ふ積です)」「他是怎麼個
打算③估(先づ積を立ててこら
ん)你先估計估計、你先打算
打算④當(新しい積で古物を買
た)「舊東西當新的買了⑤想着
「彼は正直者ですから其積で使
て下さい)他是個老實的人你想
着用他(貴下は明日來ると云つた
から私は其積で用意して居まし
た)「你說你明天來所以我這纔
給你豫備了

つもりがき積書(色) 估單

つもる積ル(四段自動) ①堆(雪が積

つも

一〇二三

る「雪堆」大、多「負債が積る」欠款大了。「積る借金」積欠「積る話」好幾年的陳話「積る苦勞で病氣になる」積勞成疾「塵積れば山となる」積少可以成多、積土成山「積る思」積懐、多年的想念もる積ル(四段他動) 估、算計「價を積る」估價「どの位經費がかかるか積ってこらん」你先算計算計用多大經費

つや艶(色) 亮、光潤、寶色、寶光、光亮、光滑、光澤「拭いて艶を出す」擦出亮來、磨光、擦光「此絹は艶がない」這個絹沒有寶色「色艶のよい顔色」臉上有光潤的樣子「艶のある聲」响亮的聲音(文句に艶をつける) 潤色(文詞)

「艶っぽい話」風流的話
つや通夜(名) 熬夜
づやう圖樣(名) 圖樣
つやがみ艶紙(名) 有光紙、礬水
つやけし艶消(名) 去亮、消澤、除去光澤「艶消玻璃」(ガラス) 暗玻璃
つやごと艶事(名) 風流事蹟、兒女癡情、風月情
つやだし艶出(名) 晒光、磨光、研光、研滑「艶出機」(研布機) 研光滑機、軋布機
つやつや艶艶(副) 光光溜溜、光潤潤的、光髮的「髮が艶艶として居る」頭髮光光溜溜的「顔がつやつやとして居る」臉上光潤潤的「皮膚が艶艶する」肌膚見光滑つやもの艶物(名) 粉曲兒、花鼓戲

つややか艶カ(名) 有亮、有光潤、光滑的、有光澤
つゆ梅雨(名) 梅雨、黃梅節
つゆ液(名) 湯、汗水兒「鮎鮎の液」
つゆ湯(名) この菜は液が多過ぎる「這個菜汁水兒太多」
つゆ露(名) 露水「露が下りる」下露水「露に濡れる」露潮、吐露水濕的「露の玉」露水珠兒、露珠
つゆ露程も知らない「絲毫不知」
つゆあけ出梅(名) 梅雨過去の時候
つゆいささかも露聊モ(副) 絲毫
つゆくさ露草(名) 竹葉蘭
つゆけし露シ(形久語) 露水大
つゆのいり梅雨入(名) 到了黃梅節的時候

つゆのま露間(名) 霎時間
つゆのよ露世(名) 浮世
つゆばかり露許(副) 絲毫
つゆばらひ露拂(名) 喝道
つよがる強ル(四段自動) 逞力量、逞膽子
つよし強シ(形久語) ①強、大「力が強い」勁頭兒大「根氣が強い」精神大「英國は國富み兵強し」英國國富兵強「強い者勝」硬的欺負軟的、優勝劣敗「強きを摧き弱きを助く」抑強扶弱「今日は風が強い」今天風大「火が強い」火大
②健壯、強壯、結實、強固、堅固、堅牢「強い意志」堅強的意志「強い敵」強敵「體が強い」身體健壯、身體強壯「此箱は強い」這個箱

子結實 ①利害、烈害「夏は太陽の熱が強い」夏天太陽的熱氣很利害、夏天太陽很毒「我慢が強い」能忍耐、能扎掙「強く打つ」使勁的打、利害害的打、苦打
つよむ強ム(下二段他動) 使勁「力を強めて打つ」使勁的打
つら面(名) 面、臉、表面「海の面」海面、海面上「水の面」水面、水面上「上の面」上面、表面、外面、外觀、皮相「面を張る」打一嘴巴
つら連・行・列(名) 行、列、羣「二行の雁」一行雁、一羣雁
つらあて面當(名) 埋怨「面當を云ふ」說埋怨的話
つらい辛イ(形久語) 與つらし同

つらがまへ面構(名) 模樣兒、相貌
つらし辛シ(形久語) 辛苦、難受、難忍、難當、難過「餓に迫ることは何よりも辛い」挨餓是比甚麼苦還難受「奉公は辛いものです」做底下人實在辛苦「繼子(ママ)に辛く當る」欺負繼子、給繼子氣受「此役目は辛い」這個差使難當「聞き辛い」聽不過「云ひ辛い」不便說、不好說「二圓では辛いです」一塊錢我實在賣不着「不敢賣」(身を切られるより辛い)比割身上的肉還難受
つらつき面付(名) 模樣兒、相貌
つらつら熟熟(副) 熟「熟考へる」熟
つらづゑ面杖(名) 托顛
つらなる連ル(四段自動) 連、列、排

「水天に連る」水連天「私も會員の一人に連つて居る」我也是列在會員的一個人「私も其席に連る」我也列在那個席間、我也出席了「兵士が二列に連る」兵排兩行「船が沖まで連つて居る」許多的船灣着直到海當中兒、船都挨着灣到海面上
 つらにくし面憎シ(形久括) 面目可憎
 つらぬ連ヌ(下二段他動) 排列、連上
 「船を連れる」把船連上「席を連れる」排列座位
 つらぬく貫ク(四段他動) ①達「目的を貫く」達到目的②申透「彈丸が鐵板を貫く」槍子兒申透了鐵板
 つらのかは面皮(名) 臉皮、面皮「面皮が厚い人」厚臉皮的人、面

皮厚の人、臉憨皮厚の人「面皮の千枚張」千層化皮臉、沒羞沒臊「面皮を剥ぐ」叫人丟臉
 つらまへる捉ヘル(下二段他動) ①拿住、捉住「賊を捉へる」拿住賊②揪(ヒツ)「辮髮を捉へる」揪着辮子「漠然として捉所がない」漠然的沒有把握、迷迷糊糊的不得要領、霧裡看花
 つらまる捉ル(四段自動) ①拿住、捉住「賊が捉つた」拿住賊了②揪「私の腕に捉つて離れない」揪着我的胳膊不離開③拄、扶「杖に捉つて歩く」拄着拐棍兒走「机に捉つて立つ」扶着桌子站着
 つらみせ面見世(名) ①見面禮②初次見面

つらよこし面汚(名) 丟臉
 つらら氷柱(名) 冰楞、冰凌、冰錐
 つらり(副) 一排着「大官がつらりと居並ぶ」做大官的人們一排坐着
 つり釣(副) ①釣「釣をする」釣魚
 ②找的錢、找頭「一圓で釣を取る」給一塊錢找錢③吊繩兒
 つりあがる釣上ル(四段自動) ①吊「ずぼんが釣上る」褲子吊着「目尻が釣上る」眼睛角兒吊着②釣上「釣上ったのは大きな鯉でした」釣上来的是一個大鯉魚
 つりあぐ釣上グ(下二段他動) ①吊上「ずぼんを釣上ぐ」把褲子吊上去
 「繩で釣上げる」拿繩子吊起來②釣上「大きな魚を釣上げた」釣上

一條大魚來了③開起、買煽「物價を釣上げる」叫物價陡漲、開起行市
 つりあひ釣合(名) 趁合、合式、均勻、抵住、平抵、平均、平衡、權衡「此帽子と此着物では釣合が取れない」這個帽子和這個衣裳不趁合「輸出と輸入の釣合が取れない」出口貨抵不住進口貨「釣合のよい縁です」這門子親事門當戶對「門第配得」身體的釣合が取れないで倒れた」身體這麼一歪摔倒了「彼の百圓と私の一圓と丁度釣合が取れます」他的一百圓和我的二元比較起來正合式
 つりあふ釣合フ(四段自動) 趁合、合

式、均勻、相對、配、相配、抵住、平抵「仕事と手間賃が釣合はなない」活和工錢不均勻「赤は黒に釣合はぬ」紅色配不上青色「釣合はぬ縁」門第不相當的親事
 つりいと釣絲(名) 釣魚的線
 つりかご釣籠(名) ①吊筐兒②魚筐子
 「鐘堂(ダウ)鐘樓
 つりがね釣鐘(名) 掛鐘、吊鐘「釣つりくわびん釣花瓶(名) 掛瓶兒
 つりこむ釣込ム(四段他動) 引誘、誘入圈套、引入圈套「甘言を以て仲間を釣込む」甜言蜜語的引誘他做夥伴兒
 つりさがる釣下ル(四段自動) ①揪着「繩に釣下つて下りる」揪着繩子下來②搭拉着「樹から虫が釣下つ

て居る」從樹上搭拉着虫子
 つりさぐ釣下グ(下二段他動) ①吊、懸「牛肉を釣下げる」吊着牛肉
 「提灯を釣下げる」吊着掛燈②搭拉「劍を釣下げる」搭拉着洋刀
 つりざを釣竿(名) 釣魚竿兒、魚竿兒
 つりせん釣錢(名) 找的錢、找頭
 つりだい釣臺(名) 抬板兒、病橋、移病床
 つりだうぐ釣道具(名) 釣魚的傢伙
 つりだす釣出ス(四段他動) ①釣起魚來②引誘
 つりだな釣棚(名) 吊榻子
 つりぢやうちん釣提灯(名) 掛燈
 つりて釣手(名) ①釣魚的人②吊繩兒

つりつる

つりぞこ吊床(名) 吊床 「橋
 つりばし釣橋(名) 懸橋、吊橋、掛
 つりばないけ釣花瓶(名) 掛瓶
 つりばり釣針(名) 魚鉤兒
 つりぶね釣船(名) 釣魚船
 つりほり釣堀(名) 養魚池
 つりめ釣目(名) 弔眼角兒
 つる鶴(名) 鶴、仙鶴
 つる弦(名) 弦
 つる蔓(名) 蔓兒 (want' girl) 鬚
 兒(葡萄の蔓)葡萄鬚、葡萄蔓
 鑛脈
 つる鉦(名) 提梁兒 (提子)、斗梁兒
 つる釣ル(四段他動) ①釣(魚を釣る)吊
 釣魚②吊、掛、播(首を釣る)吊
 死、經死(蚊帳(か)を釣る)播蚊帳
 (棚を吊る)吊着桶子(洋燈を釣

つる

る)掛洋燈(劍をつる)掛劍、把
 腰刀掛起來、佩劍③招(狐を釣
 る)招狐狸④誘(利を以て人を釣
 る)以利誘人
 つる釣ル(四段他動) ①揪、揪(筋が釣
 る)筋痲了「髪の毛が釣る」頭髮
 揪的很②吊(あの女は目尻が釣っ
 ておる)那個女子是吊角眼③上
 鉤(魚が釣れた)魚上了鉤了
 つる釣ル(下二段自段) 同上
 つる連ル(下二段自段) 隨、隨從、相
 因(風琴に連れて歌ふ)隨着風琴
 唱(時勢に連れて變化する)隨着
 時勢變化(教育の普及に連れて
 無學の者が少くなった)隨着教育
 普及不識字的人少了(銀の下落
 に連れて物價が高くなる)隨着銀

つる

盤往下落物價長起來了(連れて
 生ずる問題)相因而生的問題(戰
 争に連れて起る財政困難)因戰
 争而起的財政困難
 つる連ル(下二段他動) 帶(子供を連れ
 て公園に遊ぶ)帶着小孩子遊公
 園去(貴下は御家族を連れて來ま
 したか)您帶着寶眷來了麼
 つる(助動) 表示過去時之助動詞
 「昨日見つる花」(文) 昨天看過的
 つるぎ劍(名) 劍
 つるぎいし劍石(名) 與要石(かなめ)
 同 「的草
 つるぐき蔓草(名) 蔓草、用蔓兒
 つるしがき吊梯(名) 梯餅兒
 つるす吊ス(四段他動) 掛、懸(提灯
 を吊す)掛燈籠

一〇二八

つる

つるだち蔓立(名) 蔓生
 (つるつる(副) ①亮光亮光的(頭
 が禿げてつるつる光る) 腦袋禿
 的亮光亮光的 ②滑溜溜的(道
 が凍つてつるつる滑る)道路凍得
 滑溜溜的 ③特兒嚙特兒嚙(饅
 餡をつるつる食べる)特兒嚙特
 兒嚙的吃麪 「同
 つるのはし鶴嘴(名) 與つるはし
 つるはし鶴嘴(名) 鎚、鋏頭、鷄嘴
 斧、鶴嘴斧、丁字斧
 つるべ釣瓶(名) 吊桶(木又ハ)、柳罐
 (柳ノ枝ニテ)「釣瓶繩」(ナハ)罐繩 (釣
 瓶打)(ウチ)連放、連環打放(釣
 瓶落(トシ)一落千丈
 (つるむ(四段自動) 與交尾(かう)同
 つるれいし蔓荔枝(名) 苦瓜

つれ

つれ連(名) 伴兒(三人連)三個伴
 兒(今度の旅行は誰か連がありま
 すか)您這盪出外誰和您搭伴
 兒啊(彼も東京へ行くからよい連
 です)他也上東京去這實在是
 很好的伴兒
 つれあひ連合(名) ①匹偶、夫妻
 倆、倆口子②丈夫(オツ)、媳婦兒
 (目) ③做夫婦
 つれあふ連合フ(四段自動) ①搭伴
 つれこ連子(名) 帶過來的孩子、
 隨嫁兒
 つれそふ連添フ(四段自動) 做夫婦
 (彼とは二十年間連添うて居る)我
 和他做了有二十年的夫婦
 つれだつ連立ッ(四段自動) 搭伴兒

つれつる

「あの人と連立つて行つた」和他搭
 伴兒去了
 つれづれ徒然(副) 悶得慌
 つれなし強顔シ(形容) 無情、絕
 情的、鐵石心腸的、硬心腸的、狠
 心的、心剛的、忍心的、冷面冷
 心的(強顔くはれつける)剪鋼切
 鐵的推辭(妻子に強顔い)跟妻
 子絕情
 つれびき連彈(名) 雙絃兒、聯彈
 つれぶし連節(名) 合唱、對唱
 つれゆく連行ク(四段他動) 帶着去
 づろう杜漏(名) 杜漏、疎忽、大意
 つる對(名) 對(對ていくらです)一
 對是多少钱(對にする)配、配
 合、配對(二人對の衣裳を着る)
 倆人穿一樣兒的衣裳(四幅對)

一〇二九

四扇屏的畫兒

つゐ 對(接尾) 對(筆一對) 一對筆
 つゐ 燭臺一對 一對蠟燈
 つゐ おく 追憶(名) 追憶、追想、回憶、回想(過去を追憶する) 回憶舊時
 つゐ か 追加(名) 補、添補、補墊、追加、補加(更に三ヶ條を追加する) 再補添三條(豫算を追加する) 補添豫算、追加豫算
 つゐ かう 追行(名) 追、趕、追趕
 つゐ かう 追考(名) 追思、追想
 つゐ き 追記(名) 補寫
 つゐ きう 追求(名) 追求
 つゐ きう 追究(名) 追究
 つゐ きふ 追及(名) 追及、追上、趕
 つゐ く 對句(名) 對句

つゐ くわい 追懷(名) 追懷、追維
 つゐ けい 追啓(名) 再者、再啓
 つゐ げき 追擊(名) 追擊
 つゐ こく 堆黑(名) 堆漆
 つゐ さう 追想(名) 追想、追思
 つゐ し 追思(名) 同上
 つゐ しけん 追試驗(名) 補考
 つゐ しゆ 堆朱(名) 堆紅漆、彫漆
 つゐ しよう 追從(名) 奉承、諂媚、駕弄、逢迎、裝狐媚子、趨炎附勢(追從者) (モ) 奉承的人、諂媚的人、趨炎附勢的人
 つゐ す 對ス(佐賢自對) 成對、成雙
 つゐ せき 追跡(名) 踵跡、跣踪跡、追蹤跡
 つゐ ぜん 追善(名) 追福、追薦
 つゐ ぞう 追贈(名) 追贈

つゐ たう 追悼(名) 追悼(追悼會)
 (クワイ) 追悼會、追思禮
 つゐ たう 追討(名) 追討
 つゐ ちく 對軸(名) 與つゐふく同
 つゐ ちよう 追徵(名) 追徵、追繳
 つゐ てう 追吊(名) 與追悼(つゐ)同
 つゐ な 追讎(名) 讎、打鬼
 つゐ はう 追放(名) 逐出、逐去
 つゐ はく 追白(名) 再者、再啓
 つゐ び 追尾(名) 在後頭追(追尾電報) (シボウ) 依次傳遞之電報
 つゐ ふく 追福(名) 追福、追薦
 つゐ ふく 對幅(名) 對子、對聯
 つゐ へい 追兵(名) 追兵
 つゐ ほ 追捕(名) 追捕
 つゐ ほ 追慕(名) 追慕

つゐ 追慕(名) 續招

つゐ れん 對聯(名) 對子、對聯
 つゐ ろく 追録(名) 補寫
 つゐ 杖(名) 杖、棍子、拐棍兒、文明棍兒(杖を突く) 拄着棍子(杖を曳く) 拉着棍子
 つゐ ぐり(名) 肥墩子
 つゐ ざく 擊ク(四段他動) 擊、劈(肌を擊く 寒さ) 透骨的冷(耳を擊く) 徹耳、貫耳、尖脆
 つゐ っん(副) ①直(仕事がつん) 事情直往前進步
 ②搖搖擺擺的(あの人はつんつんして居る) 他是搖搖擺擺的
 つゐ づん(副) 直(かうと思つたら) 想甚麼說甚麼(よ) 想甚麼說甚麼(よ) 實行する) 實行する

つん

つん 自己想這事必有益處就着實實行、怎麼好怎麼辦(役がづんづんする) 差使直往上升(客が後へ後へとづんづん續いて来る) 客人接連不斷的直跟着來
 つん てるてん(副) 上下敲不着兒的衣裳
 つん と(副) 腰板脖硬的(彼はつんとして居る) 他的樣子很腰板脖硬的(芥がつんと鼻に抜ける) 芥末的味兒躡鼻子(藥の香がつんと鼻を突く) 藥味兒冲鼻子
 つん ほ 聾(名) 聾、聾子、聾人(耳が聾になる) 耳朵聾了、耳朵背了(聾の早耳) 聾子愛打岔

て

て 手(名) ①手、手掌(ヒラ)、手腕子(ビク)、胳膊(ヒ) ②提梁兒、梁兒、把兒(鍋の手) 鍋梁兒(茶瓶の手) 開水壺的梁兒(杓(シヤ)の手) 水甬子把兒(急須の手) 茶壺把手(籠の手) 籠子的提梁兒(箱の手) 箱子把柄、箱環子 ③招兒、招數、法子(相撲の手) 摔跤的招數(棋の手) 下棋的招數兒(色色と手を盡す) 各樣兒的想法子辦(手をかへてやってみる) 改法子再辦 ④架子(朝顔の手) 勤娘子的架兒 ⑤勢(火の手が上る) 火勢旺上來 ⑥字、寫的字(彼は

手が上手です」他寫的好「手が上る」寫的字長起來了⑦隊「一手の大將」一隊的大帥「手の者」手下的「二手に分れる」分兩隊⑧傷「手を負ふ」受傷「痛手」重傷「重手」同上⑨類、宗「この手の品は外にありませんか」這一類的東西另外沒有麼「この手の品」這宗貨「手を合はす」合掌「手を叩く」拍掌、拍手「手を打つ」同上「手を握る」攢手、握手「手に手を取る」手拉着手「手を引く」1.拉着手2.扯手不辦「手があく」騰出手來了「手を振って歩く」搖幌着手走「手を振って厭だと云ふ」擺手說不行、搖着手不答應「手を付ける」動手、下手「手を掛ける」

同上「手の付けやうがない」沒有下手的地方、無計可施「あの金は家に仕舞ってまた手をつけなさい」那項銀子我在家裡收着沒動哪「此事は貴下は手を出さなくてもよい」這件事情您不用干涉「忙しくて手が足らない」忙的人不穀手兒「手が塞る」使着手、騰不出手來「仕事が手一杯です」事情堆着手兒「この手でやれば必ず成功する」拿這個法子辦必定成功「手作り」親手做的「手料理」家裡做的菜「手を分けて捜す」分手尋找「手を休める」歇手「手が省ける」省事「手が掛る」費事、累贅「手がとどく」1.手構得着、手抓得到2.周到「手がとどかぬ」

1.手構不着、手抓不到2.不周到「手を放す」撒開手「手が放せない」不能住手「手が放れた」裂了「手を切る」1.刺手2.關係ヲ撒開手、摺開手「手をこする」搓手「手を揉む」同上「手を抜く」偷手、偷工減料「手を束れる」束手「手を持ちかへる」倒手「手を分けてさがす」分頭去找「手を下ぐ」搭拉着手「手を焼く」見燒く條下「手を食ふ」吃了苦子「手を突いてあやまる」扶着手賠不是「手を借して下さい」幫幫兒我「手に入れる」置買、買、得、得到手「手に入る」到手「手に取るばかりに聞える」聽見的真真切切「仕事が手に入る」活兒做的很巧妙「品物

て

て

て

が容易に手に入らぬ」東西不容易得到手「手にあまる大敵」敵不過的大敵「これは手にあまった仕事です」這件事我辦不了「これは私の手に合はない」同上「あの子は徒で手に合はない」他那個孩子太淘氣父母管不了他「手を濡さず」大金を儲けた「不沾手」賺了好些個錢了「手を袖にして見て居る」袖手旁觀「手に汗を握る」攢着兩手汗「これは手の込んだ細工です」這是做的很細的活「手が長い」手不穩、手黏「手をかへ品をかへてやって見る」換各樣兒的法子辦「賛成の方は手を舉げて下さい」贊成的人舉手罷「手を舉げて禮をする」舉手行禮

「手もなく捕へた」沒費事拿着了「何から何まで手が届く」甚麼事都很周到「友人の手を經て先方に相談する」經朋友的手和前路商量「仕事が手に付かぬ」事情不合手「手に唾する」唾拳磨掌「女一手で三人の子を養ふ」就是一個女人手裡養活三個孩子「て手」接尾 ①錢「酒手」酒錢 ②人、主「買手」買主兒、買客「射手」射箭的人③支、碼、二十手の絲「二十支綿紗」④邊、方向「上手」上邊兒「下手」下邊兒「行く手」去向「山の手」高地方「て」而「虎は死して皮を留む」虎死而留皮「冬が來て雪が降る」冬天下雪「汽車が通じて便利に

なつた」火車開通了很方便了「て手」接尾 添在用言之上頭調其腔調「手厳しい」嚴「手痛い」利害「手軽い」輕便「で」出(色) ①去「人の出が多い」人去的多②來「乳の出が悪い」奶來的不好③分量多不多、經久不經久「この菓子は出がない」這個點心分量兒少「で」接尾 所以、故此「で私も行かなかつた」所以我也沒去「で」叶はぬ)不去不行「で」接尾 ①在「あの店で買った」在那個舖子買的「上海で懇意になつた」在上海認識的「新聞で見た」在報上看見了②拿、用「筆で書

て

て

て

て
 く) 拿筆寫「棒で打つ」拿棍子打
 「電報で知らせる」用電報知會
 「英語で話す」用英國話説「支那
 語で何と云ひますか」中國話叫
 甚麼③有「八時間で行かれます」
 有八小時可以到達④坐、騎「汽
 車で行く」坐火車去「馬で行く」
 騎馬去⑤因、因爲「風で折れた」
 因爲風颯折了「病氣で學校を休
 む」因爲病不上學校⑥仗「筆一
 本で飯を食ふ」仗着一管筆吃飯
 ⑦上「六十一で死んだ」六十一歳
 上死的「これは五十圓で買った
 のです」這是五十元買的「これ
 は數で賣りますか目方で賣ります
 か」這是論個兒賣啊還是論斤
 賣呢「彼は何で行かないのです」

て
 他爲甚麼不去呀「鏡で見る」照
 鏡子看「顔色で分る」一看氣色
 就明白「井戸で水を汲む」從井裡
 打水「皆で六百圓です」共總是六
 百元「二人で來ました」我們兩個
 人來的
 (で) 是「今は春で天氣が暖で
 す」現在是在春天天氣暖和「今日
 は日曜で明日は端午の節句です」
 今天是星期明天是端陽節
 (で) 與て(而)同「本を讀んで
 智識を得る」看書得智識「小刀を
 磨いて鉛筆を削る」磨小刀子修
 鉛筆「あの人を呼んで來い」叫他
 來
 テープ(名) (Type) ①狹帶、線帶、
 棉線帶 ②決勝線上的細繩

て
 テーブル卓子(名) (Table) 桌子、
 棹子、檯、寫字桌(書卓)、飯檯
 (食事)、餐檯(調)「卓子掛」(カケ) 桌
 布、桌圍、檯布、檯毯、桌單
 てあき手明(名) 游子、閒子
 てあそび手遊(名) 玩意兒
 てあたり手當(名) 拿手摸、手觸
 的、接觸「手當がざらざらして居
 る」拿手一摸粗刺刺(さ)的「手
 當が柔かです」手觸覺着柔軟
 てあたりしだい手當次第(副) 順
 着手、隨手「手當次第に投げ付け
 る」順着手扔「手當次第に打ち壞
 す」順着手打壞「手當次第に取
 る」隨手拿
 てあたりほうだい手當放題(副) 同
 てあつし手厚シ(形容) 厚、殷勤、

て
 厚道、篤厚「風俗が手厚い」風俗
 樸厚「手厚く待遇する」厚厚的款
 待、待客很厚道「あの人には手厚い
 人です」他人很厚道
 てあて手當(名) ①治、醫治、調治
 「此病氣は手當が後れた」這場病
 治晚了②津貼、公費、資助金、
 補助金、額外薪金「旅の手當を
 する」豫備行裝「毎月手當を給す
 る」每月給津貼「住宅料手當」(シユ
 クレツ) 房租津貼「交際費手當」(カウ
 シヤイ) 應酬的津貼、應酬公費「車馬
 手當」(シヤバ) 津貼車馬費
 てあはせ手合(名) ①對手②成交、
 交易成交
 てあひ手合(名) 夥伴兒、同事的
 てあひ出會(名) ①會合、遇合②

て
 配合③男女密會「出會頭」(ガシラ)
 迎着頭
 であふ出合フ(四段自動) ①遇見、碰
 見「何處で出合ひましたか」在那
 兒遇見了「意外の事に合ふ」遇
 着意外的事「災難に出合ふ」遇
 難、遭難②配合「色と色と出合
 ふ」兩個顔色很配合
 てあぶり手焙(名) 手爐
 てあます手餘ス(四段他動) 辦不了、
 敵不住
 てあらし手荒シ(形容) 粗暴、粗
 魯「道具を手荒く取扱ふ」使用傢
 伙很粗魯
 てあらひ手洗(名) ①洗手②洗手
 盆、銅鑲子「手洗鉢」(バチ) 洗手
 盆、銅鑲子「手洗水」(ミツ) 洗手水

て
 てありふ手洗フ(四段他動) 洗手
 てい帝(名) 帝、皇帝、皇上
 てい邸(名) 邸
 てい體(名) 樣、樣子、打扮兒「知
 らぬ體にもてなす」粧做不知道
 的樣子「體を變へる」改打扮兒、
 改樣子「彼は體のよい事を云ふ」
 他竟說好聽的話「事無き體」沒
 事人兒似的、行所無事「商人體」
 商人的打扮兒
 てい貞(名) 貞
 てい程(名) 程「程を起す」起程、啓
 てい艇(名) 艇
 てい亭(名) 亭子
 てい丁(名) 丁
 てい底(名) 底
 てい泥(名) 泥

ていあん 定案(名) 定見
 ていあん 提案(名) 提出之事、所
 陳之意、提出議案
 ていえう 提要(名) 提要
 ていおん 低音(名) 低聲兒、低音
 ていか 定價(名) 定價、實價(定價
 表)(一)價目單、價目表(定價で
 賣る)定價發賣、不二價
 ていか 低下(名) 低下、往下落
 ていか 遞加(名) 遞加 「價兒
 ていか 低價(名) 賤價、賤價錢、小
 ていかう 縮交(名) 縮交
 ていかう 抵抗(名) 抵抗、抗衡、抗
 拒、抵抗、相抵、相拒(抵抗力)
 (リコト)抵抗力、抵抗力、阻力
 ていがく 停學(名) 停學

ていがく 定額(名) 定額、定數、額
 數
 ていき 定期(名) 定時、定日、定
 期、按期、按時期的(定期預
 期、(シカア)長存、定期存款(定期預
 (アツケ)同上(定期貸)(ガシ)長缺、
 長期(定期刊行物)(カウブツ)定期
 刊行的、定時出版的(定期船)
 (セン)定期開往的郵船、線船(定
 期試験)(シケン)定期考試(定期取
 引)(リヒキ)定期買賣、期貨買賣
 (定期預金)(ヨキン)長存、定期存
 款(定期乘車券)(ウシヤク)定期票、
 月季票
 ていき 定規(名) 定章、定規、定
 ていき 提起(名) 提起、拘起(訴訟
 を提起する)拘起官司來了、提

起訴訟
 ていぎ 定義(名) 定義、界說
 ていぎ 延議(名) 延議
 ていぎ 提議(名) 提議、倡議、擬
 議、提出議案(修正を提議する)
 倡議修正
 ていきう 庭球(名) 與テニス同
 ていきふ 涕泣(名) 涕泣 「帝京
 ていきやう 帝京(名) 京都、帝都、
 ていきよ 聽許(名) 允可、允許、允
 准、許可
 ていきよ 帝居(名) 皇宮
 ていきよう 提供(名) 立、供、提
 出、提供、致與、求納(條件を提
 供する)提出條件來了(被告は有
 力な證據を提供了)被告供出
 的確的證據來了(安價に提供す

る)廉價出售(金錢を提供する)
 提供金錢
 ていきん 庭訓(名) 庭訓
 ていきん 提琴(名) 胡琴兒
 ていぎん 低吟(名) 低吟
 ていくう 低空(名) 半空、半懸空
 裡、低空(低空飛行)(ヒカウ)低空
 飛行、掠半空而飛
 ていくわい 低徊(名) 低徊、盤旋
 ていくわい 停會(名) 停止會、停會
 ていくわん 定款(名) 議單、章程
 (會社定款)公司章程(銀行定款)
 銀行章程
 ていけ 手活(名) ①親自挿的 ②從
 良(妓女ヲヒカ)「手活の花」1.花瓶裡
 親自挿的花 2.從良的妓女
 ていけい 提携(名) 提携、握手、相

助、協謀、協同、聯合(人と提携
 する)和人提携、和人握手(互に
 提携して事に當る)彼此相助辦
 事、互相提携辦事
 ていけい 定形(名) 定形、整的
 ていけい 梯形(名) 梯形、斜方形
 ていけい 帝京(名) 京都、帝都、帝
 京
 「規」(ヤウギ)丁字尺
 ていけい 丁形(名) 丁字「丁形定
 ていけつ 締結(名) 締合、締成、訂
 結、締結(條約を締結する)締結
 條約
 ていけん 定見(名) 定見
 ていげん 低減(名) 減、落(價を低
 減する)減價錢、落價兒
 ていげん 遞減(名) 遞減 「定限
 ていげん 定限(名) 一定的限制、

ていご 低語(名) 低語、低聲兒說
 ていごう 泥工(名) 泥水匠 「話
 ていこく 帝國(名) 帝國(帝國主
 義)(シユギ)帝國主義、保皇主義
 ていこく 定刻(名) 定時、規定的
 時間
 ていぎ 帝座(名) 御座、寶座
 ていさい 體裁(名) ①様子、形兒
 「この花瓶は體裁がよくない」這
 個花瓶形兒不好看 ②外面兒、
 外表(體裁を飾る)修飾外面兒
 ③體式、樣式、格局(體裁がよ
 くない)不成體式(體裁のよい事
 を云ふ)說體面的話
 ていさう 貞操(名) 貞操、貞節、節
 操(貞操のある女)有節操的婦
 人(女の貞操を蹂躪する)汚辱婦

女

ていさつ 偵察(名) 偵察、偵探、踏
 勘、窺探〔敵状を偵察する〕偵探
 敵情〔強行偵察〕強行偵察、實力
 偵察〔偵察用の飛行機〕偵察用的
 飛機〔敵の陣地を偵察する〕偵察
 敵人陣地
 ていし 弟子(名) 弟子、門生、門弟
 ていし 梯子(名) 梯子
 ていし 底止(名) 底止〔底止する所
 なし〕靡所底止
 ていし 諦視(名) 諦視、釘着看
 ていし 停止(名) ①停止、禁止〔支
 拂停止〕(シハラ)停止支付、停止付
 款、停止〔一時停止〕(イチジ)暫停、
 暫行停止〔一部停止〕(イチブ)一部
 停止〔出港を停止する〕禁船出口

てい 封〔新聞の發行を停止する〕封
 ていじ 定時(名) 定時 「閉報館
 ていじ 遞次(名) 挨着次兒、挨着
 次序
 ていじ 丁字尺(名) 丁字尺
 ていしつ 低濕(名) 低濕
 ていしつ 帝室(名) 帝室、皇上家
 ていしや 停車(名) 停車、把車站
 住〔停車場〕(チャウ)〔火車站、車
 站〕
 ていしやう 低唱(名) 低唱
 ていしやう 提唱(名) ①提唱 ②解
 説 「交通部長
 ていしやう 遞相(名) 交通部總長、
 ていじやう 呈上(名) 奉上、遞上、
 遞呈、奉獻、呈獻〔一筆呈上仕り
 候〕謹奉一書〔御使に渡し呈上仕

り候〕即交臺使遞呈
 ていしゆ 亭主(名) ①掌櫃的〔店の
 亭主〕同上 ②丈夫、男人
 ていしゆく 貞淑(名) 貞淑
 ていしゆつ 提出(名) 提出、引進
 〔辭表を提出する〕提出辭職書、
 上辭呈〔議案を提出する〕引進議
 案、提出議案
 ていしよく 停職(名) 停職、勒休、
 勒令休致
 ていしよく 抵觸(名) 抵觸、觸犯、
 觸、犯法
 ていしん 挺身(名) 挺身
 ていしん 挺進(名) 挺身而進
 ていしんしやう 遞信省(名) 郵傳
 部(遞、交通部(遞))

ていす 呈す(在野他動) 呈、呈遞〔國
 書を呈す〕呈遞國書〔これを貴下
 に呈しませう〕把這個奉送你、哪
 ていすう 定數(名) ①一定的數兒、
 有限的數目、額數 ②定數(命數)
 でいする 泥醉(名) 大醉、酩酊
 でいする 泥水(名) 混水
 ていせい 訂正(名) 訂正
 ていせい 低聲(名) 低聲
 ていせい 定星(名) 定星、恆星
 ていせつ 貞節(名) 貞節、貞操
 ていせつ 定説(名) 定論
 ていせん 停戰(名) 停戰、暫止干
 戈〔二週間停戰する〕停戰一個禮
 拜〔停戰旗〕(キ)停戰旗、免戰旗
 ていせん 停船(名) 停船、住船
 でいそ 泥塑(名) 泥塑

ていそ 遞送(名) 遞送
 ていそく 定則(名) 定則、定制、定
 ていそく 鼎足(名) 鼎足 「章
 ていた 手板(名) 水牌
 ていたい 停滯(名) 停、停滯、滯
 膩〔食物が停滯する〕停食 (Stagnation)
 〔貨物が停滯する〕貨物停
 滯了、貨物滯銷了〔仕事が停
 滯する〕事情滯膩 「税
 ていたい 抵代税(名) 子口半
 ていたう 抵當(名) 抵押、押賬、
 押、典〔買うなど抵當に取るなど
 どちらでもよい〕或買或典都可
 以〔抵當貸〕(ガシ)押款、抵押放款
 〔抵當物〕(フ)押頭
 ていたく 邸宅(名) 宅子、宅第
 ていたし 手痛シ(形容) 利害、苛

刻、劇列
 ていたらく 爲體(名) 様子、狀態
 〔今は落ちぶれてあの爲體です〕現
 在落魄到那麼個様子
 ていだん 丁男(名) 成丁
 ていたん 泥炭(名) 土煤、泥炭、草
 煤、浮煤
 ていち 偵知(名) 探知、偵知
 ていちやうぎ 丁定規(名) 丁字尺
 ていちやく 停着(名) 停住
 ていちやく 定着(名) 安上、安置、
 裝定、定著、安固、定影(寫眞)〔定
 着液〕(エキ)定像片水、定影水、定
 影液、定着液
 ていちゆう 定住(名) 落戸 (No. 4)
 ていちよ 貞女(名) 貞女
 ていちやう 鄭重(名) 鄭重、殷懃

〔鄭重に挨拶する〕鄭重其事的施禮〔鄭重にもてなす〕慇懃慇懃的待

ていばい手一杯〔副〕儘着力兒、辦到極處、擴充到極點〔手一杯商賣を擴げる〕儘着力兒擴充買賣〔もうこれて手一杯です〕這就是辦到極處了

ていてい廷丁〔名〕衙役、堂事

ていてつ蹄鐵〔名〕馬掌〔蹄鐵工〕〔コウ〕釘掌的、掌匠

ていでん遞傳〔名〕傳遞

ていでん停電〔名〕電流不通、通電截住了

ていと帝都〔名〕帝都、京都

ていど程度〔名〕程度、限度〔同一程度の學校〕程度相當的學校〔物

ていめい締盟〔名〕結盟、聯盟、締盟

ていめい定命〔名〕定命、定數

ていやく締約〔名〕締約、訂約

ていら偵邏〔名〕巡邏偵探

ていらく低落〔名〕低落

ていら手不入〔名〕①不費手、省事、省事②沒拾掇過的東西③處女

ていら手不入〔副〕容易、省事的、輕輕鬆鬆的〔そんな事なら手不入に出來さうなものだ〕若是那樣兒的事輕輕鬆鬆的可以辦得〔あれは手不入にそっくりしてある〕那個東西沒動就那麼擱着哪

ていらん提籃〔名〕提溜的筐子

事は程度を考へればならぬ〕凡事得看限度

ていど泥土〔名〕泥、濕泥

ていとう低頭〔名〕低頭、低着腦

ていとく提督〔名〕提督

ていなう低腦〔名〕低能、遲鈍的、

ていねい丁寧〔名〕①謙恭、恭敬〔丁寧な人〕謙恭的人〔言葉を丁寧に使ふ〕說話恭恭敬敬的②慇懃、懇切、好好的、反覆〔丁寧にあしらふ〕慇懃懇切的應酬〔丁寧に説明する〕好好兒的講說〔丁寧に字を書く〕把字好好兒的寫

ていねい泥濘〔名〕泥濘、泥滑

ていねん丁寧〔名〕成年、成年

ていり低利〔名〕小利錢

ていり定率〔名〕定率

ていり出入〔名〕出入〔一個月金の出入はどれ程ですか〕一個月の出入的錢是多少〔城門を出入する車〕出入城門的車②常來往〔出入の商人〕常來做買賣的商人

ていりう停留〔名〕停留〔停留所〕

ていりつ鼎立〔名〕鼎立

ていりつ定律〔名〕一定的法則、

ていりつ定率〔名〕一定的成頭、定率

ていりやう定量〔名〕一定的分量

ていれ手入〔名〕拾掇、收拾、修理〔物は手入がよいと長く持つ〕東西老拾掇着點兒就可以耐久

未到成年

ていばう堤防〔名〕堤防、河壩、堤壩、土壩〔堤防を築く〕築堤、修堤

ていはく碇泊〔名〕灣、停泊、灣泊、灣船〔碇を下して碇泊する〕

下錨停泊〔岸壁〔ガン〕に碇泊する〕

靠泊碼頭、靠着碼頭灣船〔碇泊處〕〔シヨ〕灣船處、泊船處、停泊處

ていはつ剃髮〔名〕削髮、落髮

ていばん丁番〔名〕值班兒

ていひやう定評〔名〕定評

ていふ貞婦〔名〕貞婦

ていべう帝廟〔名〕帝王廟、大廟

ていへん底邊〔名〕底線

ていまい弟妹〔名〕弟妹

ていまん泥銀〔名〕泥板、抹子

〔此家は大分手入をしなければならぬ〕這個房子總得大拾掇〔花の手入をする〕拾掇花兒〔賭博場の手入〕抄要錢場兒、抄局

ていれい定例〔名〕定例

ていれん低廉〔名〕低廉

ていろん泥路〔名〕泥水道路

ていろん定論〔名〕定論

ていわう帝王〔名〕帝王

ていゐる帝位〔名〕帝位

ていゐる定員〔名〕定員、名額、員額、定額〔定員四人〕定額四人

ていゐる庭園〔名〕花園子

てう朝〔名〕朝〔Choo〕〔清朝〕〔シン〕清朝〔明朝〕〔パン〕明朝〔天に朝す〕朝天

てう兆〔名〕兆、兆頭、先兆兒

てう

てう調(名) 調

てう條(名) 條

てう條(接) 因爲、所以〔書面到着候條差出申候〕因書札已到爲此呈上

てうい弔意(名) 弔唁的意思

てうい朝衣(名) 朝衣、朝服(chi'ao?)

てうい弔衣(名) 孝服

てういん調印(名) 鈐印、簽字、簽押、蓋印、簽字蓋印

てうか朝家(名) 朝家(chi'ao?)

てうか弔歌(名) 弔唁的歌

てうが朝賀(名) 朝賀(chi'ao?)

てうがう條項(名) 條款

てうがふ調合(名) 配合、配製、配

てう

成、合成〔藥を調合する〕配藥、製藥、調藥〔この藥は三種の材料を調合して造ったのです〕這個藥

是配合三種藥材製造的

てうかん鳥瞰(名) 自空下望、臨

高俯視、凌空俯視、鳥瞰

てうき朝紀(名) 朝紀(chi'ao?)

てうき跳起(名) 跳起來

てうき朝議(名) 朝議(chi'ao?)

てうぎ調戲(名) 調戲

てうき條規(名) 規條、律條、條例

てうぎやく嘲諷(名) 嘲諷、笑話、鬪眼

てうぎよ釣魚(名) 釣魚

てうきん調金(名) 湊項

てうきん朝觀(名) 朝觀(chi'ao?)

てう

てうくわ超過(名) 超過、過多、太多〔輸入超過〕(ユニウ)進口過多、

出口的抵不出進口的〔豫算超過〕(ヨサン)豫算超過

てうくわん條款(名) 條款、議訂

てうぐん超群(名) 超羣

てうけん朝權(名) 朝廷的權柄

てうけん朝見(名) 朝見、朝參

てうけん條件(名) 條件、規約、條款、規條〔條件付で賛成する〕表

附條件賛成了〔條件付の〕有條件的、有條款的、限以條件的、

附條件的、定有規約的

てうこう朝貢(名) 朝貢

てうこう彫工(名) 與彫刻師(chi'ao?)

てうこう兆候(名) 兆候、兆頭

てうこく彫刻(名) 彫刻、刻字、刻板、彫鏤、鐫、鐫刻〔彫刻術〕

(ジュツ)彫刻術、刊刻術、彫刻藝術、彫刻師(シ)刻字匠、彫匠、刻匠、彫刻師、刊刻匠

てうさ調査(名) 調査、查考、考察

(戸口調査)〔コロウ〕調査戸口

てうさ挑唆(名) 挑唆

てうさい弔祭(名) 弔祭〔弔祭料〕

(レウ)發喪錢

てうざい調劑(名) 配藥、調製藥劑〔調劑師〕(シ)配藥的、藥劑師

てうざう彫像(名) 彫像

てうざん朝參(名) 朝參、朝見

てうし調子(名) ①腔調、樂調〔音

の調子〕聲音的腔調兒〔彼の支那語は調子がよい〕他的中國話腔調兒好〔調子を合せて歌ふ〕合着腔調兒唱〔喇叭の調子につれて行進する〕隨着喇叭的腔調兒前進〔琴を弾く前に先づ調子を整へる〕彈琴先定絃兒〔調絃兒〕②高興〔私が一寸褒めると彼はすぐ調子に乗って来る〕我一誇獎他就高起興來了〔彼は調子に乗ったから失敗した〕他乘着高興辦了所以失敗了〔調子がつく〕打起高興〔酒に酔ってよい調子になる〕喝醉了很高興 ③板、音節、拍子〔手で調子を取る〕用手拍板 ④様、様子〔此調子で勉強すれば必ず及第する〕這麼樣用功一定考

得中〔彼はいつも此調子です〕他老是這麼樣 〔彼は調子外れの人だ〕他是和人格別的人、他是別致的人〔人と調子を合せる〕家裏打車外頭合轍〔調子外れの聲を出す〕狼嚎鬼叫的嚷〔仕事は中調子よく行かぬものです〕事情不能都那麼順順當當的〔この調子では今年も豊作でせう〕按着脚下看今年也是好年頭兒

てうし銚子(名) 支壺、酒壺

てうし弔死(名) 弔喪、弔唁

てうじ弔詞・弔辭(名) 弔詞、誄詞

てうじ條枝(名) 條枝兒

てうじう鳥獸(名) 鳥獸、禽獸、飛禽走獸

てうしやう彫匠(彫匠、刻字)
 てうじやく鳥雀(鳥雀「匠」)
 てうじゆう鳥銃(鳥槍)
 てうしよ調書(調査事情の文書、審判案件の文書、調査録)
 てうしよ弔書(弔唁的信)
 てうしん調進(製造)
 てうしん朝臣(朝臣)
 てうす朝ス(佐賢百動) ①朝見、朝參
 ②朝(天に朝す)朝天
 てうす弔ス(在變他動) 弔
 てうする潮水(潮水)
 てうせい調整(調整、整齊、標準、對準「調整器」) 調節、較制、調整器、調節裝置

てうせい調製(製造、調製、配製、炮製、(藥「調製品」) 配製品、調製的藥劑「本劑は最上等の原料を用ひて調製せるものなり」本劑乃最上等原料所配製者
 てうせう嘲笑(嘲笑、譏笑、起者)
 てうせき朝夕(朝夕、朝暮)
 てうせつ調節(調劑、調節、調和、平「米價を調節する」平米價「金融を調節する」調劑金融「聲を調節する」調節聲音「羣てうぜつ超絶(絶倫、超等、超てうせん挑戦(挑戰、討戰、叫陣、激人相競)
 てうせん朝鮮(朝鮮、高麗「朝

鮮人參(人參) 高麗薑
 てうぜん超然(超羣的、卓越的、出類拔萃的) 孤立的、隔離的、置身局外的、局外望看
 てうたい調帶(機器帶、皮帶)
 てうたく彫琢(彫琢)
 てうたつ調達(齊備、備辦、湊、供、供給、籌集、籌畫「資金の調達」湊本錢、籌備財用「五百圓は調達出来ない」湊不出五百圓「用品は皆調達出来ました」) 所用的東西全都備辦妥了
 てうち手打(拿拳頭打死「虎を手打にする」拿拳頭打死老虎) 親手砍人「主君が家來を手打にする」君主親手砍家臣) 家裡

做的「手打の蕎麥(の)」家裡做的
 てうちん挑燈(與ちやうちん) 同
 てうづ手水(洗臉水、洗手水) ①洗臉水、洗手水 ②解手(小便) 出恭(大便)「手水をつかふ」洗臉「手水盥」(ダラヒ) 洗臉盆、洗手盆「手水場」(バ) 1. 洗手的地方 2. 茅房、茅廁「手水鉢」(バチ) 洗手盆
 てうてい朝廷(朝、朝廷(chi'oo))
 てうてい調停(調停、調處、調解、調和、説和、勸解、從中勸和、居中調停、居中講和、調停和局(調 ti'oo))
 てうてき朝敵(叛兵、叛賊)
 てうでん弔電(弔唁的電報)

てうご調度(手使的東西、隨手用的傢伙) ①弓箭
 てうな手斧(鑿子、木鐮)
 てうにく鳥肉(鳥肉)
 てうば嘲罵(嘲罵)
 てうば調馬(調馴馬匹、教馬、調教馬匹「調馬師」) 教馬師傅、馬排
 てうはい朝拜(朝賀)
 てうばう眺望(眺望、眺遠兒) ①眺望、眺遠兒
 ②風景、景色
 てうはつ挑撥(挑、挑撥、叫) ①動心「情慾を挑撥する」挑情、招人的色
 てうぶ跳舞(跳舞)
 てうふく朝服(朝服、朝衣)

てうふく調伏(求佛除祟)
 てうふん鳥糞(鳥糞「咒人」)
 てうぶん弔文(弔文)
 てうぶん條文(條文)
 てうほ朝暮(朝夕、朝暮)
 てうはふ調法(方便)
 てうみ調味(調合滋味兒)
 てうもく鳥目(鵝眼錢、制錢)
 てうもく條目(條目)
 てうもん弔問(弔問)
 てうや朝野(朝野)
 てうやく調藥(與てうざい同)
 てうやく條約(條約、約章「條約を結ぶ」) 訂立條約、結條約、締約(條約を繼續する) 續訂條約

てう

〔條約の箇條〕約條、約款、約載
的條規〔通商條約〕通商條約、商
約〔媾和條約〕講和條約、和約
〔假條約〕草約〔條約國〕有條約的
國、有約各國、締盟國

てうら 手占(色) 相手

てうらく 凋落(色) 凋落、凋零

てうり 調理(色) ①調理、料理 ②

てうり 條理(色) 條理 「做菜

てうりゆう 潮流(色) 潮流〔時代の

潮流〕時世潮流 「禽、羽族

てうる 鳥類(色) 鳥類、鳥部、飛

てうれい 條例(色) 條例

てうれん 調練(色) 操練〔調練太鼓〕

てうろ 操練的鼓〔調練場〕(色) 教

てうろ 朝露(色) 朝露 「場、操場

てうてお

てうろう 嘲弄(色) 嘲弄、耍笑、戲
笑、戲弄

てうわ 調和(色) 調和、調勻、融

合、和諧、協合、合音(音)、相叶

〔調〕和聲(調)〔中〕に立って調和す

る〔從〕中給調和〔あの音はよく調

和して居る〕兩個音很調勻〔彼は

人と調和して行けない〕那個人

不能和人合乎相處〔音が調和し

ない〕音韻不和、音不叶〔色の調

和〕色の調和、配色

てうる 弔慰(色) 探喪 「越、出衆

てうろ 超越(色) 超越、超羣、卓

ておくれ 手後(色) 晚了〔今から方

法を講じても手後だ〕現在設法

也晚了〔この病氣は手後になった

ておてか

からもう治らない〕這個病治晚
了再不能治了

ておち 手落(色) 遺漏、有縫子、差

三落四〔萬事手落なく整ふ〕諸事

妥協的沒有遺漏

ておひ 手負(色) 受傷

ておほえ 手重シ(形久活) ①鄭重、慇

懃②很難

ており 手織(色) 自己院兒織的〔手

織木綿〕(モリ) 土布

てがかり 手懸(色) 頭緒、端倪〔何

の手懸もない〕甚麼頭緒也沒有、

摸不着頭腦〔現場に落した手拭

が手懸りで捕縛された〕在事主

那兒落下的手巾是證據被巡警

拿着了

でかかり 出懸(色) 要走、要出門

でかかる 出懸ル(四段自動) 要走、要

出門 「的好的人

てかき 手書(色) 寫好字的人、寫

てかく 手懸ク(下二段他動) 親手辦

でかく 出懸ク(下二段他動) 走、出門

〔これから出懸けませう〕俗們這

就走罷〔出懸けやうとする所へ客

が来た〕要出門時有人來了

デカグラム(名) (Decagramme) 公

錢、尅、吐

てかけ 妾(色) 妾、姨奶奶、偏房

てかげ 手影(色) 手遮亮兒〔手影に

なる〕燈不順手 「時

でかけ 出掛(色) 臨走時、要出門

てかげん 手加減(色) 與てごろ

てか

同

てかご 手籠(色) 提溜的管子

てかし 手械(色) 手鐲(鐵)、木杓子

〔木〕桎、手鐐

てかす 手數(色) 與てさう同

でかす 出來ス(四段他動) 鬧出來〔大

變な事を出來した〕鬧出大事來

了

てかせ 手械(色) 與てかし同

てかせ 手風(色) 手風兒

でかせぎ 出稼(色) 上外國拵錢去

〔出稼人〕(ニシ) 上外國拵錢去的

人、僑民

てがた 手形(色) 對條、滙單、票據、

票〔約束手形〕(ヤクソ) 期票〔爲替

手形〕(カハセ) 滙票〔銀手形〕(ギン) 銀

票〔一覽拂手形〕(イチランバ) 現票、

てか

即票、滙票、即付票、即期支票

〔融通手形〕(ユウツ) 空票、通融期

票〔手形交換〕(ウケワカ) 滙劃〔手形

交換所〕(クワンショ) 滙劃總會、支

票交換所、票據交易所〔手形支

拂人〕(テヒシヤ) 應滙票人、償券者

〔手形振出人〕(ダシヤ) 出滙票人、

立券者〔手形振出料〕(ダシヤ) 票

貼〔手形割引〕(リビキ) 貼現、期票

貼現、折收未滿限期票〔爲替手

形を振出す〕發出滙單〔手形の不

履行〕不應滙單〔手形の裏書〕應

付滙票的事〔手形の支拂を拒む〕

不認支票、支票不付款

でかた 出方(色) ①待〔先方の出方

によつては此方も承知しない〕看

他怎麼個待我法我也不答應 ②

てか

てか

賣座兒的(芝居)

てがたし手堅シ(形久活) 沈穩、穩

當「あの人は手堅い人だ」他是沈穩的人「手堅くやれば失敗はない」沈穩的一辦就沒有失敗「手堅い商賣をする」做穩當的買賣

てかつく(四段自動) ①晃晃的 ②光溜溜的

てかてか(副) ①晃晃的「太陽がてかてか光る」太陽一晃一晃的亮 ②光溜溜的「頭がてかてか光る」腦袋光溜溜的

てがはり手替(名) ①替工(代リテ仕事)

②形式不一樣的东西

でかはり出替(名) 交代 「餉的てがひ手飼(名) 自己養活的、手てがみ手紙(名) 信、書信、書函、

てか

信函、函件、信件(御手紙)瑤函、華翰、雲翰、尊函、吉函、惠函

「御手紙拜見仕候」頃接華翰、辱承惠函「手紙が来た」有信來了「手紙を書く」寫信「手紙で問合す」寫信打聽、函詢(文)

デカメートル(名) (Decimeter) 公尺、料

デカリットル(名) (Dealiter) 公斗、料
てがら手絡(名) 頭箍兒、圍頭座兒
てがら手柄(名) 功、功勞、功勳、勞績(手柄顔(ガホ) 自誇有功勞てがる手輕(名) ①靈便「手輕にい

でたつ) 打扮的很靈便 ②淡淡的「手輕に挨拶する」淡淡的應酬 ③輕爽的、爽手「事が手輕に運びます」事情就爽手了「何事も手輕に

てかてき

する」甚麼事都輕爽的辦(手輕な料理) 便飯 「爽、爽手

てがるし手輕シ(形久活) 靈便、輕
てき敵(名) 敵、敵人、讐人、仇敵、讐家、冤家、對頭兒、敵手(人類てき嫡(名) 嫡「の敵」人類公敵

てき出(接尾) 的
でき出来(名) ①做、造、作 ②年頭兒、年成、收成的 ③現成的(テキ)「此度の試験は出来が悪かった」這回考試考的不好「此繪は出来がよい」這個畫兒畫的不錯「今年の作物は出来がよくない」今年年頭兒不好「今日の演説はあの人には上出来だった」今天他的演説在他還算是可以的

できあがる出来上ル(四段自動) 得

了、成り「家はもう出来上りましたか」房子已經蓋得了沒有「出来上りましたら御宅へ持たせて上げます」趕做得了可以給您送去了

できあき出来秋(名) 秋成、大秋

できあひ出来合(名) 現成的(出来合夫婦(フウ) 露水夫妻、湊合的

兩口子(出来合の衣服) 成衣、現成的衣裳(出来合の品は誂(フツ)の品より安い) 現成兒的貨比定做的便宜

てきい適意(名) ①合心、可心、趁心、如意、適意 ②任意、隨意

てきえい敵意(名) 敵意、敵心
てきえう摘要(名) 摘要、標由、要略、總略、綱目、撮要、節略、提

てき

てきおう適應(名) 適合、合式、順應(適應さす) 并合式、作合式、通融(環境に適應する) 與環境相應、與際遇適應

てきがいの敵愾(名) 敵愾
てきかく的確(名) 的確、準切

てきがふ適合(名) 適合、合式、恰

てきかん敵艦(名) 敵艦
てきき手利(名) 手巧的人
てきき摘記(名) 摘記
てきき敵騎(名) 敵騎

てきぎ適宜(名) ①適宜、合宜、合當(適宜に叶ふ) 合乎適宜(適宜の處置) 合宜的處置 ②隨便(各人の適宜にする) 隨各人的便辦
てきぐわん敵丸(名) 敵彈

てき

てきぐん敵軍(名) 敵軍

てきこく敵國(名) 敵國
できごころ出来心(名) 無心中(一時の出来心で盗む) 一時無心中偷了去了

できごと出来事(名) 忽然的事情、開出來的事情、變故、失事、事端、事變、意外的出來事「意外變故」
てきさい嫡妻(名) 嫡妻、嫡室、嫡
てきさい摘載(名) 摘錄
てきざい適材(名) 妥當的人材、相宜的人(適材適所) 人地相宜、人得其位位得其人

できざま出来様(名) 成績、做的
てきし嫡子(名) 嫡子
てきし敵視(名) 以敵人看待、仇視

てき

てき

できし溺死(名) 溺死、淹死
 てきしつ 嫡室(名) 嫡室、嫡妻、嫡
 てきしやう 敵將(名) 敵將 「配
 てきじやう 敵情(名) 敵情、敵兵
 的情形(敵情を探る) 探敵情
 てきじやう 敵城(名) 敵城
 てきじやう 滌淨(名) 洗乾淨、瀟
 乾淨
 てきしやぶつ 擲射物(名) 擲射物、
 擲物、投射物
 てきしゆ 敵手(名) 敵手、對手(好
 き敵手) 棋逢敵手
 てきじゆう 適從(名) 適從
 てきしゆう 摘出(名) ① 捏出來
 (ツマミ) ② 拿出來提(言に出シ)
 (トス) ③ 取出來(言に出シ)
 てきしゆう 摘出(名) 摘出

てき

てきしよう 的證(名) 確證、確據、
 鐵據、實據
 てきじん 敵人(名) 敵人、敵頭、敵
 てきす 敵ス(佐賢自動) 敵 「手
 てきす 適ス(佐賢自動) 適、相宜、合
 式(此地は桑に適しない) 這兒的
 地土種桑樹不相宜(機宜に適せ
 る計畫) 適於機宜之計畫(油畫
 は日本の部屋には適しない) 油畫
 不適於日本房間
 てきす 手創(名) 受的傷
 てきせい 適性(名) 合心、對心思、
 心投意合
 てきせい 敵勢(名) 敵勢
 てきせつ 適切(名) 合式、恰當、貼
 切、切實、適切、剴切、迫切(此
 語は適切な譯語がない) 翻譯這

てき

個話沒有貼切的話(適切な批
 評) 恰當的批評(適切な例) 貼切
 的例(適切な議論) 切實的議論
 (できそこなひ 出來損(名) ① 做壞
 了的、辦壞了的 ② 廢人、有殘疾
 的人、殘廢人 「壞了、辦壞了
 できそこなふ 出來損(名) ④ 做
 できそん 嫡孫(名) 嫡孫
 てきたい 敵對(名) 對敵、相敵、相
 抵、抵對、抵抗、作對、抵擋
 てきたう 適當(名) 相當、合宜、適
 當、迫切、合式、恰當、妥當、適
 宜(適當の機會) 相當機會(適當
 の處置) 合宜的辦法、得宜的處
 置(これが適當です) 這是妥當的
 できたか 出來高(名) 出產額數
 てきたふ 敵對(名) 對敵、相

一〇五〇

てき

敵、抵對、抵抗
 てきだん 敵彈(名) 敵彈
 てきち 敵地(名) 敵地
 てきちゆう 的中(名) ① 中鵠(名)、
 中靶子(名) ② 猜着了(推察)、猜對
 了(中) ③ 應話(前ニ云ヒ
 タルガ)
 てきど 適度(名) 合中、合乎中、有
 節制、不過度的、適度、適度に運
 動する(運動的合中) 適度に飲食
 する(飲食合中) 適度に喫煙する(喫
 煙有節制、不多吃煙) 適度の
 速さ(不快不慢、不速不遲、中
 庸的速度)
 てきにん 適任(名) 適任、勝任(彼
 は適任だ) 他勝此任、他能勝任
 てきは 手際(名) ① 做出來的、做
 的(此品は手際よく出來た) 這個

てき

東西做出來的很好看(この細工
 は手際がよい) 這個活做的很巧
 妙 ② 辦事的能耐(彼の手際は實
 に立派だ) 他辦事的能耐實在的
 高妙
 てきは 出際(名) 要出門的時候、
 てきはえ 出來映(名) 辦的甚妙、
 做的很巧
 てきばき 副) 痛痛快快的、簡簡
 決決的(てきばき仕事をする) 痛
 痛快快的辦事 「的時候
 てきはじめ 出來初(名) 剛做得了
 てきはつ 摘發(名) 指摘
 てきはふ 適法(名) 合規矩
 てきひ 適否(名) 當不當、合式不
 合式
 てきひやう 適評(名) 迫切的評論、

てき

恰當的批評 「高的人
 てきぶげん 出來分限(名) 一步登
 てきへい 敵兵(名) 敵兵 「同
 てきほし 出來星(名) 與出來分限
 てきほつ 溺没(名) 溺死、淹死
 てきほんしゆぎ 敵本主義(名) 聲
 東擊西的主義
 てきめん 觀面(名) 眼前、立刻(惡
 事をすると因果は觀面だ) 做惡事
 立刻就有報應、現世現報(藥が
 觀面に利く) 吃的藥立刻見效
 てきもの 出來物(名) 疥癩、瘡、瘍、
 疔、膿瘡(ウミヲモ)、膿瘍 「藥
 てきやく 敵藥(名) 反藥、相尅的
 てきやく 適藥(名) 合式的藥
 てきよう 適用(名) 合用、取用、適
 用(この例はこの場合には適用出

一〇五一

來ない)這個例於這個事情上不能合用(法の適用を誤って居る)適用法律用錯了(この規則を適用する)適用這個章程
 てきり出切(名) 滿出去了
 てきりやう適量(名) 合式的分量、合中的量兒、適量
 できる出切ル(四段自動) 滿出去了
 できる出來ル(上一段自動) ①會、能、能做、做得上來(こんな事は子供にでも出来る)這麼樣的事連小孩子也做得上來(彼は英語が出来る)他會英國話(彼は數學が出来る)他會算學(彼は何でも出来る)他是甚麼都會、他是無一不會的(私に出来る事なら何なりと致します)只要我能做的事無論

甚麼都可以給您辦、但分能成的事情我必給盡力的 ②出(彼處では色色の呉服物が出來ます)那邊兒出各樣的綢緞 ③得(お誂の品は明日必ず出來ます)您定的貨明天一定得(家が出來た)房子蓋得了 ④長、種、生(子供が出來た)生了小孩兒了、添了小孩兒了(此處は米がよく出來る)這個地方愛長(chang)稻米(顔に腫物が出來た)臉上長了一個疙瘩(これは私の家に出來た野菜です)這是我家裏種了的青菜 ⑤湊(金がもう五百圓出來たから旅費には差支ない)我們已經湊出五百元來了這在盤費上不撒手 ⑥行(それは出來ない相談だ)您

所商量的這是行不開的話、您所說的行不開 (あの人は學問が出來る)他有學問、他的學問好(あの人はよく出來た人です)他是很老實的人(用意が出來たら出發しませう)預備好了就起身(及第が出來れば仕合だ)若是能叢考中就造化了(出來るだけ早くする)儘着力兒快快的辦(値段がまだ出來ない)價錢還沒說開哪
 てぎれ手切(名) 撒手、撒手(手切金)斷絕關係給的錢
 てきん手金(名) 定銀、定錢
 てぎれ出切(名) 裁衣剩的零材料
 てきれい適例(名) 恰當的例、適例

てきれい適齡(名) 徵兵年齡
 てきろく摘録(名) 摘録、節録
 てきん手金(名) 定銀、定錢
 てく木偶(名) 木偶、木像、泥人(主でく出來(上一段自動) 與できる同
 てぐす天蠶絲(名) 樟蠶絲、魚絲
 (天蠶)樟蠶
 てぐすねひく(四段自動) ①搓拳磨掌②引領而待
 てくせ手癖(名) 手不穩、手黏、手不老實(あの子は手癖が悪い)那個小孩兒手不穩
 てくだ手管(名) 圈套兒、灣子、慣技、狡計(彼の手管に乗るな)你別上他的擋(到頭手管に乗せられた)到底落在他的圈套兒裡了(落在局裡了)あの女の手管

にかかった)叫那個女人給迷蕩住了
 てぐち出口(名) 出去的口路、出
 (でくのほう) ①與でく同
 木彫泥塑的人、笨人、沒能耐的人
 てくはす(四段自動) 遭、遇、遇見、碰見、碰了、趕上(不運にでくはす)碰了不好的運氣了、運氣背了(緊急事件にでくはす)遇急、遇着緊急的事件(二人が大道の真中ででくはした)倆人在大街上當中碰見了(相場の暴落にでくはした)趕上了忽然行市落了
 てくばり手配(名) 部署、分配、分着手、分頭(八方へ手配して探す)往四面八方分頭去找

てくび手首(名) ①手腕子②手
 てくほく(名) 坑坎、高高矮矮、坑坑窪窪(道がでくほくて歩きにくい)街上坑坑窪窪的不好走
 てぐみ手組(名) 盤着手
 てぐり手繰(名) 親手繞的線
 てぐるま手車(名) ①自己拴的車、自用的車②轎子(小兒遊) ③てぐるま(名) 輦
 てげいこ出稽古(名) 出外教學、就館(師方)就教
 てけうじゆ出教授(名) 同上
 てこ挺子(名) 擡棍、橫杆、千斤
 槓、挺棍(源ハ此處)
 てこ(名) 錘了頭
 てごころ手心(名) ①手心(タナゴ)②勁計兒(ゲン)、酌量(この手心でや

れば間違はない」按着這個勁計
 兒辦就沒有錯兒「年が若いから
 手心する」酌量其年幼「子供を教
 へるには手心が必要で」教小孩
 子總得有個勁計兒
 てごし手與(名) 與たごし同
 てごしらへ手拵(名) 自造、家裡
 做的
 (でこすけ(名) 鑄了頭的人、罵
 (てこずる(四段自動) 進退兩難、辦
 糟了、不好惹、惹不得、深不得
 淺不得、棘手
 てごたへ手答(名) ①一撒手就覺
 乎出來、有能中的預感「矢に手
 答があった」手裡覺乎出來這個
 箭必能中②扎手、硬對兒「この
 相手は手答がある」這個敵手有

點兒扎手、遇見硬對兒、遇見勁
 敵
 てこはし手強(形) ①不是個
 兒、敵不過「此敵は中手強い」
 這個敵手不是我的個兒②硬、
 嚴嚴的、強硬「手強く談判する」
 嚴嚴的懲治
 (でこぼこ(形) 坑坎不平(路)、坑
 坑窪窪(洞)
 (てこまひ(名) 手古舞(名) 跳舞一類
 てごめ手込(名) ①硬「手込に奪っ
 て行く」硬搶過去②強姦
 てごろ手頃(名) ①合我的力量②
 合手兒、合式「手頃な棒を取上げ
 る」抄起來一個合手兒的棍子
 「此靴(カ)は手頃です」這個皮包
 正合手

デザート(名) Dessert 蕃菜尾品、
 隨飯的小吃兒、飯後食品
 てざいく手細工(名) 手工
 てざう手相(名) 手相、掌紋「手相
 を見る」相手「手相見」(1)相手先
 生
 てざかり出盛(名) ①正上人的時
 候「縁日は今が人の出盛です」廟
 是現在正上人的時候兒哪②正
 下來的時候、盛出時、正應時、
 極盛時節「菓物は今が出盛です」
 現在菓子正下來的時候
 てざかる出盛(四段自動) ①正上
 人②正下來
 てざき手先(名) ②手指頭、手尖
 兒「日本人は手先が器用です」日
 本人手頭兒巧③手下(サシ) ④債

探、細作「人を手先に使ふ」拿人
 當替死鬼兒、拿人當傀儡(幽霊)
 てざき出先(名) ①去處「出先が分
 らぬ」去處不明白②前方「出先
 の官吏に命令する」委派前方官
 員
 てざく手作(名) 自造、家裡做的
 てざぐり手探(名) 摸索、摩挲、暗
 摸、胡摸「暗中手探する」暗中摸
 索、在暗中摸道兒
 てざげ手提(名) ①手提皮包、提
 溜的筐子②提桶「手提靴」(カバン)
 手提皮包、提包
 てざげ手酒(名) 自造的酒
 てざはり手障(名) 與手當(た)同
 てざを手棹(名) 篙
 てざし弟子(名) 門生、門人、門下、

徒弟、弟子、學徒、工徒(弟子入)
 (イ) 做門生、做徒弟、投工學
 藝、投師學藝「弟子子」(イ) 小徒
 弟、年幼的門生「弟子仲間」(ナカ)
 同門、同學、一師之徒
 デシグラム(名) (Deigramme) 公
 釐、趁、趁
 てしごと手仕事(名) 手工
 てした手下(名) 手下「手下につく」
 屬在手下
 てじな手品(名) ①變戲法兒、玩
 兒戲、戲法兒②迷惑人、圈弄人
 「手品師」(シ) 1. 變戲法兒的、玩
 兒戲的、術士 2. 愛圈弄人的人
 「手品使」(ツカヒ) 同上 「同上
 てしほ手鹽(名) 碟子「手鹽皿」(ガラ)
 てしほ手鹽(名) 親生自養的「手鹽

にかけた子」親生自養的兒子
 てしほ出潮(名) 晚潮
 てしまひ手仕舞(名) 入於清算手
 續(會計)、破産 「寸、粉
 デシメートル(名) (Decimeter) 公
 てしや手者(名) ①寫好字的人、寫
 的好的人②武家子(武藝)
 てしやう手性(名) 手法兒「此子は
 手性がよい」這個小孩子寫的字
 手法兒好
 てしやく手酌(名) 自斟自飲
 (でしやばる(四段自動) ①冒失、冒
 昧、莽撞「子供達がでしやばるな」
 小孩子們別冒失②挿言、挿嘴
 「此處は汝等がでしやばる處でな
 い」這兒不是你們插嘴的地方

てしてす

③出風頭、逞能、顯白、把自己擺在頭裡、愛出頭露面(彼は何事にもでしゃばる事が好きです)他甚麼事都愛出風頭、他甚麼事都愛挿身

てしゆ手酒(名) 自造的酒

てじゆん手順(名) 層次、次序(手順が狂ふと萬事がくひちがひます)辦事的層次一亂諸事都要出岔兒

てしよく手職(名) 做手工的生業
てしよく手燭(名) 手燈子、把兒燈

デシリットル(名) (Dealer) 公合、(です) (助動テセ・デシ・デス) 是「これは私の弟です」這是我的兄弟(雨が降るでせう)許要下雨(今は何時

てす

でせう)現在幾點鐘(私の父は判事で兄は軍人です)家父是做推事家兄是當武官(昨日の客は八人でした)昨天來的客人是八位(それは本當です)那是不錯的

てすう手數(名) 費事、費手、週折

(手數がかかる)費事、費手、累贅(手數を省く)省事(色色手數をかけて漸く出來上った)費了多少週折纔辦成了(お手數ですが)これを彼に渡して下さい(累贅)把这个交給他(手數料)(レ)用錢、中費、中用、佣錢(以上)、謝和的錢、勞金、酬金、謝資(以上)、使費、規費、例金(以上)、花銷(以上) (です) (から) (を) 所以、故此、這麼着

てす

てすき手透(名) 閒着、閒工夫、工夫兒(御手透に一寸書いて下さい)你、有工夫兒請給我寫一寫(てすき)出過(名) 不安分、冒失(出過者)(モ)不安分的人、冒失的人

(てすき)出好(名) 愛出門的人

(てすぎ)出過ル(上一段自動) ①冒失、不安分(君は出過るから人に嫌はれるのだ)你太冒失所以討人嫌(太過于)洋燈の心が出過ぎた(洋燈的火頭兒(火苗兒)太大(此列の三番目が出過ぎて居る)這一行第三的人太往前了)

デスク(名) (Desk) 寫字檯、寫字桌、書桌
てすち手筋(名) ①手紋(名) ②手

てすり手摺(名) 扶手、扶手欄杆

てせい手製(名) 自造、家裡做的

てせい手勢(名) 手下的兵

(てせう) (變動) です之第一變化

てぜま手狹(名) 窄

てぜまし手狹シ(形久括) 窄

でぞめ出初(名) 初次出去

でそろひ出揃(名) 齊

でそろふ出揃フ(四段自動) 齊(人が出揃ふ)人來齊了(稻の穂が出揃ふ)稻米的穗兒長齊了(展覽會の出品が出揃ふ)展覽會的出品都擺齊了

てだい手代(名) 夥計、營務者
てだうぐ手道具(名) 手使的傢伙、

てすてた

隨手用的傢俱
(てだし)手出(名) 管、下手、挿手

干渉(彼は何事にもよく手出をする)他甚麼事情上都愛管(都愛下手)他甚麼事都愛干渉(此事は貴下は手出をせぬ方がよい)這件事你不必你挿手
てだすけ手助(名) 幫、幫助(娘が母の手助をする)女孩兒幫着母親

てだち出立(名) ①動身、起身、啓

でたつ出立ッ(四段自動) ①起身、動身、啓程

てだて手段(名) 手段、法子(手段が盡き果てた)手段都用盡了、

てた

法子都沒了(此手段は最も巧妙です)這個手段最巧妙

でだま出店(名) 分行、分莊

てだま手玉(名) 耍子兒(人を手玉に取って投げる)把人像球兒似的一扔

てだらひ手盥(名) 與手水盥(だらひ) (でたらめ)出鱈目(名) 混、亂、胡亂、荒唐、沒目的的、沒主意的、茫然的(出鱈目に答へる)胡亂的回答(出鱈目であてにならぬ)荒唐的不可靠(出鱈目にしやべる)胡說八道、瞎咧咧、瞎謔胡咧、信口胡說、信口兒開河

てぢか手近(名) ①手底下(トモ)、近

處、左近、眼前、目前、手邊(手近な處)手底下的地方(トクト)、左

てたてち

てち

近地方(近)〔手近にある〕即在近處、在眼前、在手邊 ②平易的、卑近的、淺近的〔手近な例を擧げる〕說一個平易的例、拿一個眼前的比方說 〔手近な處から教へて段難しい方へ進む〕從淺近的地方教起漸漸的往難裡進步 ③抄近兒〔手近に云ふ〕抄近兒說

てちかし手近シ(形久括)

①很近、

在眼前、就在近處、在左近 ②淺近的、平易的、卑近的 ③抄近

てちがひ手違(名)

轆轤兒、一時之障礙、意外變故 〔一寸した手違から大層御迷惑をかけました〕因爲一點兒轆轤叫您受連累了

てちやう手帳(名) 手帳、雜記簿、

てちてつ

存記簿、手錄備忘簿、懷中記事冊

てちやう手錠(名)

手鐐、手棒子、

てちやうぶ手丈夫(名)

結實、堅

てつ鐵(名)

鐵 〔固

てついで手序(名)

順便、順手兒、

就手兒

てついろ鐵色(名)

鐵色

てつえふ鐵葉(名)

與ぶりき同

てつあん鐵案(名)

鐵主意

てつかう鐵坑(名)

鐵鑛

てつかい(形久括)

大(どう)せやるならでつかい事やれ)要辦就辦一件

てつがく哲學(名)

哲學 〔大事

てづかひ手遣(名)

手使的

てつ

一〇五八

てつかふ手甲(名)

手套的一類

てつがふ手都合(名)

辦事的層

てづかへ手支(名)

站着手(テツカヘ)

てづかみ手摺(名)

拿手抓(テツカミ)

てづかみ手摺(名)

菓子(テツカミ) 拿手抓吃點心

てづから手ヲ(副)

①親手、親自

〔手ら渡す〕親手交付

②自己

てつかん鐵艦(名)

鐵艦、鐵甲船

てつき手付(名)

手動作的様子、

てつき鐵軌(名)

鐵軌 〔手式

てつき鐵器(名)

鐵器(鐵器類) (ルキ)

てつき鐵器類

鐵器類

てつき鐵弓(名)

火杖子、鐵鈹

てつきよ撤去(名)

撤、撤去(彼の

名前を撤去する) 把他的名字撤

てつき鐵鎖(名)

鐵鎖、鐵索、鐵鍊

てつき鐵材(名)

鐵材料 〔子

てつき鐵窓(名)

①鐵窓戶 ②牢獄

てつき鐵造(名)

鐵做的、鐵製

てつき鐵打的、鐵造的

的、鐵打的、鐵造的

てつき鐵柵(名)

鐵柵欄

てつき鐵索(名)

與てつさ同

てつざん鐵山(名)

鐵山

てつしう鐵銹(名)

鐵銹

てつしや鐵砂(名)

鐵砂

てつしやう鐵漿(名)

鐵水兒

てつしん鐵針(名)

鐵針

てつしん鐵心(名)

①剛志 ②鐵心

兒(鐵心石腸) (キチヤウ) 剛志

てつす撤去(在變自動)

撤

去了

てつきり(副) 一定、必定、準準的

〔僕の想像がてつきり當つた〕我猜

的準準的猜着了

てつきんこんくりーと鐵筋混凝

土(名) 鋼骨泗門汀、鋼骨水泥、

鐵筋混凝土、鋼骨三和土

てつくづ鐵屑(名) 鐵末兒

てつくまで鐵熊手(名) 鐵把子

てづくり手作(名) 自造、家裡做

的

てつくわい撤回(名) 撤、撤去、撤

回、撤銷、撤廢〔領事裁判權を撤

回する〕撤銷領判權〔露國は滿洲

條約を撤回した〕俄國撤去了滿

洲條約〔前の說を撤回する〕撤銷

原議、撤銷上回所說的話〔議案

を撤回する) 撤回議案

てつかわう鐵礦(名)

鐵鑛、鐵鑽石

てつかわん鐵管(名)

鐵管

てつぐわん鐵丸(名)

①鐵彈、槍子

兒 ②鐵球〔鐵丸投〕(ナ) 擲鐵球

てつげ手附(名) 定錢、定銀、定首

市錢〔手附金〕(キ) 同上〔手附金

を打つ〕放定錢、下定錢、先付定

銀、給定銀、擲定銀

てつげう鐵橋(名)

鐵橋 〔夜子

てつげう徹曉(名)

連夜、打夜、打

てつげつ鐵血(名)

鐵血〔鐵血政策

(イサク) 鐵血政策

鐵拳頭

てつこう鐵工(名)

鐵匠、鐵工〔鐵

工廠) (シヨウ) 鐵工廠、製鐵所

てつこつ鐵骨(名)

鐵骨、鋼骨

てつ

一〇五九

てつす 撤ス(佐野仙助) 撤
 てつせい 鐵製(名) 與鐵造(てつ) 同
 てつせう 徹宵(名) 連夜、打夜、打
 夜子 「石心(シ)」剛志
 てつせき 鐵石(名) 鐵石、堅固(鐵)
 てつせん 鐵扇(名) 鐵扇子
 てつせん 鐵錢(名) 鐵錢
 てつせん 鐵線(名) 鐵絲
 てつだう 鐵道(名) 鐵路、鐵道(高)
 架鐵道(カウカ) 高脚鐵路(電氣鐵)
 道(デンキ) 電車鐵路(地下鐵道)
(チカ) 地下鐵路(鐵道會社) (ワイシヤ)
 鐵路公司(鐵道線路) (センロ) 路
 線、路綫(鐵道守備兵) (ユビ) 護
 路隊(鐵道馬車) (バシヤ) 馬車鐵路
(鐵道往生) (ウジヤウ) 叫火車軌死

てつだひ 手傳(名) ① 幫忙、幫助、
 幫手、助忙 ② 小工(手傳人) (シ)
 幫忙兒的、幫手
 てつだふ 手傳(四段他動) 幫、幫
 忙、幫助、幫手(人の仕事を手傳
 ぶ) 幫人做事(部屋を片付けるか
 ら手傳つて下さい) 我要歸着屋
 子你給我幫個忙兒(私一人では
 食へきれないから手傳つて下さい)
 我一個人吃不了你幫着我吃
 てつだん 鐵彈(名) 鐵球(鐵彈投)
(チダ) 擲鐵球
 てつち 丁稚(名) 學買賣的、弟子、
 學徒、工徒、徒弟(三ホヘ丁) (丁稚
 奉公) (ウコ) 投工學藝
 てつちやう 鐵腸(名) 剛志
 てつぢやう 鐵杖(名) 鐵棍子

てつづき 手續(名) 次序、次第、法
 子、手續、程序、節次、辦法
 てつづる 鐵鏈(名) 鐵鏈子
 てつてい 徹底(名) 得要領、清楚、
 貫通、澈底、透澈(意味が徹底
 する) 意思貫通(彼の話は徹底し
 ない) 他說的話含糊糊糊的不
 得要領、他的話有不透澈的地
 方(徹底的に取締る) 徹底的取締
 「徹底的の方法」 澈底辦法(徹底
 的に取調べる) 澈底根究
 てつてい 鐵蹄(名) 馬掌
 てつてう 鐵條(名) 鐵條、鐵線、鐵
 絲(鐵條網) (モウ) 鐵條網、拌馬
 鎖、刺線(カサ)、帶刺鐵線
 てつてうてつび 徹頭徹尾(名) 徹頭
 徹尾、從頭至尾

てつとり ばやく 手取早く(助) ① 麻
 俐俐的(何事でも手取早く片
 付ける方がよい) 無論甚麼事麻
 俐俐的辦完了纔好 ② 抄近(手
 取早く云ふ) 抄近兒說、剪斷截
 說
 てつなんご 鐵納戸(名) 淺青灰
 てつばい 撤廢(名) 撤去、裁撤、撤
 銷、撤廢、銷廢(防備を撤廢する)
 撤防(法律を撤廢する) 銷廢法
 律、廢除法律(役所を撤廢する)
 把官署裁撤、裁衙門
 てつばう 鐵砲(名) 槍、槍支、洋槍
(鐵砲を打つ) 放槍(鐵砲の音) 槍
 聲(鐵砲丸) (ダ) 槍子兒
 てつぱつ 鐵鉢(名) 鐵鉢
 てつはないろ 鐵花色(名) 青灰色

てつびつ 鐵筆(名) 鐵筆 「吊子
 てつびん 鐵瓶(名) 鐵開水壺、鐵
(でつぶり) 噲噲的(でつぶり肥
 る) 胖個噲噲的
 てつぶん 鐵粉(名) 鐵末兒
 てつべい 撤兵(名) 撤兵(北京の各
 國駐屯兵は撤兵した) 在北京的
 各國駐兵都撤了
 てつべき 鐵壁(名) 鐵壁
 てつべん 鐵片(名) 鐵片
 てつべん 天邊(名) 頂兒上、頭頂(頭
 天靈蓋)
 てつほう 鐵棒(名) 鐵棒、鐵棍
(てつま) 手妻(名) 與手品(てじ) 同
 てつまう 鐵網(名) 鐵網、鐵絲網
 てつまり 手詰(名) 手頭兒緊(手モトク
 てづまる 手詰(四段自動) ① 手頭

てつむらさき 鐵紫(名) 一二藍
 てつめ 手詰(名) ① 末了了兒的、
 最後的、結局的、終局的(手詰の
 談判) 最後的談判、末了了兒的
 交渉 ② 緊緊兒、迫切的、急切
(手詰の催促) 急切的催
 てつめんぴ 鐵面皮(名) 鐵面皮、
 厚臉皮、皮臉、面皮厚、沒廉耻
 てつもり 手積(名) 拮(手ノ上ニノセテ
 てつや 徹夜(名) 連夜(ホシ)、打夜
 子(同) 熬夜(ヌルギ) 「し同
 てつよし 手強(形久語) 與てごは
 てつりん 鐵輪(名) 鐵輪子
 てづる 手蔓(名) 人情、黃緣(官途
 に就くによい手蔓がない) 要就官
 途然而沒有好人情(手蔓を求め

てつと

て大官に取り入る」托人情打點
 てつろ 鐵路(名) 鐵路 「大官
 てて父(名) 爹、父親、爸爸(父親)
 (オヤ)同上
 ててかた父方(名) 父黨
 ててご父御(名) 與ちちご同
 ててなしご父無兒(名) ①沒有準
 父親的孩子 ②孤子、孤兒 「同
 てでむし蝸牛(名) 與かたつむり
 てでころ出處(名) 出處、典故
 てでり手取(名) ①摔跤的好手(ム)
 ②實收額、實交款項(手取九十九
 五圓)九五扣、付款以九五扣計
 算、按照虛數九五折、每一百圓
 實交九十五圓、每百圓實收九
 十五圓 ③用手繞(手取ル)
 てでり手捕(名) 手得兒

てとてな

てとりなべ 手取鍋(名) 提梁兒鍋
 てながえび 手長蝦(名) 海蝦
 てながざる 手長猿(名) 長手猴兒
 てなぐさみ 手慰(名) 玩意兒
 てなつく 手懷ク(下二段他動) 暖懷、
 使親近、使歸服、使依附(子供を
 手懷ける) 誑哄小孩子
 てなは 手繩(名) 警繩
 てなべ 手鍋(名) 提梁兒鍋
 てなみ 手並(名) 能耐、本事、伎
 倆、手段(手並を見せる) 顯顯手
 段、賣弄能幹 「了(鳥獸)
 てならず 手馴ス(四段他動) 養活熟
 てならひ 手習(名) 練字(手習草紙)
 (チウシ) 練字本、仿本
 てなる 手馴ル(下二段自動) 慣(手馴れ
 の琴) 彈慣了的琴(手馴れの駒)

てつてぬ

一〇六一

騎慣了的馬駒子
 テニス(名) (Tennis) 網球(テニス
 をする) 打網球(「テニスコート」
 打網球場
 てには 豆爾波(名) 與てにをは同
 てにもつ 手荷物(名) 隨手的行李、
 隨身的行李、零用的行李(手荷
 物取扱所)(カヒトリアツ) 收發行李所
 てにをは 豆爾乎波(名) 助詞
 てぬかり 手脱(名) 遺漏、有縫子、
 失察、失誤
 てぬぐひ 手拭(名) 手巾、面巾(フナク)
 擦臉手巾(巾)、擦澡布(フナク)、拭
 身布(巾)(手拭掛)(カケ) 手巾杆兒、
 手巾架
 てぬき 手抜(名) 偷手、偷工
 てぬるし 手緩シ(形久語) 懶惰(「こん

てのつは

な手緩い 遣方では駄目だ」如此懶
 預的法子不行(彼は何をやるに
 も手緩い)他做甚麼都懶預
 てのうち 手内(名) ①手裡 ②能耐、
 本事
 てのうら 手裏(名) 手掌兒
 てのすぢ 手筋(名) ①手紋(手ノヒラ
 ②手筋兒 ③手法兒(文字ヲ書ク素
 性ノヨシアシ)
 てのひら 掌(名) 手掌兒
 てのもの 手者(名) 手下的
 てのもの 手物(名) 得意的(數學は
 彼のお手の物だ) 算學是他很得
 意的
 ては(動) 則、就(出ては忠入りては
 孝) 出則忠入則孝(文) 「金が無く
 ては飯が食へない」 沒有錢就不
 能吃飯(雨が降っては私は行かん)

ては

若下雨我就不去
 ては 出端(名) 出去的縫子
 ては(動) 則、就、與ては同(彼が
 死んでは後が困るだらう) 他死了
 後嗣就爲難罷(貴下は病氣では
 行くのを止めなさい) 你既是有
 病就歇了不用去了
 てば 出齒(名) ①齶牙、包牙 ②齶
 牙子(ハシ) ③肉刀
 デパートメントストア(名) (De-
 partment-store) 百貨商店
 てばいり 出入(名) 與でいり同
 てばうき 手筈(名) 小筈筈
 てばうだい 出放題(名) 與でたら
 てばこ 手箱(名) 匣子 「め同
 てばしこし 手捷シ(形久語) 快着手
 兒、麻俐

ては

一〇六三

てはじめ 手始(名) 下手、着手、動
 手(手始に一つ試さう) 下手先試
 一試看(それを手始に盜を覺え
 た) 一下手會偷起人家的東西
 來了
 てはじめ 出始(名) 剛下來(胡瓜は
 まだ出始です) 黃瓜現在剛下來
 了
 てはず 手筈(名) 次序、層次、程
 序、計畫、預定(今日の手筈をき
 める) 先預定今天作何事(手筈
 が狂った) 事情的次序亂了、預定
 的次序亂了
 てばたき 手拍(名) ①拍掌、鼓掌
 ②空手、兩手攢空拳
 てばな 手鼻(名) 拿手擗(手鼻かむ)
 擗鼻涕

ては

ではな出端(名) ①剛要出去 ②剛

要着手、剛要下手

ではな出花(名) 剛沏上の茶

てばなし手放(名) ①撒手、撒開

手②賣出去

てばなす手放ス(四段他動) ①撒手、

撒開手②賣出去「早くあの仕事

を手放す方がよい」快快的把那

件事情撒手纔好「子供を手放し

て東京へやる」把小孩子撒手叫

他上東京去「百圓で手放した」一

百元賣出去了「忙しくて手放さ

れない」忙的騰不開身子

てばばうちやう出齒庖丁(名) 肉刀

てばやし手早シ(形久活) 麻俐、爽

利、靈便、手脚靈便、快手快脚

「手早く仕事を片付ける」麻俐

てはてひ

俐的齊理事情「彼は何をするに

も手早い」他做甚麼都麻俐俐

的 「てき同

ではらう出拂フ(四段自動) 與出切

でばり出張(名) 出差、前赴、前往

「出張所」(シヨ)分行、分所、分局

てばる出張ル(四段自動) 辦不了、辦

不動「仕事の手張る」事情辦不

了

でばる出張ル(四段自動) ①出出着

「あの家が一軒だけ往來へ出張っ

て居る」就是那一處房子在大街

上出出着②有公事出外去、出

差、前赴、前往

てはん手判(名) 手目、手膜(mo)、手

てびかへ手控(名) 條紙、記事紙、

備記錄、備忘錄、副本

てひてふ

てびき手引(名) ①帶道、領道、引

道②啓蒙、開蒙「手引書」(シヨ)初

階、蒙學課本③與てづる同

でびたひ出額(名) 銚了頭

てびと手人(名) ①手下(テシ)②手

巧的人

てひごし(形久活) 與ていたし同

てびやうし手拍子(名) 拍板

てびろし手廣シ(形久活) 寬、寬綽、

寬敞「家が手廣い」房子寬綽「庭

が手廣い」院子寬敞「商賣が手廣

い」買賣交往的寬

てふ蝶(名) 蝴蝶兒

てふ蝶(名) 蝶

てふ(動) 所謂、者

てふ(貼) 包「藥一貼」一包藥

てふ帖(接尾) ①摺子、字帖(シヨ)

てふ以白紙二十張爲一帖

てふ疊(接尾) 領、鋪(疊)「三疊」

三領蓆子、三鋪蓆子「八疊敷の

座敷」八鋪蓆子の屋子

てふいご手輔(名) 小風箱

てふう手風(名) 字體

てふうきん手風琴(名) 手風琴

てふき手拭(名) 手巾

てぶくろ手袋(名) 手套兒、手掌

套(指)、沒指頭的手套(詞)「手袋

をはめる」戴手套兒

てふけい蝶形(名) 蝴蝶兒形

てふじ貼示(名) 示貼

てふじあはす謀合ス(下二段自動) 打

底兒(前以テシ)、夥同一氣(ナルニ)

てふ

てふしや謀者(名) 漢奸、間諜、細

作、奸細

てふせん貼錢(名) 找的錢、找頭

てふだ手札(名) 名片「手札形」(ガ)

四寸的像片

てふち謀知(名) 探知

てふつがひ蝶番(名) 合頁、鉸鏈、

屈戌、樞紐

てふてふ蝶蝶(名) 蝴蝶兒

てふてふ喋喋(動) 叨叨不斷的喋喋

と辯じ立てる」叨叨不斷的辯破

(でぶでぶ) 喻噉「でぶでぶ肥

る」胖個喻噉的

てぶね出船(名) 出口的船

てふふ貼附(名) 貼、貼上

てふむすび蝶結(名) 蝴蝶扣兒

てふ

てふよう貼用(名) 貼(シヨ)「三錢

の印紙を貼用する」貼三分的印

花票

てぶら(名) 空手、空身、空着手

兒、捲着空拳頭、兩手攢空拳

てぶんこ手文庫(名) 匣子、拜匣子

でべそ出臍(名) 氣肚臍兒

てへん手偏(名) 提手兒

てへん天邊(名) 盜頂兒(頂)、腦瓜

頂兒(頂)

てほごき手解(名) 開蒙、啓蒙、開

手、入手、階梯

てほん手本(名) ①法帖(字)、畫帖

(畫)②榜樣兒「習字の手本」練字

的法帖「圖畫の手本」畫畫兒的

畫帖「彼は學生の手本です」他是

學生的榜樣「あれを手本にして

てふてほ

一〇六五

一〇六四

ても

の醫者でもよいかから呼んで来い」
那個大夫也可以給我叫來「晝
は暖かでも夜は寒い」白天雖然
暖和晚上冷「死んでも節を曲げ
ない」雖然死了也不失節、寧死
也不失節「こんな事は子供に
も出来る」這麼容易的事連小孩
子都能做「これでもまだ知らな
いと云ふか」這你還說不知道麼
「一つでも碌(ロク)な物はない」一個
好的都沒有「誰でも過はある」無
論誰都有錯兒
(でも) 都「酒がないから茶でも
飲まう」沒有酒茶都喝「天氣が好
いから散歩でもしやう」天氣好
件們趨達趨達去罷「今日は暇だ
から小説でも讀まう」今天有工

ても

夫連小説都要看「こんな寒い日
に外出して風でも引くといけな
い」這麼冷的天出去一着了涼
就不好
(でも) (接頭) 名實不相副之謂「で
も醫者」狗大夫、士大夫、庸醫
「でも學者」乏念書的人、腐儒
「でも手持」使東西的法子「手
持のよい人」仔細的人、手勤的
人
「でもちぶさた手持不沙汰」空
的很、無精打彩的「私は煙草を
吸はないから手持無沙汰です」我
不會抽煙所以空的很「用事が無
いと手持不沙汰です」沒事就無
精打彩的
「でも」手許「身邊、手底下、手

てもてや

頭兒「手許に金がない」手底下沒
有錢「手許不如意」(ニイフ) 手頭兒
緊、手乏
(でも) どり出戻「① 反回頭來
(ヨリ出テ途中) ② 離婚回娘家、休回
來的姑娘
「でもなく手も無ク」容易、不費
「でも」出様「① 流、出來的「血
の出様がひどい」血流的利害②
待法「向うの出様では、こちらも承
知しない」看他怎麼個待我法我
也不答應
(て) やはらか手柔「① 手輕「手
柔に道具を使ふ」使傢伙手輕「手
柔に戸をしめる」手輕點兒關門
「お手柔に願ひます」請您手輕着
點兒② 從寬

てやてら

てやり手鏡「名 鏢鏡、手箭
てら寺「名 ① 寺、廟、禪林、和尚
廟、僧房、僧院、寺院、觀(道主)、
道院(阿)、尼姑廟(尼)、尼菴(阿)、
修道院(トリツツカ) ② 賭博場抽頭
兒
てらいり寺入「名 入學房 「告
てらごもり寺籠「名 住在廟裡禱
てらこや寺子屋「名 學房
てらしあはす照合「(下二段他動) 照
對、查對、對一對
てらす照「(四段他動) 照、照耀、閃
耀「鏡に照す」照鏡子「法律に照
す」照法律「太陽がかつかと照す」
太陽照着很亮「洋燈の光に照し
て見る」拿洋燈照一照、借着洋
燈的亮看「日月照す」日月照耀

てらてり

「下界を照す」照臨下土「雛形に
照して造る」照着原樣子做
てらふ「(四北他動) 自誇、自炫、
炫示、自己顯、自己吹噓「學問を
街ふ」自誇學問、炫示學問、自
己顯學問「新奇を街ふ」標新日
てらまるり寺參「名 拜廟 「異
てらんぶ手洋燈「名 提溜的洋燈
てり照「名 ① 照② 光潤、寶色③
晴天「照が續く」連着晴天「照が
きつい」太陽很毒 「應、關合
てりあふ照合「(四段自動) 前後照
てりかがやく照輝「(四段自動) 照耀
てりかへし照返「名 ① 反射、回
射、返照② 反射鏡、返光鏡
てりつく照付「(下二段自動) 毒、曬、

てりてる

晒「太陽が照付ける」太陽很毒
「日向は照付けます」日頭地裡晒
得慌
てりてりばうず照照坊主「名 掃
てりふり照降「名 晴雨、晴天下雨
てる照「(四段自動) 照、曬、晒「日が
照る」日頭曬「降っても照っても行
く」無論下雨晴天都去、晴雨勿
阻
(で) 出る出「(下二段自動) ① 出、出來「太
陽が出た」太陽出來了「鼻が出
る」鼻涕出來「芽が出る」芽兒出
來「穗が出る」穗兒秀出來「屁が
出た」屁出來了「揭示が出た」榜
示出來了「汗が出た」汗出來了
「聲が出ない」聲兒出不來「人の
意外に出る」出人意外② 發「大水

てをの手斧(名) 與てうな同
 てん紹(名) 紹
 てん點(名) ①點(點を打つ)點點兒
 「句讀點」(クトウ)句讀點「句點」句
 點「出發點」(バツト)出發點「着眼
 點」(チャクガ)着眼點②分數、點數
 「答案に點をつける」考卷上記分
 數「あの先生は點がきつい」那位
 先生評分太嚴「勝負の點をつけ
 る」記勝負點數、記輸贏碼子③
 地方、上頭、上「此點に注意を要
 する」要在這上頭留點兒心「こ
 の點がよくない」就是這個地方
 不好④一點兒(字書部)「點の打處
 がない」沒挑兒、沒毛病
 てん天(名) ①天「天に上る」上天
 「運を天に任(マ)せる」把運氣交

てん 給天了、聽天由命「天之に年を
 假す」天假之年(冬)②就根兒「天
 から出來ない」就根兒就不好做
 「天で私の家へは來ない」就根兒
 不上我這兒來
 てん篆(名) 篆
 てん典(名) 典
 てん奠(名) 奠
 てん轉(名) 轉
 てん恬(名) 恬
 てん傳(名) 傳
 でん殿(名) 殿
 でん田(名) 田
 でん電(名) 電
 でんあつけい電壓計(名) 電壓表、
 福爾表
 てんい轉移(名) 轉移

てん 給天了、聽天由命「天之に年を
 假す」天假之年(冬)②就根兒「天
 から出來ない」就根兒就不好做
 「天で私の家へは來ない」就根兒
 不上我這兒來
 てん篆(名) 篆
 てん典(名) 典
 てん奠(名) 奠
 てん轉(名) 轉
 てん恬(名) 恬
 てん傳(名) 傳
 でん殿(名) 殿
 でん田(名) 田
 でん電(名) 電
 でんあつけい電壓計(名) 電壓表、
 福爾表
 てんい轉移(名) 轉移

てきてん

てん

てん

てる

てるてれ

てれてき

が「出た」發了大水了③流「涙が
 出る」流眼淚「血が出る」流血④
 撒「小便が出る」小便撒出來⑤
 去、上「明日の會は貴下は出ます
 か」明天約會您去不去「綠日に
 大勢人が出る」廟季兒上的人很
 多⑥出去「彼は今し方出て行き
 ました」他剛出去的⑦到「この
 横町を突切ると大通に出ます」穿
 過這條胡同就到大街了⑧開
 「汽車が出る」火車開「船が出る」
 開船⑨起「火事は臺所から出た」
 火是從廚房起的 「咳(キ)が出
 る」咳嗽「出る杭は打たれる」樹
 大招風「雜誌は今月二十日に出ま
 す」報是本月二十日發出來「あの
 事件は新聞に出ました」那件事

登了新報了「この機械が始めて
 世に出た時」這個機器剛一興開
 的時候「高くて五圓を出ない」
 至貴也不出五塊錢「この事件は
 貴下が出て下さらぬと片付かな
 い」這件事得虧您出頭纔有個
 歸着兒「荷がぼつぼつ出ます」貨
 稍稍的走動
 デルタ(名) (Delta) 岔江口の沙洲、
 岔江的淤整地、河口淤積
 「てるてるばうず」照照坊主(名) 與
 てりてりばうず同
 テルビウム(名) (Terbium) 鐳、志
 爾比母、的律繆謨 「地
 テルル(名) (Tellurium) 碲、碲、石
 てれうぢ治療治(名) 自己療治
 てれうり手料理(名) 家裡做的菜

「でれすけ」(名) ①貪色的、色迷②
 大妞兒似的男子(女ノ様ニデレ
 でれでれ(副) ①色迷、貪色②大
 妞兒似的
 テレピンゆう(名) 松節油
 「てれる」(下二段自動) 掃興
 「でれる」(下二段自動) 同上
 「てれん」手練(名) 待人的手段、詭
 人的手段
 「てれんてくだ」手練手管(名) 同上
 「てわけ」手分(名) 分着手兒、分頭
 去
 てわざ手業(名) 手工
 てわたし手渡(名) 交、交給、交
 付、親手交給
 てをけ手桶(名) 把兒桶子
 てをどり手踊(名) 跳舞

てん

展、發達〔展開して横隊になる〕
展開成横隊〔局面が展開した〕局面漸見發達、局面開展了〔擴大了〕

てんがい 天涯(色) 天涯

てんがい 天蓋(色) 寶蓋

でんかい 電解(色) 電化、電解〔電解計〕(ケイ) 化分表

てんかいち 天下第一(色) 天下第一

てんかう 轉校(色) 轉學

てんかう 天幸(色) 天幸 「石

でんかうせき 天降石(色) 隕石、雷

でんがく 田樂(色) 古代的戲

てんがじゆう 天驚絨(色) 回子絨

てんかはれて 天下晴(副) 公然、公明正大〔天下晴て夫婦になる〕

てん

成了公明正大的夫妻了、作正式夫婦

てんかん 癲癩(色) 癩症、羊角瘋、羊癩瘋〔癲癩をか〕抽羊角兒瘋

てんかん 天漢(色) 天漢、天河、銀

てんがん 天顔(色) 天顔 「河

てんがん 天眼(色) 天眼〔天眼鏡〕

てんかん 相面用的鏡子〔天眼通〕(キヤウ) 天眼通

てんかんする 點眼水(色) 眼藥

てんき 天氣(色) 天、天氣〔天氣が悪い〕天氣不好〔好い天氣〕好天氣〔天氣になった〕天晴了〔天氣が定らない〕天氣沒準〔この寒い天氣に外出してはいけない〕這麼冷的天你別出去〔天氣豫報〕(ヨハル)

てん

豫報天氣陰晴、報告天氣

てんき 天機(色) ①天機〔天機漏すべからず〕天機不可漏 ②聖安〔天機を伺ふ〕恭請聖安〔天機伺〕

てんき 天癸(色) 月經、經水、癸水

でんき 電氣(色) 電、電氣〔電氣こゝろ〕電爐〔電氣アイロン〕電熨斗〔電氣感應〕(シオウカ) 電氣感應〔電氣團扇〕(ウチ) 電扇、電氣風扇

でんき 電氣暖爐(トリス) 電爐〔電氣鐵道〕(ツダウ) 電車鐵道〔電氣燈〕(トウ) 電燈、電氣燈〔電氣死刑〕(シケイ) 電決、電斃〔電氣鍍金〕(トキン) 電氣鍍金、電鍍、電鍍金〔電氣力學〕(キガク) 電流相感之理〔電氣療治〕(リウヂ) 用電氣治病〔空中電氣〕

一〇七二

〔カウチユ〕空中電氣、空氣電、雷電

〔潜電氣〕(セン) 繫電〔接觸電氣〕(ケツショ) 接觸電〔摩擦電氣〕(マツツ) 摩擦電、乾電〔陰電氣〕(イン) 陰電、負電〔陽電氣〕(ヤウ) 陽電、正電〔電氣をかける〕致電、充上電〔電氣か通する〕同上

でんき 電機(色) 電氣機器、電機

でんき 田器(色) 農器、農具

でんき 傳記(色) 傳(chuan) 言行錄

でんき 電球(色) 電燈泡、電泡、

でんき 點鬼簿(色) 點鬼簿、生死簿

でんき やう 癲狂(色) 瘋癲、癲狂

でんき よ 轉居(色) 移居、遷居、搬家

てん

でんき よく 電極(色) 電極、電極端

てんきり 就根兒(副) 就根兒〔てんきり知れない〕就根兒就不知道

てんきん 轉筋(色) 抽筋兒

てんきん 轉勤(色) 調任

てんく 轉句(色) 轉句

てんぐ 天狗(色) ①妖怪之名、人形而具兩翼鳥喙尖鼻 ②自大、自尊、狂傲

てんくう 天空(色) 天空

てんぐでふ 天具帖(色) 細紙之名

でんぐりがへり 翻筋斗(Yan) 翻筋斗

でんぐりがへり 合兒摟(Hei) 合兒摟

てん

てんくわ 天火(色) 天火

てんくわ 甜瓜(色) 甜瓜

てんくわ 點火(色) 點火

てんくわ 轉訛(色) 轉訛

てんくわ 典貨(色) 典的東西

でんくわ 電火(色) 電火

てんくわい 轉回(色) 轉回 「糖

てんくわう 天光(色) ①日光 ②紅

でんくわう 電光(色) 電光、閃電

電光石火の如く 電光石火似的、很迅速的

てんくわく 點畫(色) ①一點一畫

てんくわふん 天花粉(色) 天花粉

てんくわん 轉環(色) 活節、四節、轉環兒〔轉環鎖〕連環鏈

てんくわん 轉換(色) 遷換、調換、

てん

一〇七三

てん

轉換、變換〔心機を轉換する〕轉換心象〔方向を轉換する〕轉換方向、轉折方向〔轉換機〕搬簧、絕緣器、轉換器、開閉器、電門

でんくん 電訓(名) 電示

でんぐん 殿軍(名) 殿軍

てんけい 天刑(名) 天刑〔天刑病〕

(ビヤウ) 癩病

でんけう 傳教(名) 傳教

でんげき 電擊(名) 電擊

てんけつ 轉結(名) 轉結

てんげふ 轉業(名) 改生業 〔察

てんけん 點檢(名) 查點、檢點、檢

でんげん 傳言(名) 與でんごん同

てんご 典故(名) 典故

てんご 點呼(名) 點名、點卯、點閱

てん

でんご 傳語(名) 傳話

てんごおん 轉呼音(名) はひふへほ五音在他音之下或中間則變音爲わいうえお謂之轉呼音、譬如には(庭)念にわ、こひ(鯉)念こい

てんこう 天公(名) 天公、上帝、老

てんこう 天工(名) 天工 〔天爺

てんこう 天候(名) 天氣

てんこく 篆刻(名) 篆刻、刻字〔篆

刻師〕(シ)刻字匠

てんごく 天國(名) 天、天堂

てんごく 典獄(名) 典獄、司獄、司

監、管獄官

てんこつ 天骨(名) 天性、天資

でんごん 傳言(名) 傳信、傳話、口

信兒、口話兒〔あの人から傳言が

てん

ありました〕他帶了一個口信兒來了〔あの人に傳言して下さい〕然替我帶個口信兒、請您把我的話傳給他

てんさい 天裁(名) 聖裁、聖斷

てんさい 天才(名) 天才、上智、異

才、天生的本事

てんさい 天際(名) 天際

てんさい 天災(名) 天災

てんさい 轉載(名) 轉錄、轉載

てんさく 添削(名) 添削、刪改

てんさん 天産(名) 天産〔天産物〕

(カ)天産物、天物

てんし 天子(名) 天子、皇上、皇帝

てんし 天使(名) 天使、神使、天差

てんし 天賜(名) ①天賜(天ヨ) ②御

賜

てんしやく 轉借(名) 轉借

てんしゆ 天主(名) 天主〔天主教〕

(カ)天主教

てんしゆ 天守(名) 城樓〔天守閣〕

(カ)同上

てんしゆ 典主(名) 當主兒(tanji)

てんしゆ 店主(名) 店主、東家、舖

家、舖主、掌櫃的、經理人

てんじゆ 天壽(名) 天壽、天年

てんじゆ 轉手(名) 琵琶的絃軸子

でんじゆ 傳授(名) 傳授

てんじゆ 填充(名) 填滿

てんじゆ 轉宿(名) 搬家(カ) 挪

客店住(ヤド)

てんしゆ 轉瞬(名) 轉息間、轉

眼間

てんしよ 添書(名) 介紹的信

てんし 天資(名) 天資、天分、稟

質、天賦、稟賦

てんじ 典侍(名) 宮女之名

てんじ 點示(名) 指點

てんじ 點字(名) 凸字、點字〔盲者

が手で點字を讀む〕瞎子用手指

頭讀凸字書

てんじ 篆字(名) 篆字

でんじ 電子(名) 電子

でんじき 電磁氣(名) 電磁氣

でんじしやく 電磁石(名) 電磁、電

磁石、電磁鐵

てんじつ 天質(名) 天質

てんじつ 天日(名) 日頭、太陽、天

日〔天日鹽〕(ニ)曬鹽、天鹽

でんじふ 傳習(名) 傳習

てんじや 轉寫(名) 轉寫、傳寫〔轉

寫紙)〔シ)轉寫紙、傳寫紙、複圖

紙〔轉寫インキ)轉寫墨水、石印

用的墨水

でんじや 田舎(名) 鄉下、鄉村、田

でんじや 傳寫(名) 抄寫、謄寫、錄

でんじや 電車(名) 電車 〔寫

てんじやう 天象(名) 天象 〔天

てんじやう 天上(名) ①天上 ②上

てんじやう 天井(名) 頂棚、仰棚、

天花板(板)、望板(珞)〔天井板〕(イタ

望板、天花板〔天井を張る)糊棚

〔天井を向く)朝天〔青天井〕青

天、露天〔天井知らず)昇騰、直

往上長、長的沒有邊兒(底兒)

てんじやう 天壤(名) 天地、天壤

でんじやう 殿上(名) 殿上

てん

てんじよ 篆書(名) 篆書
 てんじよ 轉所(名) 換地方
 てんじよ 天助(名) 天佑、天祐
 でんじよ 傳承(名) 聽說〔某君よりの傳承によれば〕今晤某君得悉(文)
 てんじよ 天職(名) 天職
 てんじよ 轉職(名) 調任、轉任
 てんじよ 天色(名) 天色、天容
 でんじよ 傳書鳩(名) 信鳩、送信的鴿子
 てんじん 天神(名) 天神
 てんじん 天真(名) 天真
 てんじん 天人(名) 天人
 てんじん 天神(名) 與てんしん同
 でんじん 電信(名) 電信、電報、與てんばう同〔電信機〕〔電報機〕

てん

電信機器〔電信技手〕(ギシユ) 電報生、電報技手〔電信局〕(キョク) 電報局〔電信線〕(セン) 電線〔電信柱〕(チュウ) 電線杆子
 てんしんらんまん 天真爛漫(名) 天真
 てんず 轉ス(佐變自動) 轉
 てんず 轉ズ(佐變他動) 轉〔弱を轉じて強となす〕轉弱爲強〔話題を轉する〕轉變話題
 てんず 點ズ(佐變他動) 點
 てんすう 點數(名) 點
 てんすう 點數(名) 分數、點數〔點數を取る〕得分數〔點數を付ける〕記分數、記點數
 てんすう 天水(名) 雨水〔天水桶〕(チク) 太平水桶
 てんせい 天性(名) 天性、天資、本性、秉性

てん

てんせい 天生(名) 天生
 てんせい 轉生(名) 托生、投生、轉世投胎
 てんせき 典籍(名) 典籍
 てんせき 轉籍(名) 轉籍、移籍
 てんせつ 點綴(名) 點綴
 でんせつ 傳説(名) 口傳、世傳、古傳、古譚
 てんぜん 恬然(名) 恬然
 てんぜん 天然(名) 天然
 でんせん 電線(名) 電線、電纜〔海底〕
 でんせん 傳染(名) 招、傳染〔この病氣は傳染する〕這病招人〔傳染病〕(ビヤウ) 傳染病
 でんせん 電閃(名) 電閃
 てんそう 天窓(名) ①天窓(マド) ②天靈蓋(カブト)

一〇七六

てん

てんそう 添送(名) 附來
 てんそう 轉送(名) 轉送、轉交
 でんそう 電奏(名) 電奏
 でんそう 傳送(名) 傳送、傳交、傳遞、移送、遞送、寄文
 てんそく 天則(名) 天則
 てんそく 填塞(名) 填塞
 てんたい 轉貸(名) 轉借給人
 てんたい 天體(名) 天體
 てんたい 天體(名) 一派
 てんたい しゆう 天台宗(名) 佛教
 てんたい 顛倒(名) 顛倒〔あの人にする事が皆顛倒して居る〕他幹的
 事情都是顛三倒四的
 てんたい 天道(名) ①天道 ②太陽、日頭〔天道乾〕(ホシ) 1. 曬乾(シボ) 2. 攤兒(ホシ)〔天道任〕(マカセ) 憑天、聽天由命

てん

てんたう 天堂(名) 天堂
 でんたう 傳道(名) 傳道
 でんたう 殿堂(名) 殿宇
 てんたく 轉宅(名) 移居、搬家、挪住、遷寓〔御轉宅〕榮遷
 でんたく 傳達(名) 傳達、轉達、傳遞、傳送〔貴下のお話は先方へ傳達しておきました〕您告訴我的那話我已經轉達前路了
 てんち 天地(名) 天地〔軸物の天地〕畫幅的天地兒
 てんち 轉置(名) 轉置、轉位、換置
 てんち 轉地(名) 換地方、遷地〔轉地療養〕(ウヤウ) 遷地養病
 でんち 電池(名) 電池
 でんち 田地(名) 田地、地畝

てん

てんちく 天然(名) 印度〔天然鼠〕(ネウシ) 洋鼠〔天然木綿〕(モリス) 洋布、洋標、標布〔天然牡丹〕(ボタシ) 西蕃蓮、洋菊〔天然浪人〕(ウニラ) 浮浪的人〔髪を天然玉に結ぶ〕在頭頂上結一個髻子
 てんちや 點茶(名) 沏茶
 てんちやう 天聽(名) 天聽
 てんちやう 天頂(名) 頂兒上
 てんちやうせつ 天長節(名) 萬壽節
 でんちゆう 電柱(名) 電線桿
 てんつけ 點附(名) 批分數(試驗) 記輸贏碼子(ケノマ)
 てんで ①絲毫(不)、全然、簡直的〔てんで相手にしない〕絲毫

一〇七七

てん

醬油煮的茶

でんぶ田夫(名) 農夫、莊稼漢、郷

下佬兒

てんぶく顛覆(名) 顛倒、顛覆、

翻、傾覆、推翻、翻倒、傾倒、推

倒〔船が顛覆する〕船翻了〔人力

車が顛覆する〕洋車翻了〔汽車が

顛覆した〕火車翻倒了〔現政府を

顛覆することを謀る〕謀傾覆現

在政府〔共和政體を顛覆する〕推

翻共和政體、傾倒共和政體

てんぶつ典物(名) 當頭、當的東西

てんぶら天麩羅(名) 炸麩魚

てんぶん天分(名) 與天資(てん同)

でんぶん傳聞(名) 傳聞、聽說

でんぶん濃粉(名) 麪、漿粉、小

てん

粉、澱粉

でんべう傳票(名) 領條、傳票

てんべん天變(名) 天變

てんべん轉變(名) 轉變

てんぼ展墓(名) 展墓、修墓

てんぼ典舖(名) 當舖、典當舖

てんぼ廢舖(名) 舖子

てんぼ填補(名) 填補、彌補、補

充、補足、填還〔資金を填補する〕

彌補款項〔缺損を填補する〕填還

虧空、補足、找補

テンポ(名) (Tempo) 進動速度

でんぼ田畝(名) 田畝

てんぼう手棒(名) 手上有殘疾的

てんま傳馬(名) 〇驛馬 〇舢板〔天

馬船〕(テ)同上

てん

てんま天魔(名) 天魔

てんまく天幕(名) 與テント同

てんまつ顛末(名) 始末、根由、一

五一什

てんま窓(名) 天窓、天窓兒

でんまらく丁抹(名) 丹國、丹麥、

丹抹兒、噠國

てんめい天命(名) 天命

てんめい天明(名) 天明、天亮

でんめい傳命(名) 傳命

てんめい電命(名) 電飭

てんめん纏綿(名) 纏綿

てんめん轉免(名) 調任、革職

てんもん天目(名) 茶碗

てんもん天文(名) 天文〔天文学〕

(ガク)天文學〔天文学家〕(カ)天文学家、

天文師〔天文臺〕(カ)天文臺

てん

てんもんどう天門冬(名) 天門冬

てんや店屋(名) 〇舖子、買賣舖

子(吃)食舖兒〔店屋物〕(モ)舖

でんや田野(名) 田野

てんやく轉役(名) 調任、轉任

てんよ天與(名) 天與、天賜

てんよう轉用(名) 挪用、轉用

てんらい天來(名) 天降的、來自

でんらい傳來(名) 傳來

てんらん天覽(名) 御覽〔天覽に供

する〕進呈御覽

てんらん展覽(名) 〇展看(テロク) 〇

陳列、擺列、出品、陳示〔展覽會〕

(クワイ)陳列會、展覽會、賽會〔書

畫展覽會〕書畫展覽會

でんらん電覽(名) 電鑒、臺電、電

てんり天利(名) 扣的利錢

てん

てんり天理(名) 天理〔天理教〕(ケウ)

日本神道教之名

でんりう電流(名) 電流、電川、一

股電氣〔電流計〕(ケイ)電表

てんりやう天領(名) 皇室地產

でんりん電鈴(名) 與でんれい同

てんれい典禮(名) 典禮

でんれい電鈴(名) 電鈴、電鐘

でんれい傳令(名) 傳令〔傳令使〕

(テ)傳令騎、傳令官

でんわ電話(名) 電話、德律風〔電

話交換局〕(ワシキョク)電話局、電話

交通所、電話交連局〔電話交換

手〕(クワンカウ)電話司機生〔電話

機〕(キ)電話機、電話機器、話機

〔電話帳〕(チャウ)電話簿〔電話使用

料〕(ヨウレウ)電話租費〔電話番號〕

てん

(シガク)電話號碼、電話號數〔電話

加入者〕(ニウシヤ)電話用戶〔長距離

電話〕(ヨウキ)長途電話〔無線電

話〕(ムセン)無線電話〔電話を架設

する〕安設話機〔電話をかける〕撤

打電話、通電話〔電話を切る〕撤

線〔電話をつぐ〕接電話

てんる天位(名) 天位

てんる天威(名) 天威

でんる電位(名) 電儲力、電勢〔電

位計〕(ケイ)乾電表、測電器

てんるん店員(名) 夥友、店友、店

員、夥計、舖夥、店夥、行員〔女

店員〕女店員、女店夥

でんるん田園(名) 田園〔田園生活〕

(イタクワツ)務農爲生、鄉村生活

てんを點汚(名) 汚子

と

と戸(名) 門、屋門〔戸を立てる〕關
 上門〔戸を開ける〕開門〔戸が開かない〕門開不開〔戸の口に立つ〕在門口兒站着〔人の口には戸が立てられない〕人的嘴握不上
 一定漏出風聲來
 と門(名) 海腰
 と砥(名) 磨刀石
 と斗(名) 斗(支那ノ一斗ハ我が五升四合餘ニ當ル)
 と籐(名) 籐子
 と途(名) 途
 と圖(名) 圖
 と徒(名) 徒〔無賴の徒〕無賴之徒
 と外(名) 外

と十(名) 十、十個
 と(動) ①有指定之意〔十日と云ふ日〕初十這(那)一天〔戰爭と云ふもの〕打仗這一件事情〔名を孔明と云ふ〕名字叫做孔明〔彼は行かうと云つた〕他說他去〔多年の苦心が水の泡となつた〕多年苦心付之流水②似、像似〔雪と見る〕看着像雪似的③所有〔生きとし生けるもの〕所有的生物〔有りとし有るもの〕所有的東西④又〔雨降りと降る〕雨下又下、雨下的利害⑤與、和〔貴下と私と〕您和我〔墨と筆と鉛筆と〕墨和筆和鉛筆⑥同、跟、於〔私と一緒に行く〕跟我一塊兒去〔此事は私とは關係ない〕這件事於我不相干⑦就

〔風が吹くと火が消える〕一颯風火就滅〔學問すると見聞が廣くなる〕學學問就可以長見識⑧都、也罷〔行くと行くまいと僕の勝手だ〕去不去都是隨我的便〔雨が降らうと降るまいと必ず出發する〕下雨也罷不下雨也罷一定要動身
 と奴(名) 奴
 と鴛(名) 鴛
 と弩(名) 弩
 と度(名) ①度〔酒色度を過ぐ〕酒色過度〔進退度を失ふ〕進退失度〔飲食度あり〕飲食有度、飲食有節制〔今日は寒暖計は何度です〕今天寒暑表是幾度②尺〔ヤシ〕③回、邊〔三度讀む〕念三回〔私は一

度行つたことがある〕我去過一遍了④度量〔大度〕度量大⑤份、度〔五年度豫算案〕五年份豫算案⑥光〔眼鏡の度を合はせる〕對光、と土(名) 土、土地 〔驗光と(助) 與ども同〔問へど答へず〕雖然問可不答
 と(接頭) 東西、壞(用)〔ど盲〕〔マクラ〕瞎東西〔ど根性〕〔シジャウ〕壞心
 トーキー(名) (Talker)有聲電影
 トータル(名) (Total)通共、共計、總數、統共、攏總、拓都〔トーマルロス〕(Loss)全部損失、全損
 とあひ(程合)(名) 程度、火候兒
 とあみ(投網)(名) 撒網
 とある(或(接頭)) 某、一個〔とある宿屋に泊つた〕在一個客店裡住

と下(了) 下了
 といき(吐息)(名) 長出氣、嘆氣
 といし(砥石)(名) 磨刀石
 といた(戸板)(名) 拾東西の板子
 といち(情人、心裡的人、意中人、可人、心上人)
 といつ(獨逸)(名) 德國、德意志
 といつ(何奴)(名) 那(na)個東西
 〔何奴がさう云ふ事を云ふか〕那個東西說這樣的話呀
 といつ(何奴此奴)(名) 這個東西那個東西〔何奴此奴の容赦なくなる〕不管這個那個的都要打、無論誰和誰都要打
 とう(臺)(名) 梃兒〔臺が立つ〕竄梃兒
 とう(籐)(名) 籐子、省籐、沙籐〔籐

の蒲〕籐席〔籐の筋〕籐絲
 とう(讀)(名) 讀、句兒、句點
 とう(等)(名) 等
 とう(頭)(接尾) 匹、隻、口、條、個〔馬三頭〕三匹馬〔牛五頭〕五隻牛〔羊十頭〕十隻羊〔豚八頭〕八口猪〔犬三頭〕三條狗〔駱駝六頭〕六個駱駝
 とう(等)(接尾) 等、等類、等項、等等、等物、甚麼的〔米麥粟等は穀物です〕米麥子穀子等類都是糧食〔内務省は衛生土木議員選舉等の事を司る〕内務省掌管衛生土木選舉議員等項事情
 とう(副) 與とく(疾く)同
 とう(胴)(名) ①僵子(ダイ)②幫(太鼓の胴)鼓幫〔三味線の胴)絃子鼓

子(鎧の胴)胸鎧

どう銅(名) 銅

どう筒(名) 骰盒子(テラスレ)

どう童(名) 童、小孩子

どう同(名) 同

どう動(名) 動

(どう)副 如何、怎麼樣「貴下はどうか考へますか」您想怎麼樣、您想如何「貴下はどうしたのです」您怎麼了「どう致しまして」那兒的話呢、不敢當、豈敢、說那裏的話呢、那裏的話來「どうしたら好いやら」怎麼辦纔好呢「私と一緒に歩いてはどうです」跟我去好不好「どうなっても構はない」怎麼樣兒也不管、不管是後來怎麼樣「上野へはどう行きますか」

か「上上野怎麼走」どうでも好い事「可行可止の事」

どう(感) 寓(カニ)馬止(ルコト止)

どうあ東亞(名) 亞東、泰東

(どう)副 怎麼樣、怎麼也「貴下はどうあっても承知しませんか」您怎麼也不答應麼「五百圓なくてはどうかあっても出來ない」少了五百元怎麼也做不出來

どうあげ胴揚(名) 衆人抬起一人來做爲賀喜的意思

どうい同意(名) ①意思一樣、一個意思②贊成、答應、肯應、同意「同意語」(ジ)同義的、異音同義語、同義語、類語

どうい同異(名) 異同

どういす藤椅子(名) 藤椅子、藤椅

どういつ統一(名) ①一統②劃一

どういつ同一(名) 同一、一樣、一個樣、同一樣、同等、相等「同一視」(ジ)一樣看待

(どう)いふ(句) 甚麼、怎麼「あれはどう云ふ人です」他是那宗人、他是甚麼人「昨日の相談はどういふ事になったか」昨天商量的怎麼定規了「此後どう云ふ騒動が起るか知れない」不知道往後起甚麼風潮「貴下はどう云ふ意見です」您是什麼個意見「どう云ふ事で及第するかも知れないから試験を受けて見る」也許不知道怎麼回事能中了所以先考一考瞧瞧罷、萬一考得中也未可知先瞧瞧

光景再説

どういん同音(名) 同音

どううん東雲(名) 黎明、天亮

どうえい燈影(名) 燈影

どうえう動搖(名) ①搖動②蠢動

③變動

どうえう童謡(名) 童謡、小孩兒

どうえう童幼(名) 幼童、小孩子

どうおん同音(名) 同音、一樣的音

どうか燈下(名) 燈下

どうか燈架(名) 燈架子

どうか投下(名) 扔下「飛行機から爆彈を投下した」從飛機上扔下

炸彈來了

どうが燈蛾(名) 撲燈蛾子

どうが凍餓(名) 凍餓

どうか同價(名) 同價、平價「額面同價」(カク)額面同價、票面同價

(金銀同價) (キンギ) 金銀相等價值

(どう)か(副) ①甚麼「あの人はどうかしたのでせう」他有甚麼緣故罷「どうかよい方法はありませんか」有甚麼好法子沒有 ②怎麼樣「今の處病氣はよくなるかどうか分らない」按着目下看這場病不知道是好是怎麼樣

請、願意「どうか教へて下さい」請教請教「どうか少し横への下下さい」請您躲開點兒 ③與どうにか同

どうがい燈蓋(名) 燈碗兒

どうがい撞開(名) 撞開

どうがい童孩(名) 孩童、小孩子

どうかう投降(名) 投降、降伏(降伏)

どうかう投稿(名) 投稿、投寄之稿

どうかう同行(名) 同行、一同去、一塊兒去、搭幫走「同行者」(シヤ)

同行者、伴侶、一班人

どうかう銅坑(名) 銅鑛

(どう)かかうか(副) ①好容易「どうかかうか及第した」好容易中了「旅費はどうかかうか足りる」盤費好容易纔敷「どうかかうか汽車に間に合った」好容易趕上火車了 ②剛、纔「どうかかうか暮が立つ」剛穀嚼過兒「百圓あればどうかかうか足りません」有一百塊錢纔能敷用

とうかく 頭角(名) 頭角(嶄然頭角をあらはす) 嶄然見頭角
 とうかく 同格(名) 一樣的格式、同等資格
 とうがく 同學(名) 同學、同窓、同(とう)かして(副) 盼望、巴不得
 「とうかして私も金持になりたい」
 巴不得我也要發財「とうかして彼の病氣がよくなればよいが」巴不得他的病好了
 (とう)かすると(副) 動不動兒的就、一甚麼就「とうかすると持病が出ます」一甚麼就犯老病「とうかすると死んだ子を思出す」動不動兒的想起死的孩子的事情來
 とうかつ 統轄(名) 統轄 「(統)かつ(統)かつ 桐桐、嚇唬(統)かつ

とうがね 銅金(名) 刀鞘子上的銅活
 とうがふ 投合(名) 投合(意氣投合) (イ)情投意合 「庚、同齒(とう)かふ 同甲(名) 同歲、同甲、同(とう)から疾カラ(副) 早、早就「疾から用意しておけば、こんな事はなかつた」早若是預備好了就不至於這様「疾から知って居る」早就知道了
 とうかん 投函(名) 投函
 とうかん 等閑(名) 等閑、苟且
 とうかん 冬瓜(名) 冬瓜
 とうかん 同感(名) 同感
 とうがん 童顔(名) 童顏
 とうき 登記(名) 註冊、登簿、登記、註記、登冊、記冊、掛號(登

とうき 冬季(名) 冬季、冬天(冬季休業)(ウ)き 冬季休暇、冬假、年假、寒假
 とうぎ 闘技(名) 闘技
 とうき 銅器(名) 銅器
 とうき 動機(名) 因由兒、原因、動機、誘因(、これが動機で二人が仇

になつた」由這個原因兩家成仇了「結果は悪いが動機はよい」由這事情的結果上看雖然不好可是論其動機還算可以的
 とうき 動悸(名) 心跳、志忘(動悸が烈しい) 心跳的利害「とうきとき動悸が打つ」心裡蹣蹣蹣蹣的跳
 とうぎ 胴着(名) 小襖兒 「思(とう)ぎ 同義(名) 同義、一樣的意義、發議、提議(動議を提出する) 提出動議
 とうきせい 同期生(名) 同年畢業生、同榜、年誼、年兄弟
 とうきふ 等級(名) 等級、次序、層次、等次、位次、級、度
 とうきふ 同級(名) 同班

とうきやう 同郷(名) 同鄉(同郷會)(ク)い 同郷會 「同(とう)ぎやう 同行(名) 與どうかう(とう)ぎよ 統御(名) 統治
 とうきよ 同居(名) 同居、同住、同寓、住在一塊
 とうきよく 登極(名) 登極、即位
 とうぎり 胴切(名) 切爲圓段兒
 とうきん 同衾(名) 同衾、同床、共枕、同枕
 とうきん 同勤(名) 同僚、同寅
 とうぐう 東宮(名) 東宮、皇太子
 とうくつ 洞窟(名) 洞窟
 とうくわ 燈火(名) 燈火
 とうくわ 燈花(名) 燈花(チヤウジ) 燈花(ガシラジ)
 とうくわ 透過(名) 透過(トホル) 透過(トホル)

とうぐわ 冬瓜(名) 冬瓜
 とうくわ 銅貨(名) 銅錢、銅元、銅幣、銅子兒
 とうくわ 同化(名) 同化、化成同體(同化力)(リ)ク 同化力(同化作用)(サ)ヨウ 同化作用
 とうぐわい 等外(名) 出等
 とうくわう 燈光(名) 燈光
 とうくわう 銅鑛(名) 銅鑛
 とうくわつ 統括(名) 總括、綜括
 とうくわん 洞貫(名) 貫通
 とうくわん さう 道灌草(名) 王不道
 とうけ 同家(名) 同族 「留(とう)け 燈檠(名) 燈架子
 とうけい 闘鷄(名) 闘鷄
 とうけい 統系(名) 統系
 とうけい 統計(名) 統計(統計學)

〔カク〕統計學〔統計表〕(ウ)統計表
〔統計年鑑〕(シカネ)統計年鑑、統
計年冊

どうけい 同慶(名) 同慶、同喜
どうけい 同形(名) 同形
どうけつ 洞穴(名) 洞兒、洞穴
どうけつ 同穴(名) 同穴、併骨、偕
老同穴
どうげつ 同月(名) 同月
どうげふ 同業(名) 同行、同業(同
業者)(シヤ)同行的、同業者(同業
組合)(シヤ)行、同業組合
どうけん 洞見(名) 洞見
どうけん 同縣(名) 同縣、同鄉(同
縣人)(シシ)同鄉的人、同鄉
どうこ 銅壺(名) 罍罐
どうこう 瞳孔(名) 瞳人兒

どうこく 同國(名) ①同國②同鄉、
同縣(同國人)(ジン) 1.同國的人
2.同鄉人
どうこつ 頭骨(名) 腦幫骨
どうこん 痘痕(名) 麻子
どうさ 等差(名) 差等、差別
どうさ 動作(名) 動作、舉動、舉止
どうさ 攀水(名) 攀水(攀水紙)(ガミ)
攀紙(攀水引)(ビキ)同上
どうざ 同座(名) ①同座(同座の客
は五人です)同座有五位客②一
班子(同座の役者)一班子唱戲
的

どうさい 登載(名) 登、登載
どうざい 東西(名) ①東西、東方
西方②諸位聽、戲館等臨開場
掌班者宣告之語

どうざい 同罪(名) 同罪
どうざいく 籐細工(名) 籐子活
どうざう 鬪爭(名) 爭鬪
どうざう 痘瘡(名) 天花兒病
どうざう 凍瘡(名) 凍瘡
どうざう 同窓(名) 同窓、同學、同
硯、同門

どうざう 銅像(名) 銅像 「透
どうざつ 洞察(名) 洞察、洞見、精
どうざん 動産(名) 動産、動資
どうざん 銅山(名) 銅山
どうし 凍死(名) 凍死
どうし 投資(名) 投資本、投資、放
資、下本生利、置本生利、放賬、
放利、放本、投入的資本、放下
的錢財

どうし 透視(名) 透視
どうじ 刀自(名) 與と同じ同
どうじ 冬至(名) 冬至
どうじ 刀自(名) 造酒的人
どうし 動詞(名) 動詞
どうし (接尾) 們(友達どうし)朋友
們(女どうし)女人們
どうし 同志(名) 同志(同志者)(シヤ)
同志的人
どうし 瞳子(名) 瞳子、瞳人兒
どうし 動止(名) 動止
どうし 同視(名) 同視、一樣看待、
一律相待
どうじ 同時(名) ①同時、同時候、
一個時候(私と彼とは同時に卒業
した)我和他一個時候卒的業
〔期せずして同時に來た〕不期而

同時來(此船が出るのとあの船が
入るのと同時だった)這隻船出
口和那隻船進口就在一個時候
〔同時に發生する〕同時發生(同
時に舉行する)同時舉行②一邊
兒、一面(勉強すると同時に身體
を健康にせればならぬ)得一邊
兒用功一邊兒保養身體③又:
:又(値段が安いと同時に品も好
い)價錢又便宜東西又好
どうじ 同事(名) 同事
どうじ 童子(名) 童子、孩子
どうしう 銅臭(名) 銅臭氣(銅臭芬
芬)(シツ)銅臭薰天
どうしうち 同士打(名) 同室操戈
どうしつ 同室(名) 同室、在一個
屋裡

どうじつ 同日(名) 同日(同日に論
する能はず)不能同日而論(同日
に生れた)同日生的
(どうして)如何(どうして)如何、那
兒(How)、如何(どうして)貴下は
行かないのです)爲甚麼您不去
啊(どうして)處置すればよいか)
怎麼辦纔好呢(どうして)そんな
事があるものか)那兒有這個事
呢(私が)どうしてそんな大膽な事
が出来ませう)我怎麼敢做這麼
大膽的事情呢(どうして)そんな
事が出来ませうぞ)焉能如此、怎
麼能做這個事情呢(甲君は)一升
位飲ませう)您可以喝這麼四
斤酒麼(どうして)一杯も飲め
ません)那兒啊、一杯也不能喝

（どうしても）副 怎麼也、總得
 「どうしても私の忠告を聞かない」
 我怎麼勸他也不聽（どうしても
 戸が明かない）門怎麼也開不開
 「この災難はどうしても免れない」
 這個禍患怎麼也免不了（どうし
 ても行かればならぬ）總得去一
 盪
 どうじめ 胴締（名） 帶子、腰帶子
 どうしや 投舍（名） 住宿、住店、下
 店
 どうしや 投射（名） 投射、射形、射
 どうしや 膽寫（名） 膽寫、膽清、膽
 錄、膽抄、抄寫、抄錄（膽寫用紙）
 （ヨウシ）仿紙、蠟紙、映寫紙（膽寫
 版）（パン）膽寫版、軋字機、壓榨複
 寫器、油印機器、複印器

どうしや 同車（名） 同車、在一個
 車裡頭
 どうしや 凍傷（名） 凍瘡、凍傷
 どうしや 痘漿（名） 花兒漿
 どうじやう 同上（名） 同上
 どうじやう 同情（名） 同情、人情、
 體恤、憐惜、與人共憂、分人之
 憂（同情を寄せる）表同情、表人
 どうしゆ 頭首（名） 腦袋
 どうしゆ 同種（名） 同種
 どうしゆ 投宿（名） 投宿、住宿、
 住店、下店
 どうしゆ 同宿（名） 一塊兒住
 どうしよ 投書（名） 投稿、寄送原稿
 どうしよ 同所（名） 一樣的地方
 どうしよく 同職（名） 同業、同行

どうしよく ぶつ 動植物（名） 動物
 植物
 どうしん 投身（名） 「河寛井
 どうしん 登進（名） 跳河、投河、投
 どうしん 等親（名） 上進、高陞
 どうしん 等親（名） 親族遠近之等
 級
 どうしん 燈心（名） 燈心兒、燈芯、
 燈草、燈捻子（燈心抑）（オサ）壓
 燈棍兒、撥燈棍兒（燈心草）（ゲサ）
 燈草
 どうしん 等身（名） 「邊兒高
 どうしん 同心（名） 等身、身量一
 どうしん 同心（名） 同心（同心協力
 する）同心協力、和衷共濟
 どうしん 童心（名） 童心、小孩子
 的 心眼兒
 どうじん 同仁（名） 同仁
 どうず 投ズ（佐變自動） 投（機會に投

ず 投機（敵軍に投ず）投敵軍（意
 氣相投ず）情投意合、對勁（旅店
 に投ず）住店、下店（人の好に投
 ず）投人所好（hao⁴）
 どうず 投ズ（佐變自動） 投（資本を投
 ず）投資本
 どうず 動ズ（佐變自動） 心跳（ワムネサ）、
 心慌（ナツ）、發慌（レスル）（少しも動
 する色がない）一點兒也沒有發
 慌的樣子、不動聲色、毫不能受
 擾動的
 どうず 同ズ（佐變自動） 「賛成
 どうすう 同數（名） 答應、肯應、
 同數（可否同數）
 （カヒ）可否同數
 （どうする）（佐變自動） 怎麼、怎麼辦
 「君はどうする積です」你打算怎
 麼辦（どうする事も出来ない）怎

麼也辦不成、進退兩難、進退維
 谷
 どうするれん（名） 迷蕩鬼兒
 どうする 統帥（名） 統帥
 どうする 燈穗（名） 燈苗兒
 どうせ（副） 橫豎、左右、反正、左
 不過、無論怎麼樣（此基はどう
 せ私が勝つのだ）這盤棋左右是
 我勝（どうせ死ぬなら早く死ぬが
 よい）左右是死莫若早死倒好
 「どうせ私も行くのだから持って
 行つて上げます」橫豎我也是去
 可以給您帶了去（彼の交際して
 居るのはどうせ碌な人間でない）
 他交的反正沒有好材料（どうせ
 は訴訟になる）反正是打官司
 どうせい 等勢（名） 均勢、勢力均平

どうせい 冬青（名） 冬青（ヒコ）
 どうせい 同棲（名） 同住、同居
 どうせい 同姓（名） 同姓
 どうせい 同性（名） 同性（同性愛）
 （アイ）同性愛
 どうせい 動靜（名） ①動靜②起居
 どうせい 銅青（名） 銅鏽、銅綠
 どうせい 同勢（名） 同行（Ising²）的
 人
 どうせき 同席（名） 同座、同席
 どうせつ 同說（名） 一樣的議論
 どうせん 投錢（名） ①扔進錢去（ナゲテ）
 （カ）給錢（ヤル）
 どうせん 燈船（名） 燈船、號船
 どうせん 同船（名） 同船
 どうせん 銅線（名） 銅絲、銅線
 どうせん 銅錢（名） 銅錢、銅元

とう

どうぜん 同前(名) 同前
 どうぜん 同然(名) 一樣、一個様
 どうぞ 登祚(名) 登祚、登極、即位
 (どうぞ) 請(どうぞお掛け下さ
 い) 請坐請坐(どうぞ御入り下さ
 い) 請進去罷
 どうぞく 同族(名) 同族
 どうそつ 統率(名) 統率、領(兵を
 統率する) 領兵 「子裡
 どうそん 同村(名) 同郷、一個村
 どうだい 燈臺(名) ①燈臺、燈樓、
 燈塔 ②燈架子(燈臺看守人)カ
 シ 燈塔值事人、守燈人、看燈
 人(燈臺下暗し) 燈臺不自照、丈
 八燈臺照遠不照近
 どうだい 登第(名) 登第、考中
 どうたい 同體(名) 同體

とう

どうたいりく 東大陸(名) 東大陸
 どうだう 同道(名) 同行、同伴、搭
 伴走
 どうだん 登壇(名) 登臺、登壇(登
 壇演説する) 登臺演説
 どうだん 同斷(名) 一樣
 どうだん 童男(名) 童男、男孩子
 どうぢ 統治(名) 統治、法治、轄治
 (統治權) (ケン) 統治權、轄治權、
 管轄權
 どうち 同地(名) 一樣的地方
 どうぢやう 登場(名) 登臺、上臺、
 上場(登場人物) (シブジ) 登場人物、
 戲劇中人物
 どうちやく 撞着(名) 矛盾、不符
 (前後撞着して居る) 前後不符、
 自相矛盾

とう

どうぢよ 童女(名) 童女、女孩子
 どうつう 疼痛(名) 疼痛
 どうつう 頭痛(名) 頭疼
 どうつう 洞通(名) 洞開
 どうつき 胸突(名) 打碎、打夯
 (どうで) 與どうせ同
 どうてい 登程(名) 登程、啓程、啓
 行、起身、動身
 どうてい 童貞(名) 童男(男)、處女
 (女)、童貞
 どうてつ 透徹(名) 透徹、透亮
 (どうでも) ①怎麼樣也、怎麼
 着也(そんな事はどうでもよい)
 ②那麽樣的事情怎麼樣都行(ど
 うでも貴下の御勝手に) 怎麼樣
 都是隨你的便(どうでも君の思
 ふ様にやいなさい) 你看着怎麼

一〇九二

とう

どう 樣怎麼辦罷 ②總得、非得、非：
 …不可(どうでも行かればなら
 ん) 總得去一邊、怎麼着也得
 去、非得去一邊、非去一邊不可
 どうてん 登天(名) 上天、升天
 どうてん 東天(名) 東天
 どうてん 冬天(名) 冬天
 どうてん 同點(名) 相同的分數、
 分數相同 「る」 咕咚的倒了
 (どうと) 咕咚的(どうと倒れ
 どうとう 滔滔(副) 滔滔
 どうとう 疾疾(副) 快快的
 (どうとう) 到底、末了兒、
 臨完了、鬧了歸齊(十二時まで
 待っても到頭來なかつた) 等到十
 二點鐘到底沒來(心配の揚句到
 頭病氣になつた) 發愁鬧了歸齊

とう

どう 得了病了(談判不調で到頭戰爭
 になつた) 交渉不合到底開了戰
 了
 どうとう 同等(名) 同等、同品、一
 樣的程度、同程度、對等(同等の
 待遇を受く) 受對等待遇(同等に
 待遇する) 一律相待 「磨磨兒
 (どうどうめくり) 小孩子轉
 どうどり 頭取(名) 總辦、總理
 (どうなりかうなり) 與どう
 かかうか同
 どうなん 童男(名) 童男、男孩子
 どうに 疾(副) 與とくに同
 (どうにか) 也可以、想法子、
 設法(三百圓位ならどうにかな
 りませう) 若是這麽三百塊錢還
 可以湊得出來(どうにかして此

とう

どう 場を切抜ければよい) 千方百計
 的想法子能脫離這難處就得了
 (どうにかせればならぬ) 不得不
 設法辦理
 (どうにかかうにか) 與どう
 かかうか同
 どうにゆう 豆乳(名) 豆乳、豆腐
 どうによ 童女(名) 童女、女孩子
 どうにん 頭人(名) 頭目、頭腦
 どうにん 同人(名) ①一樣的人、一
 個人(彼は昨日前門で遇つたのと
 同人です) 他是昨天在前門遇見
 的那一個人 ②本人(あの事は吉
 田君と相談したが同人は不承知で
 した) 那件事情我和吉田兄商
 量了可本人不願意 ③同人、同
 夥、夥伴兒

一〇九三

とう

とうねん 同年(名) ①(トシ)同年、那
 一年(年令)同歲、同庚
 とうのま 胴間(名) 中膾(船)
 とうは 同派(名) 一派
 とうはい 同輩(名) 同輩、平輩
 とうはう 東方(名) 東方、東邊兒
 とうはう 同邦(名) 同邦
 とうはう 同胞(名) 同胞
 とうはふ 同法(名) 一樣的法子
 とうはち 銅鉢(名) 銅磬
 とうはん 同班(名) 一班的、同班的
 とうはん 同伴(名) 同行、同伴兒
 とうばん 銅版(名) 銅版
 とうばん 銅盤(名) 銅盤子(銅レテツ)
 とうひ 橙皮(名) 橙皮(橙皮油)橙
 皮油

とう

とうひつ 同筆(名) 一個人的筆跡
 とうびやう 同病(名) 同病、一樣
 的病
 とうふ 豆腐(名) 豆腐(豆腐屋)豆
 腐房(豆腐滓) (ガラ)豆腐渣兒
 とうぶ 頭部(名) 腦袋、頭部(後頭
 部) (コウ)腦杓子、後腦蓋
 とうぶ 胴部(名) 上身
 とうふう 同封(名) 一併封上、並
 附來(同封の物)附件、夾件(定價
 表同封御送り申上候) 附呈價目
 單一紙、茲將價目單一紙加封
 函送(御手紙拜見並に爲替手形同
 封御送り下され正に受取申候) 辱
 承惠函並附來滙票一紙均已如
 數收訖
 とうふく 同腹(名) ①一母所生的、

とう

一個腸子爬出來的、同胞兄弟
 ②同心的人
 とうぶくら 胴脹(名) 嘎嘎兒形兒
 とうぶつ 動物(名) 動物、活物(動
 物園) (エン)動物園
 とうぶるひ 胴震(名) 打戰戰、哆
 とうぶん 等分(名) ①平分、等分、
 均分(等分に割當つ) 均攤 ②一
 樣的分量、等量
 とうぶん 同文(名) 同文(同文電報)
 (シバツ)多份電報、同文電報(同文
 同種) (ウシユ)同文同種
 とうへう 投票(名) 投票、投名、探
 丸(投票で會長を選ぶ) 投票公舉
 會長(記名投票) (キメイ)明丸、記
 名投票(無記名投票) (ヒヤク)密丸、

とう

無記名投票、秘密投票(投票紙)
 (シ)投票紙、選票(投票函) (ハコ)投
 票函、受票箱(投票函に投票す
 る) 投入票函
 とうべう 投錨(名) 拋錨、投錨、下
 錨、住船、灣船
 とうべう 痘苗(名) 痘種兒(chung)
 (とうへんほく)糊塗蟲
 とうほ 登簿(名) 登簿、登帳、登
 記、註冊(登簿噸數) (ノスト)登簿
 噸數
 とうほ 同母(名) 同母(同母兄) (ケイ)
 親哥哥(同母弟) (ケイ)親兄弟
 とうほく 童僕(名) 童僕、童奴、使
 喚小子
 とうほん 騰奔(名) 跳格樣兒跑
 とうほん 騰本(名) 抄件

とう

とうまき 朋卷(名) 錢兜子
 とうまき 朋間聲(名) 喇叭嚶子
 (ボラ) 破鑼似的聲音(同)
 とうみやう 燈明(名) 海燈(神佛ノ前
 [燈明臺] (ダイ)燈臺、燈塔、燈樓
 とうみやく 動脈(名) 動脈、衛脈
 とうみん 冬眠(名) 入蟄、冬眠、冬
 蟄
 とうむしろ 籐蓆(名) 籐子蓆
 とうめい 燈明(名) 與とうみやう
 同
 とうめい 透明(名) 透明、透亮、透
 光(半透明) (ハシ)半透明(不透明)
 (フ)不透明 「名字
 とうめい 同名(名) 同名、一樣的
 とうめい 同盟(名) 同盟、聯盟、盟
 約、結盟(同盟國) (コウ)同盟國、

とう

聯盟國(同盟罷業) (ヒゲフ)齊行、
 齊行罷市(同盟罷工) (ヒコウ)齊行
 罷工、罷工、工潮(同盟休學)
 (ウガク)同盟罷學、罷學、學潮(三
 國同盟) (サンコ)三國聯盟(攻守同
 盟) (コウシ)互防合攻的聯盟
 とうめう 同苗(名) 同姓
 とうめん 痘面(名) 麻子臉兒
 (とうも) ①總是、怎麼也(ど
 うも見當らない) 怎麼找也找不
 着(どうもうまく行かない) 總是
 不好辦(彼はどうも云ふ事を聞か
 ない) 他總是不聽人家的話 ②這
 可(どうも失禮しました) 這可失
 禮了(どうも寒くて堪らない) 這
 可冷的了不得 ③多麼 (トモ) 多麼有能
 (どうもえらい腕前だ) 多麼有能

とう

耐

どうもう 童蒙(名)

童蒙

どうもく 頭目(名)

頭目、頭腦

どうもん 同門(名)

同門

どうや 同夜(名)

這天晚上、那天

晚上、那天夜裏

どうやう 東洋(名)

東方、東亞

どうやう 同様(名)

一樣、相同、同

一、一式、一般、一個様(これと

あれは同様です)

這個和那個一

様(依然として同様です)

依然是

這個様兒(彼の病氣は以前と同

様です)其他的病和從先一個様(こ

れと同様に作ってくれ)

照様兒給

做一個

どうやく 同役(名)

同僚、同寅

どうやう 同大(名)

大半、大概、或者

とう

「どうやら肺病になつたらしい」大

半得了癆病的光景(相談はどう

やら出来さうだ) 商議的の大概有

點兒指望

「どうやらかうやら(副) 與どう

かかうか同

どうゆ 燈油(名)

燈油

どうゆ 桐油(名)

桐油②油紙③

雨衣(桐油合羽)(カッパ) 油紙做的

どうよう 登庸(名)

登庸、擧用

「どうよく 胸慾(名)

①貪心不足②

利害(キツ)

どうらん 朋亂(名)

皮匣子、皮盒子

どうらん 動亂(名)

擾亂、蠢動、變

亂、亂事

どうり 總理(名)

總理、總統

とう

どうりう 逗留(名)

逗留、桓盤、

待、住(貴下は南京に幾日御逗留

ですか)您在南京住幾天(一個月

月餘逗留します) 得待一個多月

「もう二三日逗留なされては如何

です)您再桓盤兩天怎麼樣

どうりやう 棟梁(名)

棟梁

どうりやう 統領(名)

統領

どうりよく 動力(名)

動力

どうりん 動輪(名)

動輪、發輪、傳

力輪、發條輪

どうるる 同類(名)

①同類②同黨、

黨朋、黨友、黨夥、一夥子的人

どうれ(感) 哎

「歳

どうれい 同齡(名)

同齡、同庚、同

どうれう 同僚(名)

同僚、同寅、同

事

とかき 概(名)

刮板、斗刮、量概

とかく 兎角(副)

①愛、常愛(彼は

體が弱くて兎角病氣をする)他

是弱身子常愛犯病(此頃は兎

角風立ちます)這幾天天氣常愛

颯風②動不動兒的、動輒、易

於、每易陷於(鐵は兎角錆びる)

鐵易於生銹(世間の人には兎角さ

う云ふ考をもつ)世人輒作如是

想(一定の見識なき人は兎角目的

を變更する)沒有一定的見識的

人動不動兒的愛改主意(親友で

も互の利益を計る爲に兎角争を起

す)雖然親友們也爲謀自己利

益動不動兒的就起爭吵③各樣

兒(彼の品行に付いては兎角の噂

がある)關於他的品行有各樣兒

どうれつ 同列(名)

同列(ナカマ)、在

一行裡(副)

どうろ 頭顱(名)

頭顱、頭殼

どうろう 登樓(名)

①登樓(樓上)、上

樓②迹下處(花柳ニ)

どうろう 燈籠(名)

燈籠 (Lamp, 燈)

「燈籠流」(ナカシ) 放河燈

どうろく 登録(名)

登簿、登帳、註

冊、登冊、登録、登籍(商標を登

録する)把商標註冊(意匠登録)

(イシヤ)登録意匠、註冊意匠(登録

税)(ゼイ)稅契銀、契稅(金錢登録

器)(キンセ)金錢登録器、金錢收

入自記器

どうろん 同論(名)

「一個理

どうわ 童話(名)

童話

「どうわすれ 胸忘(名)

好好兒知道

とう

とう

とか

一〇九七

一〇九六

的批評①這麼個、這麼着(兎角する内に日は暮れた)這麼個工夫兒天黑了
 とかげ 蜥蜴(名) 蜥蜴、馬蛇子、四脚蛇
 とかす 溶ス(四段他動) 化、鎔、溶、溶解(白粉を溶す)化粉(鉛を溶す)化鉛(砂糖を溶す)在水裡頭化糖
 とかた 土方(名) 挖土的苦力
 (とかどか(副) 唸嚙唸嚙的(大勢がどかどか這入って来る)好些個人唸嚙唸嚙的進來了)「犯人がじん 咎人(名) 囚犯、罪人、監どがまずみ 土竈炭(名) 拋炭どがむ 咎ム(下二段他動) ①咎、責備(既往は咎めず)既往不咎(人を

咎める)責備人(巡查に咎められる)被巡警責備②拍(氣が咎あてそんな事は出来ない)拍起良心來不能做這麼樣的事情(良心に咎める)良心呵責、對不住良心③腫(腫物が咎めて痛い)疔瘡腫起來很疼 (人を咎立てする)挑眼、挑五挑六、挑鼻子挑眼的、找人的錯縫子、吹毛求疵どがめ 咎(名) 咎(咎を引く)引咎(天の降せる咎)天降之咎
 (どがらかす 尖ス(四段他動) ①噉(口を尖す)噉嘴②削(鉛筆の先を尖す)削鉛筆頭兒
 (どがらす 尖ス(四段他動) 同上どがる 尖ル(四段他動) 尖(先が針の様に尖る)尖兒上像針似的那麼

とき 尖 喊(鬨の聲を上げる)打とき 鬨(名) ①時、時候、工夫兒、光陰、時間、時代、時期(時が立つ)工夫兒過了(時が過ぎた)時候兒過了(今は何時ですか)現在幾點鐘(時を失ふ)失時(今が丁度よい時です)現在正是時候兒(時を打つ)交鐘、交時候(私の行った時彼はまた歸って居なかつた)我去的時候他還沒回來哪(本を讀む時は一心にならなければいけない)念書時總得一心一意的(時は金)一寸光陰一寸金(あの時私はまだ若かつた)那個時候我還年輕、彼時我尙幼(現在の時)現在之時(未來の時)未來之時

(過去の時)過去之時(時の立つのも知らない)不知時間的經過、沒理會時刻過去了②當時(時の大統領はワシントンです)當時の大總統是華盛頓③運、運氣、時運(時に合ふ)走好運 (鶏が時をつくる)公雞打鳴兒
 とき 齋(名) 齋
 とき 伽(名) ①伺候、服侍②看病
 とき 熬夜(ヨトギスル) ③熬夜(ツヤスル)
 とき 研(名) 磨(研をかける)擦亮、とき 土器(名) 瓦器 「磨亮、磨光とき 怒氣(名) 怒氣、有氣(怒氣を含む)帶着有氣的樣子、含怒とき あかし 説明(名) 説明、解説、講說
 とき あかす 説明ス(四段他動) 説明、

解説、講說(原因を説明す)解説出原因來
 ときいろ 鴉色(名) 淺粉、楊妃色
 ときう 屠牛(名) 屠牛、宰牛(屠牛場)屠牛場、屠宰所、屠舍
 ときうり 解賣(名) 賣拆貨(家ヲトキ、賣スル) 「皮拆賣(皮)
 ときかは 研革(名) 抗刀布、鋸刀
 とききかす 說聞ス(下二段他動) 說給
 ときぐし 解櫛(名) 梳子 「人聽ときさどす 說論ス(四段他動) 與とききかす 同
 ときし 研師(名) 磨刀的
 ときしも (副) 這個時候、那個時候、這個當兒 「正在這個當兒ときしもあれ(副) 正在這個時候、ときすすむ 說勸ム(下二段他動) 勸、

勸告、勸導
 ときすます 研澄ス(四段他動) 「很快
 ときつく 說附ク(下二段他動) 磨的、說服、勸
 ときつくる 時作ル(四段自動) 「打鳴
 ときつくる 興作ル(四段自動) 公雞
 ときとき 時時(副) 時不常兒的、時而、時時(あの夫婦は時時喧嘩をします)他們夫婦時不常兒的打架(この子は時時引附けます)這個小孩子時不常兒的抽瘋(豆腐屋が時時來る)賣豆腐的時而過來
 (ときどき(副) 蹶蹶蹶蹶的(烈しい運動をすると胸がときどきします)一猛烈的運動胸口就蹶蹶蹶蹶的)「恐れて胸がときどき

とき

する]嚇的心蹶蹶蹶的跳
ときとして時トシテ(副) 有時、有
時候兒、間或、往時的(彼は濃厚
だが時として怒る事がある)他是
濃厚的人可有時候兒生氣(時
として有る)間或有之

ときならず非時(副) 不是時候兒、
非時、不時(非時雪が降る)不是
時候兒下雪

とき(二)時ニ(副) 可是 (時に兼て
願つて置いた事は如何でした)可
是上回我托您的事情怎麼樣了
[時に一寸御伺ひしたい事があり
ます]可是我与您打聽一件事
ときのかね時鐘(名) 時鐘 [情
ときの際(名) 打賊的聲音
ときのため(二)時太鼓(名) 更鼓、報

とき

時打的鼓
ときものひと時人(名) ①當時的人
②時派的人(時人)、正得意的人
ときものま時ノ間(名) 與瞬間(しゆん
かん) 同 「西

ときものもの時物(名) 應時令的東
ときは常盤(名) 永遠、無窮、永久
不變、萬世不易(常盤木)常
青樹、經年不凋的樹(常盤津)
(一)俗謡之名
ときふす説伏ス(下二段他動) 說的他
無話可答了(説伏せられない)説
不過

ときほうこう(佛奉公(名) 做姨奶
ときまい(齋米(名) 施捨僧道的米
(ときまぎ(副) 慌、慌忙
ときみづ(漸水(名) 淘米乾水

とき

ときめく時メク(四段自動) 時派、興
盛、興旺、極盛
ときもの解物(名) 拆衣裳
ときものし研物師(名) 磨刀的
ときや研屋(名) 同上

ときやう讀經(名) 念經
ときよ時世(名) 時代、時世
ときよ渡御(名) 起變
ときよ蠹魚(名) 蠹魚
ときよう度胸(名) 膽子(度胸がす
わる)膽子壯了
(ときり(副) 與ときん同
ときる跡切ル(下二段自動) 斷、中止、
間斷(大雪で往來が跡切れる)因
爲大雪沒來往的人了、因爲大
雪交通阻止了(勉強をするのに
跡切れてはならぬ)用功萬不可

一〇〇〇

ときとく

有間斷(跡切れ跡切れに勉強す
る)隔三跳兩(隔二一騙三)的用功
ときん(巾(名) 道士帽兒
ときん(鍍金(名) 鍍金
(ときん(副) 亂跳(胸がときんとし
た)嚇得心亂跳了、嚇了一跳
とく(德(名) 德、福(德のある君子)
有德之君子(父祖の德で官職を
得た)托着祖先的福得了官了
とく得(名) ①惡、賺(商賣で千圓
の得を得た)做買賣賺了一千塊
錢了②利、利益(あれと交換すれ
ば貴下の得です)和那個東西交
換於您有利益(彼は自分に得
になる事は何でもする)他是無
論甚麼只要於自己有利就肯做
[得は自分のものにし損は人にな

とく

とく(有利歸己有害歸人
とく解ク(下二段自動) 解、解開、消
[怒が解けた]氣兒消了[疑がま
だ解けない]疑團未釋、還疑惑
着 打ち解けて話す]談心、閒談
[帯が解けた]帶子解開了[この
謎は解けますか]這個謎兒解得
開麼
とく解ク(四段他動) ①解、解開[帶
を解く]解帶子[紐を解く]解開
繩兒[圍を解く]解圍[願を解く]
解願[意味を解く]解意思[禁を
解く]解禁[人の疑を解く]解人
家的疑惑[誤解を解く]解釋誤
會[惑を解く]去惑②猜[謎を解
く]猜謎兒③開[職を解く]開
缺、卸任④梳[髪を解く]梳頭髮

とく

とく溶ク(下二段自動) 化、融化、溶
化、溶、融解(水が溶けた)水
化了[雪が溶けた]雪化了[鉛が
溶けた]鉛化了[砂糖が水に溶け
た]糖融解在水裏了[口に入れ
ると溶けさうな]入口就要化[鉛
が溶けた]糖化了
とく溶ク(四段他動) 化[白粉を溶く]
化白粉(鐵を溶く)化鐵 「法
とく説ク(四段他動) 說[法を説く]説
とく疾ク(副) 快着、快快的、趕着
とく研グ(磨グ(四段他動) ①磨[玉を
研ぐ]磨玉[鏡を研ぐ]磨鏡子[刀
を磨ぐ]1.磨刀 2.磨刀(皮)②淘
[米を磨ぐ]淘米
とく遂グ(下二段他動) 遂、成、作成、
成就、成功、完結、完全[志を遂

一〇〇一

とく 遂志、遂心〔多年の思を遂げた〕可了多年的心思了〔鐵道往生を遂げた〕在鐵道上自盡了〔慾望を遂ぐ〕遂慾望、滿慾望

とく 毒〔毒にあたる〕中毒 (chung) 毒を飲んで死ぬ 服毒而死、服毒自盡〔毒を含む〕含毒氣〔毒を以て毒を制す〕以毒攻毒〔毒を消す〕解毒〔毒食へば皿まで〕一不做二不休、一不將二不帶〔毒にも藥にもならぬ〕治不了病也要不了命〔こんな立派な物を見ると目の毒になる〕看這麼好看的東西就眼兒熱〔運動もせず家にはかり居るのは毒です〕也不活動竟在家裡坐着於身有害

とく 毒惡、毒惡 [tu] 毒中 (chung) 與ひと

とく 得意、得意揚揚、趾高氣揚〔得意な顔で居る〕臉上很得意〔彼の得意は草書です〕他得意的是草書〔得意の藝〕拿手的技 主顧 (chu hui) 顧客、買客、照顧主兒〔御得意様の御最宜を受ける〕蒙主顧諸位照顧〔得意先〕主顧、顧客、照顧主兒〔得意場〕同上〔得意廻〕(マリ) 跑外、跑外的、跑外的 夥計

とく 特有、特有 徳育

とく 忌口

とく 土偶、坭人兒

とく 特恩、特恩

とく 特廉、特廉〔特價品〕特廉品、特廉貨品

とく 毒牙、毒牙

とく 毒害、毒害

とく 德行、德行

とく 篤行、篤行

とく 特效、特效〔特效藥〕特效藥、適藥

とく 獨行、獨行

とく 篤學、篤學

とく 自學、自學、自學、自學、自悟出來

とく 獨眼 (もく) 一隻虎 (かぢ) 獨眼龍 (リユ) 獨眼龍、一隻虎

とく 徳器、徳器

とく 徳義、徳義、道德

とく 毒氣、毒氣、瘴氣、瘴氣

とく 犢牛、犢牛、牛犢子

とく 特急、特急 特別快車

とく 讀經、讀經 念經

とく 特許、特許、專利、商

品註册

とく 獨居、獨居

とく 獨吟、獨吟

とく 毒口、毒口 嘴利害、毒口

とく 徳化、徳化

とく 讀會、讀會 讀會〔第一讀會〕初讀、一讀會〔第二讀會〕再讀、二讀會〔第三讀會〕三讀

とく 毒氣、毒氣 解氣

とく 毒消、毒消 解毒

とく 得業、得業 畢業、卒業〔得業士〕專門學校畢業生

とく 特權、特權

とく 獨見、獨見 自己的見解、一家言

とく 毒言、毒言 罵人的話、利

とく 獨言、獨言 自言自語

とく 獨語、獨語 獨言、自言自語

とく 德國話

とく 殊功、殊功

とく 木賊、木賊

とく 獨坐、獨坐

とく 獨裁、獨裁

とく 禿瘡、禿瘡

とく 獨創、獨創 創始、創作〔彼は獨創の才がある〕他有創作才

とく 得策、得策 上策

とく 毒殺、毒殺 用毒害

とく 特産、特産 特産〔特産物〕

とく 特旨、特旨 同上

とく 篤志、篤志 篤志

とく 特使、特使 特使、專使

とく 獨修、獨修 與獨習 (びん) 同

とく 得失、得失 得失

とく 特實、特實 特實、特性

とく 篤實、篤實 篤實

とく 獨習、獨習 獨自學習、自學、獨學、自修、獨習

とく 特赦、特赦 恩報、特赦

とく 讀者、讀者 讀者、看官、閱看人

とくじや 毒蛇(名) 毒蛇、毒長蟲
 とくしやう 獨唱(名) 獨唱
 とくしやく 獨酌(名) 自酌自飲、
 自斟自飲 「殊、特種、特有
 とくしゆ 特殊(名) 特別另様、特
 とくしゆ 毒酒(名) 毒酒
 とくしゆ 毒手(名) 毒手
 とくしゆつ 特出(名) 出衆、出羣
 とくしよ 讀書(名) 讀書、念書
 とくしよ 特稱(名) 特稱
 とくしよ 特色(名) 特色、寶色
 「英雄の特色」英雄的寶色、英雄
 的特色
 とくしよく 得色(名) 得色、得意
 とくしん 得心(名) 答應、肯、肯應
 とくしん 特進(名) ①格外拔取 ②
 行伍出身

とくしん 獨身(名) 單身兒、隻身
 一人、一身一口「あの人はまだ獨
 身です」他還沒成家哪「獨身者」
 (モ) 一身一口的人「獨身生活」
 (イクワセ) 終身不娶、一輩子不成
 家 「刀
 とくじん 毒刃(名) 兇器、行兇的
 とくせい 特性(名) 特性、特質
 とくせい 德政(名) 德政
 とくせい 德性(名) 德性
 とくせい 特製(名) 特製「特製品」
 (ヒ) 特製品
 とくせき 督責(名) 督責、督飭
 とくぜつ 毒舌(名) 惡嘴惡舌、刻
 薄的口齒、毒口 「簡
 とくせん 特選(名) 特選、特揀、特
 とくせん 簞箋(名) 簞紙、花箋

とくせん 獨占(名) 獨占、獨有、專
 特、獨享、壟斷、包攬、獨占鰲頭
 とくせん 獨擅(名) 獨擅、自擅
 とくそ 獨奏(名) 獨奏
 とくそ 督促(名) 催、討、索、催
 促、催討、督催 「帶
 とくそつ 督率(名) 督率、督同、督
 とくたい 特待(名) 特待、優待、高
 待「特待生」(セ) 特待生、得獎學
 金的學生
 とくだう 得道(名) 得道(佛道ノサトリ)
 とくだち 毒斷(名) 忌口
 とくだみ 毒草(名) 叢草
 とくだん 獨斷(名) 獨斷、自專、自
 斷、自擅、自作主「私の獨斷では
 決しかれる」我一人不能作主
 「何事も彼が獨斷する」甚麼事

都是他一個人作主、諸事他獨
 斷獨行

とぐち 戶口(名) 門口兒
 とぐちやう 特長(名) 特色、特別
 的長處「彼は何も特長がない」他
 沒甚麼特色「長處」(この時計の
 特長は一度巻けば一週間持ちま
 す) 這個錶的特色是一擰就可
 以走一星期
 とぐちゆう 毒蟲(名) 毒蟲
 とぐちよう 特徵(名) 特徵、特點
 とぐつ 土窟(名) 窖
 とぐつく 毒付ク(四段自動) 罵、責
 罵、咒罵、詈罵、拿刺 (たぐ) 心
 的 話 說 人
 とくてい 特定(名) 特定「③優例
 とくてん 特典(名) ①特典 ②優待

とくてん 得點(名) 得的分數、得
 分、得點、點數
 とくてん 特電(名) 特電、專電
 とくと 篤ト(副) 好好兒的「篤と考
 へて返事する」好好兒的想想再
 回復
 とくと 得度(名) 得度(佛道ニ)
 とくと 特等(名) 特等
 とくと 禿頭(名) 禿頭「禿頭病」
 (ビヤウ) 禿瘡、禿髮症、禿頭病
 とくと 得得(副) 揚揚得意
 とくと 疾疾(副) 快着、快快的
 とくと 獨特(名) 獨門兒、專門、
 擅長、獨特「獨特の技倆」獨門兒
 的能耐
 とくと 毒毒シ(形容久活) ①兇
 惡、惡狠狠的「毒毒しい顔付」兇

惡的相貌、惡狠狠的臉の太濃
 「此色はあまり毒毒しい」這個顏
 色太濃 ③惡毒「毒毒しい云ひか
 た」惡毒的說法、說利的利害害
 ドクトル(名) (Doctor) ①博士、進
 士 ②大夫、醫生、醫士、醫師
 とくに 特ニ(副) 特、偏、專、特意
 「特ニ使を出す必要はない」不必
 特意打發人去「特ニ御通知申上
 候」特此通知「特ニ御願申上候」
 特此懇祈
 とくに 疾ニ(副) ①早、早就、夙、私
 は疾に來ました「我早來了」(御客
 は疾にお揃ひ)ひです」客人早就
 來齊了 ②久、老「御芳名は疾に承
 つて居ります」久仰大名、久仰久
 仰

とくにん 徳人(名) ①有徳の人 ②財主、潤家
 とくにん 特任(名) 特任
 とくば 特派(名) 特派(特派全權公使) (テノコウシ) 特派全權公使(國民) 欽差大臣(國民) 特派全權公使(國民) (特派員) (テノ) 特派員、報館特派員
 とくばう 德望(名) 名望、德望
 とくはつ 特發(名) 特發的
 とくひつ 秃筆(名) 秃筆
 とくひつ 特筆(名) 特筆、特記(今年の特筆すべき大事件) 今年可特記的大事件(特筆大書) (イシヨ) 特筆大書、大書特書
 とくひつ 毒筆(名) 惡狠狠的筆墨、兇惡的筆法

とくふ 毒婦(名) 刁婦
 とくぶん 得分(名) 賺的錢、進項
 とくべつ 特別(名) 特別、格外、尤其、額外(特別に勝れた人でもない) 並不是特別超絶的人物(特別御厚意に預り有難う存じます) 蒙御格外厚情謝謝(特別手當) (テアテ) 臨時津貼、額外津貼(特別急行) (アカキ) 特別快車、加快火車、急車(急行列車) (ツシヤ) 快車
 「特別通信」(ウシツ) 特別通信、特報(特別費) (ヒ) 特別費
 とくほん 讀本(名) 讀本 「試試
 とくみ 毒試(名) 試毒、先嚐一個
 とくむ 特務(名) 特別任務、特務(特務巡查) (ユシジ) 當偵探的巡警(特務曹長) (ウチヤウ) 司務長

とくむし 毒蟲(名) 毒蟲
 とくめい 特命(名) 特簡(特命全權公使) (テノコウシ) 欽差大臣(國民) 特簡全權公使(國民)
 とくめい 匿名(名) 匿名、無名、隱名、不書名的(匿名書) (シヨ) 匿名帖、匿名書、匿名信、沒名的信、隱名的書、不具名的信、白頭信
 「匿名投票」(ウヘト) 匿名投票
 とくや 毒矢(名) 毒矢
 とくやく 特約(名) 特約(特約販賣) (シヨ) 特別經理、獨家經理、一手販賣(特約店) (テノ) 經理處、寄售處(本店は英米の製造家と特約有之候) 小號與英美廠家訂立專銷合同
 とくやく 毒藥(名) 毒藥

とくよう 德用(名) 有利、得用、合算、最適用(德用品) (ヒシ) 最適用之品(此品は醜いが丈夫で徳用です) 這個東西雖然不好看可是又結實又合算
 とくよけ 毒除(名) 防毒
 とぐら 鳥栖(名) 鳥兒窩
 とぐらく 獨樂(名) ①獨樂(ヒトリタ) ②與こま同
 とくり 德利(名) 酒壺、漫酒的壺(德利子) (ヒ) 沒有眼鼻耳嘴手腿的畸形兒
 とくりつ 獨立(名) 獨立、自立(獨立國) (ゴク) 獨立國(獨立自營) (イジ) 獨立自營(獨立獨行) (クアド) 獨立獨行(獨立不羈の精神) 獨立不羈的精神、自恃心

とくりよく 獨力(名) 獨力、沒人幫助的、不倚靠人的
 とぐるま 戸車(名) 門扇的粘轆
 とくれい 督勵(名) 督勵、督飭
 とくれい 特例(名) 特例
 とくろ 鬪體(名) 鬪體、骷髏
 とぐるまく (四段自動) 盤上(蛇がとぐるまく) 長蟲盤上
 とくわい 都會(名) 都會、都市
 とくわい 土塊(名) 土塊兒
 とくわい 度外(名) 度外(度外に置く) 置於度外(度外視) (シ) 置之度外
 とくわん 土管(名) 瓦筒 「外
 とげ刺(名) 刺(ヒ) 薔薇には刺がある」 薔薇花上有刺兒(手に刺が立つ) 手上扎了刺了、叫木頭刺扎了手「魚を食って咽に刺が立った」

とけあふ 解合フ(四段自動) 釋疑
 とけい 徒刑(名) 徒刑
 とけい 時計(名) 鐘(柱時)、錶(時計) (時計屋) (ヤ) 1. 鐘錶鋪 2. 鐘錶匠
 「時計計」(オキ) 坐鐘(目醒時計) (時計) 醒鐘、鬧鐘(腕時計) (ウツ) 手錶(金側時計) (キンガ) 金壳錶(ニツケル側時計) 錄壳錶(大時計) (オホ) 大自鳴鐘(兩蓋時計) (リヤウフ) 悶殼兒錶(片側時計) (カタカ) 肚臍兒錶(ストップウォッチ) 卡馬錶、立止錶、按停錶、記秒錶
 とげざ 土下座(名) 跪在地下、地攤兒、地座兒(土下座をする) 地攤兒、席地坐
 とけつ 吐血(名) 吐血

とけつ 兎缺(名) 豁唇子

とこ 床(名) ①(ネドコ) 床、牀 ②炕

(ネド) ③地板(カ) ④理髮處、絞髮

處 ⑤日本客廳擺裝飾的地方

〔床を取る〕鋪坑、鋪鋪蓋〔病氣で

床に就く〕有病在床上躺下、病

臥〔夜の十時には床に就きまゝ〕

一到了晚上十點鐘就上炕睡覺

〔上床睡〕〔床を上げる〕疊炕、把

鋪蓋疊上、整理臥具〔床前に坐

る〕坐首座

とこ 所(名) 與ところ同

(とこ) 何處(代) 那兒 (na²)、那裏

(na²)、甚麼地方、何處〔此處は何

處です〕這是甚麼地方〔貴下は何

處へ行きます〕您上那裏去〔此時

計は何處か損じた處がある〕這個

錶不知道那個地方有毛病〔何

處にでもある〕無所不在、無處

不在、甚麼地方都有

とこ 土語(名) 土話、土語、方言、

郷談

とこ あげ床揚(名) 病癒棄床、病

とこ 入り床入(名) 入洞房、圓房、

とこ 土寇(名) 土匪

とこ しなへ常(名) 永遠、永久

とこ ずれ床擦(名) 尋瘡、癩瘡

(とこ) となく何處ト無ク(副) 不知

道甚麼地方、不知何故〔彼は何

處と無く厭な所がある〕他那個

人不知道那兒有討厭的地方

〔あの二人は何處となく似て居る

所がある〕他們倆說不上那兒有

相似的地方、他們倆鬚髯有相

似的地方〔私は何處となく其噂

を聞いた〕我鬚髯聽見過有這個

風聲似的

とこ なか床中(名) 被窩裡頭、牀

上〔床中で本を讀む〕躺在被窩裡

頭看書

とこ のま床間(名) 日本客廳擺裝

飾掛畫幅的地方、後厦

とこ ばしら床柱(名) 後厦的柱子

とこ ばなる床離ル(下二段自動) 起來

とこ ぶち床椽(名) 後厦的炕簷

とこ や床屋(名) ①理髮處、絞髮

處 ②剪髮的、理髮匠

とこ やら何處ヤラ(副) 與どこと

なく同

とこ 何處(名) ①所、處、地方

〔得る所幾もなし〕所得無幾〔由

とこ 處(接) 接續上下二句之語

能聽戲呀現在快考試很忙〔申

幾塊、好幾處〔着物が處處破れて居る〕衣裳有好幾塊破的地方
〔この本は處處誤字がある〕這本書有幾處錯字〔漆が處處はけて居る〕油漆處處脫落

とざい 吐劑(名) 嘔藥、吐藥

とざい 徒罪(名) 徒罪

とざう 土葬(名) 土葬

とざう 土藏(名) 倉、庫、倉庫

とさか 烏冠(名) 雞冠子

とさくさ(副) 忙亂的〔轉宅でど

さくさする〕因爲搬家忙忙亂亂的〔家でどさくさして居る間に賊

が入った〕家裡正在忙亂的時候

とざし 肩(名) 插關兒 開了賊了

とざす 鎖(名) 鎖(カギ)、鎖(カケル)、關

(カ) 門(カ) 鎖(カ) 鎖門、鎖上門

とさつ 屠殺(名) 屠、宰、屠宰、宰殺〔屠殺場〕(ジャウ) 宰牲所、宰牲廠、屠獸場、殺畜場、屠場、屠宰場

(とさ)とさ(副) 與どかどか同

とさまかうさま(副) 左……右……

……〔とさまかうさまに思案する〕

左思右想 「浮屍

(とざ)とざもん土左衛門(名) 淹死的、

とざん 登山(名) 登山、上山去

とざん 土産(名) 土産(其地)、土物

とざん 土産(其地)、土物

とざん 土産(其地)、土物

とざん 土産(其地)、土物

とざん 土産(其地)、土物

とざん 土産(其地)、土物

五、虛度四十五〔貴下のお父さんの年はお幾つですか〕令尊高壽
〔あの人は私より年が三つ上です〕
他的歲數兒比我大三歲〔私は辰年です〕我是屬龍的〔年取る〕上年紀〔年が若い〕年輕、年幼〔年が改まる〕改年曆〔年を越す〕過年〔年を跨ぐ〕占兩個年頭兒〔年の初〕歲首、新正〔年の暮〕年底、歲暮〔年大に豊る〕歲大豊、很好
的年頭兒

とし 徒死(名) 白死、徒死

とし 都市(名) 都市、城市、城池、

とし 敏(形) 敏、敏捷、聰明

とし 疾(形) 疾、快

とし 疾(形) 疾、快

とし 疾(形) 疾、快

及冠(副) 及笄(多)、發身(男女)

とし 年頃(副) 年來

とし 壯年(名) 壯年

とし 比(名) 比我歲數兒小的人、晚輩

とし 押(名) 押歲錢

とし 歲月(名) 歲月

とし 年年(名) 每年、年年兒

とし 概(副) 概而不論

とし 所(名) 所はどしどし云って下さい

とし 管(名) 管說〔不勉強の學生はどしどし退

とし 論(名) 論全都革退

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とし 有(名) 有咕

とせ 刀自(名) 當家的婦人、主婦

とせ 途次(名) 路上

とせ 屠兒(名) 屠戶

とせ 徒爾(副) 徒爾、白

とせ 同士(名) 伴兒、們、夥伴兒

〔女は女同士話す〕女人是和女人們說話〔同士軍〕(イグサ) 同黨打仗

〔同士打〕(ウチ) 同室操戈

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 年上(名) 歲數兒大〔彼は私より五つ年上です〕他是比我

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とせ 數兒

とち

とち土地(名) ①地、土地、地畝
 「土地を買ふ」買一塊地「土地を開墾する」開墾地畝 ②本地「土地の者」本地の人「土地の物」土産、土物、土宜「土地語」(コト)土話、土語、土言、本地話「土地訛」(ナマリ)土音 「(蒲團ナ) (ナマリ) 土音」
 とち綴(名) 釘的(書物)、行的(Hang?)
 とち何方(代) 那個、那個地方、那方、那麼(na?)
 (とち) 笨、糊塗
 とちいと綴絲(名) 行線(Hang?)
 とちかがみ(名) 水草之名、蘋
 とちかた綴方(名) ①釘的、釘法 ②(蒲團ナ)行的、行法(Hang?)
 とちがめ鼈(名) 鼈、王八
 (とちくしやう) 罵人的話、畜

とち

生、王八、王八蛋、畜類
 (とちぐるま) 玩耍、調戲
 とちこむ綴込ム(四段他動) 釘成一塊兒(デコム)、續訂(後へ後へト) 塊兒(デコム)、續訂(後へ後へト)
 とちこむ閉込ム(下二段他動) 禁錮、幽閉 「不出、閉門不出」
 とちこもる閉籠ル(四段自動) 杜門
 とちこよみ閉曆(名) 時憲書、黃曆 「(書物)、行上(Hang?) (蒲團ナ) (下) 附ク(下二段他動) 釘上」
 とちつけいと綴附絲(名) 行線(Hang?)
 とちぼん綴本(名) 釘成的書
 とちまき綴巻(名) 同上
 とちむ綴ム(下二段他動) 了結、完了
 とちめ綴(名) 了結、完了
 (とちめんぼう) 粉麵棒(名) 慌張、

とち

慌忙、心慌「粉麵棒を食ふ」着了忙了(食フ)「粉麵棒をふる」着急
 とちやう斗帳(名) 佛幔 「(氣ツイ) (ラツイ)」
 とちやう賭場(名) 賭場、賭局、賭館、寶局、耍錢廠兒
 とちやう泥餹(名) 泥餹「餹泥救」(ヌキヒ) 1. 撈泥餹 2. 俗語之名「泥餹汁」(ジ) 泥餹湯「泥餹髭」(ヒゲ) 狗繩鬚子
 とちやく土着(名) 土着(Fu's chu?) 「土着の人」本地人、土人、本處人、根生土長的
 とちゆう途中(名) 半道、道兒上、半途、半路途中「途中から引返した」走到半道兒回來了「途中で雨に遇った」在半道兒上趕上

一一一四

とち

雨了「學校を途中で止める」半路途中把學校退學「途中まで話して後は話さない」說到半截兒往後不說「途中で工事を止める」半路途中的停工
 とちゆう土中(名) 地裡、地裡頭「土中に埋まる」埋沒在地裡頭、埋在地裡
 (とち) 何方(代) ①那個(na?)、甚麼 ②那兒(na?)、那麼(na? mo?) 「貴下は何方が好きですか」您愛那個好「林檎と梨とどちらがよいか」苹果和梨甚麼好「貴下は何方から来ましたか」您是那兒來的「此處では何方が東です」在這裡說那方是東方「何方が勝つか負けるか分らぬ」不能保、誰勝誰

とちとつ

敗「何方でもよい」甚麼都可以、兩個都可以、兩可着、兩可之間「どちらともつかぬ態度」摸稜的態度、摸稜兩可的態度、騎牆主義
 (とち) 何(代) 與どのみ
 とつ 訥(名) 訥
 とつ 咄(名) 咄、吓
 とつ 閉ヅ(上二段自動) 凍、封、凝「氷が閉ちる」凍氷了「河が閉ちた」(氷結)封了河了「卵がまた閉ちない」雞蛋還嫩哪「片栗が閉ちた」藕粉凝了
 とつ 閉ヅ(上二段他動) 閉、合「門を閉づ」閉門、關門「口を閉ちて言はず」閉口無言「眼を閉ちる」閉眼睛、把眼睛合上「本を閉ちる」合

とつ

上書
 とつ 綴ヅ(上二段他動) ①釘「本を綴ちる」釘書 ②行(Hang?)「蒲團を綴ちる」行鋪蓋
 とつ あふ凸凹(名) 凸凹
 とつ おいつ(副) 游移不定
 とつ かうやく特效藥(名) 特效藥、とつ かん吶喊(名) 吶喊 「適藥」
 とつ き凸起(名) 凸起
 とつ き突起(名) 突起、隆起、瘤
 とつ ぎ嫁(名) 嫁、過門、出門子
 とつ ぐ嫁グ(四段自動) ①嫁、過門、出閣、出門子 ②交媾、行房
 ドック(名) (Dock) 船塢、船渠、船廠、修船廠「乾船渠」旱塢「浮船渠」浮塢「泊船渠」水塢「ドックに

一一一五

入る「入場、進場、入渠(ドック)を
出る」出渠、出塲
とつくに外國(色) 外國 「就
とつくのむかし疾ノ昔(色) 早、早
(とつくみあひ取組合(色) 揪扭
(とつくみあふ取組合(四段自動) 揪
扭
(とつくりと熟ト(同) 好好兒的
とつくわん突貫(色) 與とつげき同
とつけい 特惠(色) 特惠(特惠税率)
(イリツ) 特惠税率
とつげき 突擊(色) 突擊、衝擊、衝
鋒、衝去、衝出、衝下去、忽然
衝出「敵陣に突撃する」衝撃敵軍
(とつこい(感) 哎、哎呀(とつこい
危い) 哎懸呀(とつこいさう甘く
はやらんぞ) 呀我不能叫你這麼

好好兒的
(とつこいしよ(感) 同上
(とつこいどつこい(色) 轉盤兒(ど
つこいどつこい) 做轉盤兒生意
的
とつさ 咄嗟(色) 咄嗟、俄頃之間、
(とつさり(副) 許多、好些個
とつしゆつ 突出(色) 突出
(とつしり(副) 很沈重、穩重、沈
穩、端莊、莊重(とつしりとして
威嚴がある) 人很莊重有威風
とつしん 突進(色) 突進、闖入、闖
進「屋内へ突進する」闖入屋内
「敵陣へ突進する」往敵營衝攻去
とつぜん 突然(副) 突然、突而、昌
味、抽個冷子「突然問はれると一
寸御答が出来ません」你這麼抽

個冷子一問我也一時不能回答
「今日は突然御伺ひして失禮しま
した」今天我冒昧造訪實在對
不起 「斗(ト) (Yan' ken' tou?)
(とつたり(色) ①捕快(トツ) ②翻筋
(とつつかまる(四段自動) 被拿住、
被捉住
(とつつかまへる(下二段他動) 拿住、
とつて取手(色) 把兒(約急須ナ)、梁兒
(カゴナベ)、提梁兒(上)
(とつてかはる取ッテ代ル(四段自動)
取而代之、頂替、頂開、推倒「人
を推しのけて取って代る」把人頂
開了佔人家的地位、把人的地
位推倒了得他的缺、攘奪人的
地位

(とつてかへす取ッテ返ス(四段自動)
翻、轉、復返「途中から取って返
す」走到半路上翻回來「彼は又
た取って返して室内に入った」他
復返又進屋裏去了
(とつと(副) 哄然、闐堂(とつと
笑ふ) 哄然大笑、闐堂大笑 ②病
沈重(とつと床に就く) 病的沈重
直在床上躺着
とつとつ 咄咄(副) 咄咄
とつとつと(副) 撲撲的、突突的「胸
がとつとつと跳る」胸脯突突的
跳、心跳的像小鹿兒似的
とつなぎ 外繫(色) 拴馬樁子
とつば 突破(色) 突破「記録を突破
する」突破記録
とつばつ 突發(色) 偶發、意外發生

的、突然出來的
とつばん 凸版(色) 凸版(凸版印刷)
(シツ) 凸版印刷
(とつび 突飛(色) 離奇的、離了軌
的、奇矯的、怪妄的、狂妄的、出
於人意外的「彼はいつも突飛な
事を云ふ」他常說怪妄的話
とつべん 訥辯(色) 拙嘴笨舌、拙
嘴牒頭、說話笨
トツブ(色) (Top) 最前頭、絕頂、頂、
最高的「トツブを切る」領頭兒、
在最前頭走 「(キヤウ) 凸面鏡
とつめん 凸面(色) 凸面(凸面鏡)
とて(動) ①打算、要「花見にとて
出で行く」(文) 打算看花出門去
「本を讀まん」とて机に向ふ」(文) 打
算看書靠桌子 ②說「明年又來ん

とて(歸れり)(文) 他說他明年再
來這麼回去了 ③雖、雖然、縱然
「賢しとて勉強せれば學問は進歩
せぬ」雖然聰明可不用功學問
就不能長進 「(一) 甬路、隄路
とて土手(色) 河壩、河堤(土手道)
とてい 徒弟(色) 徒弟
(とてつもない 途徹モナイ(形久語)
無條理、無比、不知深淺、與途
方もない同
(とてつばら(色) 肚子
とても 逆モ(副) ①到底「此病氣は
逆も治らない」這場病到底治不
好「電車は逆も汽車に及ばない」
電車到底比不上火車 ②無比、
很「逆も好い」好的無比、好的很
(とてら(色) 綿襖一類

とと父(名) (小孩) 爸爸、爹、阿媽

(漢語)

とと魚(小孩) ①魚 ②小鷄兒

とと度度(副) 再三再四的、屢次的、疊次的、好幾回

とと嗷嗷(副) 嚷嚷、嗷嗷、吵鬧

とと渡頭(名) 渡頭、擺渡

とと都督(名) 都督

とと周到(四段自動) ①周到、周密

とと「あの人は何事もよく届く人です」

他做甚麼很周到「私の届かない

所は十分御注意を願ひます」我

有不周到的地方請您提補提補

「一言断っておけば念が届きます」

若是預先告訴他一聲兒就妥當

了②到、達、敷「私の手紙は届き

ましたか」我的信到了沒有、我

的信您收到了麼「この電報は一

日で届きます」這個電報一天的

工夫可以送到「私の願が届きま

した」我的希望達到了、事情如

我的願了「手が届かない」太高

摩不到、設不着「眼が届かない」

1. 眼睛看不到 2. 眼目不週

とと届ク(下二段他動) ①告、報、呈

報、報告「缺席を學校へ届ける」

報學校告假「盜難を警察に届け

る」把失盜的事報警察署、呈報

失盜②送、交給「出來上ったらお

届け致します」趕做得了給您送

了去「此手紙を某君に届けて下さ

い」請您把這一封信交給他「金

五圓使に托し御届け致候間御改め

被下度候」茲特命小价齊上銀洋

五元伏祈檢收

とと届(名) 條兒、呈子、稟、呈

報書、與届書(じよ) 同「届を差出

す」遞呈子、上稟、呈報「届を受

付ける」收呈子「缺席届」(ケツセ) 告

假條兒「出生届書」(シヨウシヨ) 出生

呈報書「死亡届書」(シバヨ) 死亡呈

報書

ととけいづ届出(下二段他動) 呈

報、稟報、報到、稟到「警察に届

出づ」報到警察署「盜難を届出

づ」呈報失盜、報盜「口上で届出

づ」面稟、當面稟報 「報官

ととけいで届出(名) 呈報、稟報、

ととけさき届先(名) 接東西的主

兒、收東西的主兒、送往處「此

手紙の届先は何處ですか」這封信

送到那裡呢

ととけしよ届書(名) 與届(名) 同

ととこぼり滞(名) 不順當、滯賦、

拖欠的、欠的「何事も滞なくすん

だ」諸事都順順當當的完了「掛

金の滞がある」賒的賬滯賦

ととこぼる滞ル(四段自動) ①滯賦、

拖欠、欠「家賃が三個月滞って居

る」房錢滯賦着三箇月「家賃を

滞らす」拖欠房租「利子が滞る」

拖欠利錢「あの事件は障害の爲

に滞って居る」那件事情因爲有

妨礙滯賦着②淤滯「悪い血が滯

る」惡血淤滯

ととどのつまり(副) 到底、究竟、

末末了兒、鬧了歸齊、趕到歸齊

ととのふ調(四段自動) ①整頓、齊

整「軍備を整ふ」軍備整頓②具

備、俱全「道具は何もかも調って

居る」無論甚麼東西一概俱全③

妥、妥當、妥協、完全「相談が調

ふ」商量妥了「用意が調はない」

預備不妥當、預備的不完全「彼

の議論は調って居る」他的議論說

的完完全全的④勻合、和諧、調

和「調子が調ふ」腔調兒和諧

ととのふ調(下二段他動) ①整頓、

齊整、整理「服裝を調へる」整頓

衣冠、整整衣服、把衣服整理

「道具を調へる」1. 把傢俱齊整

齊整 2. 買齊傢俱、置買傢伙、

置辦什物 3. 備辦傢俱②預備

「試験の準備を調へる」預備考試

⑤調合、調和、調整「調子を調へ

る」把腔調兒調和⑥備辦、置

辦、備齊、打點「軍需品を調へる」

備辦軍需、備辦軍隊應用的物

件「旅裝を調へ出發する」打點行

裝起身「必要の品を調へる」置辦

應用的東西、備齊需用物件

ととまる止(四段自動) ①住「東京

に一個月止る」在東京住一個月

「立ち止る」站住②止「行かずに

止まる」不去而止「獨り彼のみに

止らす誰も皆注意すべき事です」

這是不止他一個人誰都得要留

神的事情③留「暫く現職に止る」

暫且留任④斷「思ひ止まる」斷

了念頭、死了心

ととむ止(下二段他動) 止、留、停、

停止、止住、阻止、攔住〔客を止める〕留客、不讓客人走〔血を止める〕止血〔怒を止める〕止怒、息怒、消氣〔足を留める〕留步、止步、止住、站住、停住脚步〔車を止める〕停車〔罪人を獄中に止める〕把罪人收留在監獄裡頭〔辭職を止める〕勸人留任〔酒は三杯に止めておく〕酒勸三杯〔涙を止めることが出来ない〕禁不住眼淚流下來〔話を途中で止める〕把話說到半截兒停住 「脖子」とどめ止(名) 脖子〔止を刺す〕扎とどろく(動) 轟ク(四段自動) 轟、揚、震、震撼〔雷轟く〕雷轟、雷震得慌〔名天下に轟く〕名聲揚在天下、名聲震撼於世界、名振天下

どなう(名) 土囊、沙包、土包、土豚、土囊
 どなた何方(代) ①那方(na³) ②那位(na³)、誰〔此方は何方です〕這位是誰
 どなふ(動) 唱フ(下二段他動) ①唱、提唱、唱道〔ニュートンは地動説を唱へ出した〕牛董提唱起地球自動的說來了 ②聲明〔不服を唱へる〕聲明不服 ③叫〔名を何と唱へますか〕叫甚麼名字 ④念〔咒文を唱へる〕念咒〔念佛を唱へる〕念佛 ⑤呼唱〔萬歳を唱へる〕呼唱萬歳
 どなへ(名) 稱呼(呼)
 どなべ(名) 土鍋(名) 沙鍋
 どなり(名) 隣(名) 隣、隣舍、隔隣、隔

となり(名) 隣合(名) 彼此相隣
 となりあふ(動) 隣合フ(四段自動) 同上
 となりきんじよ(名) 隣近所(名) 隔壁兒(chieh⁴ pi³ eh²)、街坊四隣
 となりざかひ(名) 隣界(名) 隣家的境界
 となりづきあひ(名) 隣附合(名) 結隣
 となる(動) 隣ル(四段自動) 隣、交界、接
 着、挨着
 となる(動) 嘍鳴ル(四段自動) 嘍(iang³)

大嘍、大聲叫喊、咆哮〔一聲嘍鳴る〕嘍了一聲〔表で嘍鳴って居るのは誰ですか〕外頭嘍嘍(iang³) 的是誰
 とにかく(副) 兎ニ角(副) ①無論怎麼樣、好歹〔兎に角私の家へ行って話させう〕好歹上我家去談一談〔兎に角一つやってみやう〕好歹先辦着瞧瞧〔彼はとかくの批評はあるが兎に角手腕家です〕關于他有各樣的批評可無論怎麼樣是有能耐的人 ②各樣、家長里短〔かうやれば兎に角の批評は免れない〕這麼辦就免不了有各樣的批評
 とにかく(副) 兎ニ角(副) 同上
 ともかく(副) 兎ニモ角(副) 同上

との(名) 同上
 どの殿(名) ①宮殿 ②王侯貴人的殿(接尾) 稱呼人的恭敬語與さま(様)同、官場多用殿民間多用様、大人、老爺、先生(他二人ノ敬稱ハ一律ニ先生ノミヲ用フ)
 どの何(代) 那個(na³)、甚麼、多大〔どの人〕那個人〔どの船〕那隻船〔東京はどの邊にお住居ですか〕在東京住在甚麼地方〔どの位大きいですか〕有多大個兒〔汽車でどの位時間がかかりますか〕坐火車去得多大工夫
 どのがた(名) 殿方(婦人用) 爺們(婦人用)
 どの二砥粉(名) 磨刀粉子
 どのご殿御(名) 與殿方(たの)同
 どのさま殿様(名) 王侯貴人的稱

呼(殿様育) 純袴子、胎裡紅、公子哥兒出身的
 どのばら(名) 殿原(名) 與とのがた同
 どのみち(副) 左右、横堅〔どのみち一度は行かればならぬ〕左右得去一盪
 (どのやうに) 何様(副) 怎麼、如何〔何様に罵られても怒らない〕別人怎麼罵他他也不生氣
 どのる(動) 宿直(名) 值宿(chi³)、上夜
 とは(助) 者、之云者〔忠孝とは…〕忠孝之云者(文) 〔仁とは人なり義とは宜なり〕仁者人也義者宜也(文) 〔僕を泥棒とは…〕你看我是賊麼
 とば賭場(名) 賭場、賭局、賭館、寶局、耍錢廠兒

とは

どば 土場(名) 屋裡地

どば 驚馬(名) 驚馬、劣馬

どばい 奴輩(名) 奴輩、奴才

どばう 途方(名) ① 所措(途方に暮れる) ② 不知所措、不知道怎麼辦、方法使盡、智窮才竭 ③ 無條理(途方もない事を云ふ) ④ 說不知深淺的話、說無條理的話 ⑤ 無比(途方もない値段) 貴無比的價錢、價錢貴的出圈(途方途徹もない) 無條理、無比

どばかり (副) 一會兒的工夫

どばく 賭博(名) 賭博、耍錢、賭注

どばし 土橋(名) 土橋

どばしり 逆(名) 濺の泥、濺の水
どばしる 逆ル(四段自動) 濺(泥が逆る) 濺泥(水が一杯逆りかかった)

とは

濺了一身的水

どばす 飛ス(四段他動) ① 叫飛、飛

「鳥を飛す」 叫鳥兒飛(橄を飛す)

飛橄、飛報(沙石を飛す) 飛沙走

石(飛行機を飛す) 叫飛機飛(車を飛す) 叫車飛着跑(矢を飛す)

飛箭 ② 叫顛着走(馬を飛す) 叫馬顛着走 ③ 颯(風で帽子を飛す)

叫風颯帽子去了 ④ 越過、掀過

「本を三枚飛して讀む」 把書越過

三篇兒念(此一章は飛ばしませう)

這一篇掀過去不念罷 ⑤ 放(紙

鳶を飛ばす) 放風箏 ⑥ 唾(唾

キ) を飛して話す) 唾着吐沫說

話 ⑦ 出去(家を賣り飛す) 把房

子賣出去了 「覺的說漏了

どばすがたり 不問語(名) 不知不

とはとひ

どばまほし 問欲シ(形志久語) 願意

どばり 帳(名) 簾子 「問

どばん 土蕃(名) 土蕃

どひ 樋(名) 蛤蜊、蛤蜊鐵板、隔

漏、承露、水龍溝、笕

どひ 問(名) 問(問を發する) 發問

どひ 徒費(名) 白費、妄花

どひ 都鄙(名) 都鄙

どひ 鳶(名) 鳶、鶴鷹

どひ 奴婢(名) 奴婢

どひ 土匪(名) 土匪

どひ あがりもの 飛上者(名) ① 出

身低的人、小家子出身的 ② 說

荒唐的話

どひ あがる 飛上ル(四段自動) ① 飛

上(鳥が飛上る) 鳥兒飛天上去

② 逆高、起、跳(飛上って喜ぶ) 樂的逆高兒(驚き飛上る) 驚起、驚跳、嚇了一跳

どひ あはず 問合ス(下二段他動) 問、

照會、打聽、詢問、詢問、斟問

「商品の有無を電報で問合す」 用

電報打聽打聽有貨沒有「銀の相

場を問合す」 打聽銀盤兒「詳細は

本局に就きて問合すべし」(文) 要

知細則須向本局詢問「手紙にて

御問合下されば有難存候」 倘承函

洽無任歡迎、如蒙函詢莫名感

謝(御問合の件左に御回答申上候)

承詢某事應行奉復開列於下

どひ あるく 飛歩ク(四段自動) 滿世

どひ いし 飛石(名) 浮橋(道路スカルタ

とひ

どひ 入り 飛入(名) 嗜去(フク)

どひ いろ 鳶色(名) 棕色 「同

どひ うを 飛魚(名) 與とびのうを

どひ おる 飛下ル(上二段自動) ① 跳下

去(馬から飛下りる) 跳下馬來 ②

飛下來

どひ かかる 飛掛ル(四段自動) 撲(猫

が鼠に飛掛る) 猫撲耗子

どひ かく 問掛ク(下二段他動) 問、問

起、問道 「翔

どひ かける 飛翔ケル(四段自動) 飛

どひ かつ 飛交フ(四段自動) 飛去飛

來

どひ きり 飛切(名) 頂、最、無上的

「飛切上等」 頂好的、最好不過

的、無上上品

とひ

どひ ぐち 鳶口(名) 鷹嘴鈎

どひ くだる 飛下ル(四段自動) ① 跳

下去 ② 飛下來

どひ くら 飛競(名) 逆着玩兒

どひ こす 飛越ス(四段自動) 跳過去、

越去、逆過去「塀を飛越す」 跳過

牆去「級を飛越して昇進した」 越

級陞官、躡等陞官

どひ こむ 飛込ム(四段自動) ① 跳(河

の中へ飛込んで人を救ふ) 跳在河

裏救人「群集の中に飛込んで喧嘩

の仲裁をする」 跳進入羣兒裡去

勸架 ② 赴、投「水火の中に飛込

む」 赴湯投火 「こす同

どひ こゆ 飛越ユ(下二段他動) 與とび

どひ さがる 飛下ル(四段自動) 往後

とひ

とひ

とびすぐれる(下一段自動) 卓越、超羣、超越、出衆 「類」
 とびだうぐ 飛道具(名) 弓箭槍砲
 とひだけ 樋竹(名) 做承審的竹子
 とひただず 問糺(四段他動) 詢問、訊問、盤問、詰問、查問
 とびたつ 飛立(四段自動) 逆高兒
〔飛立つばかり嬉しい〕 樂的逆高
 とびち 飛地(名) 零星屬地 「兒」
 とびちがふ 飛違(四段自動) 飛來飛去、懸隔
 とびちる 飛散(四段自動) 飛散
 とびつく 飛附(四段自動) 撲過來
〔犬が私を見ると飛附きました〕
 とひつむ 問詰(下一段他動) 究問、

とひ

究情、問倒、問住
 とびでる 飛出(下一段自動) ① 跑去
〔地震と聞いて外へ飛出した〕 一聽地震就往外跑出去了
 ② 努出來〔眼が飛出る〕 眼睛努出來
 とびとび 飛飛(副) 不按次序的、不相關的、隔三跳四的(本を飛に讀む) 隔三跳四的念書
 とびにんそく 鳶人足(名) 與とびのもの同
 とびぬけて 飛抜(ケテ) 超羣、出類、出圈兒〔飛抜けて好い〕 超羣的好〔立憲政治では飛抜けてよい政治も出来ない〕 在立憲政治不能做出類的好政治
 とびのうを 飛魚(名) 文鯨魚

とひ

とびのく 飛退(四段自動) 往後閃
 とびのもの 鳶者(名) 救火夫
 とびのり 飛乘(名) 飛騎、飛上去〔馬の飛乘〕 趕着馬飛騎〔電車の飛乘〕 追着電車飛上去
 とびはなる 飛離(下一段自動) ① 跳身離開、離着遠、懸隔
 とびひ 飛火(名) ① 火星子 飛去燒別處之謂、② 火星子
 とびまはる(四段自動) 東奔西走〔彼は世話好で一日方を飛廻って居る〕 他愛管人家的事整天家東奔西走的
 とひや問屋(名) 發莊、發行(Bang?) 棧房〔さう旨くは問屋が下さる〕
 我不能叫您這麼好好兒的
 とびやうし 銅拍子(名) 鏢

とひとふ

とびやくしやう 土百姓(名) 鄉下
 佬兒
 とびら 扉(名) ① 門扇子(門)、門葉(桐、窓葉)、② 表題頁(タイトル)
 とびわたる 飛渡(四段自動) ① 飛過去〔鳥が空を飛渡る〕 鳥兒在天上飛過去、② 逆過去〔溝を飛渡る〕 逆過溝去
 とびん 土瓶(名) 茶壺
 とふ 都府(名) 都府
 とふ 屠夫(名) 屠夫、屠人、屠戶
 とふ 問(四段他動) ① 問、打聽、詢問〔道を問ふ〕 問道、打聽道路〔安否を問ふ〕 問候、問好、問安〔病を問ふ〕 問病、瞧病人〔不審を問ふ〕 問不明白的地方、質疑、訪、拜望、瞧〔友を問ふ〕 訪友、拜

とふ

望朋友、望看朋友去、瞧朋友去
 とぶ 飛(四段自動) ① 飛〔鳥飛ぶ〕 鳥飛〔飛行機が空を飛ぶ〕 飛機在天上飛〔星が飛ぶ〕 星星飛流〔飛んで火に入る夏の蟲〕 飛蛾投火、飛蛾撲燈自燒其身、② 逆、跳、跳逆、逆跳〔蚤が飛んだ〕 蛇蚤逆了〔火花が飛ぶ〕 火星兒逆〔溝を飛ぶ〕 逆過溝去〔塀から飛び下りる〕 打牆上逆下來、③ 揚〔埃が飛ぶ〕 土揚、④ 丟〔今此處へ置いた紙が何處へか飛んで行った〕 剛纔在這兒擱着的紙丟了是那裡去了
 とぶく 屠腹(名) 剷肚子
 とぶくろ 戸袋(名) 收開板的地方
 とぶざらひ 溝淺(名) 淘溝
 とぶつ 土佛(名) 泥胎的佛爺

とふとへ

とぶとり 飛鳥(名) 飛鳥
 とぶねづみ 溝鼠(名) 水鼠
 とぶひ 飛火(名) 烽火
 とぶらひ 訪(名) 訪、拜望、問候、請安
 とぶらひ 吊(名) ① 道惱、弔喪、弔唁、追福、追薦
 とぶらふ 訪(四段自動) 訪、拜望、問候、請安
 とぶらふ 吊(四段他動) ① 弔、道惱、弔喪、弔唁、追福、追薦
〔どぶろく〕 濁膠(名) 濁酒
 とふん 土墳(名) 墳頭兒
 とべい 土塀(名) 泥牆
 とへう 土俵(名) ① 土豚、土囊、土包、沙包、② 與土俵場同〔土俵入〕

(行) 在摔跤場摔跤的跳舞(土俵際) (キ) 摔跤場的邊兒(土俵場) (ハ) 摔跤場、躑躅場
 とへん 土偏(名) 與つちへん同
 とほ 徒歩(名) 步行兒走(徒歩で行きませう) 俗們步行兒走(八百米突徒歩競走) 八百米達跑(徒歩旅行) (ヨカウ) 步行兒走路
 とほあさ 遠淺(名) 海岸水淺的地方、海岸多有沙灘的地方
 とほく 土木(名) 土木(土木局) 土木司 「人、底下人
 とほく 奴僕(名) 奴僕、僕人、家
 (とほけ(名) ① 獸 ② 假粧不知道 (とほげもの) 1. 獸子、獸人 2. 假粧不知道的人
 とほざかる 遠ル(四段自動) 遠、遠

離(船が陸地に遠る) 船遠離着陸地走(善人は皆彼に遠る) 善人都遠着他、善人都疎遠他
 とほざく (下二段他動) 遠、遠着(小人を遠く) 遠小人(友人が皆彼を遠ざける) 朋友們都遠着他
 とほし 篋(名) 大篩子
 とほし 遠シ(形久語) ① 遠(道遠し) 道路遠、道途修遠(山河遠く隔る) 山河修阻(文) (遠く相離れる) 相離很遠(私の家は此處から遠いです) 舍下離這裡很遠着哪(遠くの親類近くの他人) 遠親不如近隣、遠水近火、遠水解不了近渴(遠き親類) 遠親戚、瓜葛親(私は彼に及ばぬこと遠い) 我遠不如他(彼の語學は上手と云ふま

でにはまだ遠い) 他說的話離着巧妙還遠着的哪 ② 背(彼の耳は遠い) 他的耳朵背 ③ 遠遠的、遠遠的(遠くに見える) 遠遠看見(遠くの島が見える) 遠遠兒的看得見海島 (彼は縁が遠い) 他
 とほし 燈(名) 燈 「老不成家
 とほし 乏シ(形志久語) 乏、短、缺、缺乏、短少(才に乏しからず) 不
 乏人才(才乏し) 才短(資財乏し) 錢短(見識乏し) 見識缺
 とほし 通(接尾) 竟、直(一日歩き通で大層疲れた) 今天從早起竟走了一天累的慌(神戸から大阪まで歩き通で来た) 從神戸到大阪一路走着來的(彼は輕卒だから主人に叱られ通です) 他人草率

竟被東家申斥
 とほしあぶら 燈油(名) 燈油
 とほしきつぷ 通切符(名) 通票、全程票
 とほす 通ス(四段他動) ① 通、過(目を通す) 過目(水を通す) 過水兒(風を通す) 通風透氣、過風兒(彼處に巡查が立って居て人を通さない) 巡警站在那兒不讓人過去(冬を通す) 過冬(客を客間にお通し申せ) 讓客人到客廳裡坐
 穿、鑽(山を通して道をつける) 穿山通道路(針に絲を通す) 綯針、穿線、穿針(銃丸が鐵板を通す) 槍子兒鑽過鐵板 ③ 貫徹(自分の意見を通さねば止まぬ) 非得貫徹自己的意見不止(到頭思を

通した) 到了兒如了願了 ④ 直(一日書き通す) 直寫了一天(六時間歩き通す) 直走了六點鐘的工夫 ⑤ 經、由(仲人を通して先方へ掛合ふ) 經中人的手和前路商議、由中人和那一方面交涉(此着物はまだ手を通さぬ) 這一件衣裳是新的還沒穿過
 とほす 點ス(四段他動) 點(ランプを點す) 點洋燈(蠟燭を點す) 點蠟
 (とほせんほう(名) 又開雙手擋
 とほそ 樞(名) 樞鈕 「着人
 とほで 遠出(名) 遠去、出遠外
 (とほとほ(副) 磨磨磨(後からとほとほ付いて行く) 在後頭磨磨磨的跟着去
 とほね 遠音(名) 遠地方的聲音

とほのく 遠退ク(四段自動) 遠(人馬の響が次第に遠退く) 人馬的聲兒漸漸的遠(遠退くと忘れる) 時候過遠了就忘
 とほのり 遠乘(名) 騎馬遠去
 とほまき 遠捲(名) 圍住、遠遠的圍住
 とほまはし 遠廻(名) 繞着灣兒(遠廻に云ふ) 繞着灣兒說
 とほまはり 遠廻(名) 繞灣兒、繞遠兒(此道を行くと遠廻です) 走這個道兒就繞遠兒
 とほみ 遠見(名) ① 遠望 ② 守望、探望(遠見番) (バシ) 守望的人(遠見櫓) (ヤグラ) 望樓
 とほみち 遠道(名) 走遠
 とほみみ 遠耳(名) 耳朵能聽遠的

とほめ遠目(名) ①遠看 ②眼睛能看遠的(彼は遠目がきく)他的眼看得遠 「千里眼」
 とほめがね遠眼鏡(名) 千里鏡、
 とほやま遠山(名) 遠山(遠山里)
 (ザ) 荒村野店
 とほよせ遠寄(名) 與とほまき同
 とほり通(名) ①通、透(風の通が悪い)不透風(暗溝の通が悪くなつた)暗溝不通了 ②街、大街(此道を真直に行くと通へ出ます)一直的走這條街就可以到大街 ③來往(大道は人の通が烈しい)大街上人來往很熱鬧 ④按、照、按照(雛形の通造つて下さい)按着我的原樣子做罷(平常の通授業がある)照常上課(規則通實行す

る)照常實行(文面通に解釋する)按着字面解、照着字樣講解 ⑤對、應(貴下の御説の通です)您說的對了、可說的是呢(果して私の云つた通になつた)果然應了我的話了 ⑥如、這麼、樣子(此通り)如此、這麼樣(左の通り)如左(思ふ通にならぬ)不如意(前に話した通)上回所說的樣子(此通の事情です)情形、如此、事實如此(願の通になる)如願、可心 (彼は上役に通がよい)他跟上司有人情
 とほり通(接尾) ①套、着物一通(一套衣裳) ②大概、大略(彼は何の學問も一通出来る)他是無論甚麼學問大概的都會(事の仔細を

一通話した)把事情的一五一十的大略說了一遍
 とほり點(名) 沾(此油は火の點が悪い)這個油不沾火
 (とほりいっぺん通一片(名) 平常的、泛泛的(通一片の客)不是常照顧主兒(通一片の交際)泛泛的交際、和人就是有招呼、和人只有點首之交
 とほりかかる通掛ル(四段自動) 走到(森の處を通掛ると二人の追剥が出た)走到樹林子那兒出來了 倆路劫
 とほりがけ通掛(名) 路過順便(私は通掛にお伺したのです)我是從這裡過順便望看您來的
 とほり通(名) 通用的話

とほりじ通字(名) 排行字(波那ニハ兄弟用フ)

とほりな通名(名) 通稱、字

とほる通ル(四段自動) ①通、過(今日貴下の門前を通りました)今天我在此門前兒過(意味が通らない)意思不通(通りかかる)路過 ②透、流通、透徹(風がよく透る)風很流通、很透風(骨に透る寒さ)透骨的冷(汗が上着の上まで通つた)汗濕透了衣裳了(このエム布は水が通らない)這個橡布不透水(彼の聲はよく通ります)他的聲兒很透徹(此木は固くて錐(き)が通らない)這個木頭硬錐子扎不透(この鐵板は彈丸が通らない)這鐵板是彈子兒打不透

的(石綿は火が通らない)石綿是不透火的、石絨能隔火(經火)

③通用、通行(此錢は通らない)這個錢不通用(英語は世界の何處でも通る)英國話世界上到處都通行 ④走(道を通る)走道路、在街上走 ⑤馳(名が四方に通る)四遠馳名 ⑥進、進去(客間に通る)進到客廳裡去坐 ⑦如(願が通る)如願、可心 ⑧瀉(腹が通る)瀉肚子 (庭に樹木が多くて日光が通らない)院子裡樹太多太陽晒不着
 とほる點ル(四段自動) 點、着(chao?)
 [電燈が點つた]電燈着了(この蠟燭は點らない)這個蠟燭不着(ランプが點つた)洋燈點着了

とま(名) 船上的草蓆子、蓆

とま土間(名) ①屋裡地 ②池子(側場)
 とます斗樹(名) 盛一斗的斛斗
 とます富ス(四段他動) 富(國を富す)富國
 とまつ塗抹(名) 塗、塗抹、抹去、擦去(文字を塗抹する)塗抹文字
 トマト(名) (Tomato) 番柿、西红柿、番茄、外國茄子、洋柿子
 とまどひ戸惑(名) ①睡忽迷(shui? ou? mi?) (ヒスル) ②走錯了門兒
 とまのや苫屋(名) 蓆棚子 「兒とまぶき苫(名) 用蓆蓋的房頂
 とまや苫屋(名) 與とまのや同
 とまり留・止(名) 到頭(書記の俸給は百圓が止です)書記的月薪一百元是到頭兒的(彼も次官まで

進めば止です」他也陞到次長就
算陞到頭兒了

とまり泊(名) ①(トナ)口岸、海口、
港②住③客店、客棧④值宿、當
值

とまりがけ泊掛(名) 住、盤桓幾
天「此次は泊掛でお出で下さい」
下次你到舍下盤桓兩天來好不
好

とまりぎ泊木(名) 鳥兒落的架子
とまりぎやく泊客(名) 落店的客
とまりばん泊番(名) 值宿 「人
とまりぶね泊船(名) 灣着的船、
陡泊的船

とまりやど泊宿(名) 客店
とまる留ル・止ル(四段自動) ①住「私
は國へ歸らず暫く此處に留つて居

ります」我不回國暫在這裡住
「貴下は南京に何日留りました」
您在南京住了幾天「血が止らな
い」血堵不住、血止不住②站
住、停、止、停住「時計が止った」
錶站住了(懐中時計)鐘停了擺了(時計)
「此驛で何分間止りますか」這站
停多大工夫「汽船が止った」輪船
停住了「脈が止った」脈停住了③
落「木に鳥が三羽止つて居る」樹
上有三隻老鴉落着「蠅が止ま
る」蒼蠅落着④改「彼の放蕩はい
くら忠告しても止らない」他那
荒唐的道兒是怎麼勸也不改⑤
荒唐の道兒是怎麼勸也不改⑥
「痛が止った」一吃藥疼就止
住了「渴が止まる」解渴「痛が止

まる」止疼 「この路次は先が止
つて居る」這條胡同是死胡同「大
雨で川が止った」因爲下大雨擺
渡船不渡「大風で船が止った」因
爲颶大風船不開

とまる泊ル(四段自動) ①灣、泊、攏
「船が港に泊る」船灣了口岸了、
船攏岸了、船泊港内②住「宿屋
に泊る」住店③值宿、當值「役所
に泊る」在公署當值

とまれ(副) 與ともあれ同
とまれかくまれ(副) 與ともあれ
かくもあれ同
とまんぢゆう土饅頭(名) 墳頭兒
とみ富(名) ①富「國の富を増す」増
益國富②與とみくぢ同
とみ頼(副) 頼「頼に前非を悔ゆ」頼

改前非

とみかうみ左見右見(名) 東瞻西
望、左顧右盼

とみくぢ富圃(名) 彩票、發財票
「富圃を買ふ」買彩票、打彩票「富
圃に中る」中頭彩、得了彩票「富
圃が落ちる」同上

とみふだ富札(名) 彩票
とみん土民(名) 土民

とむ富ム(四段自動) 富、潤、有錢「支
那は物産に富む」中國富有物産
「滋養に富む」富於滋養

とむ留む・止ム(下二段他動) 與とど
む同、見とどむ條下
とめる留メル・止メル(下一段他動) 同
上「針で留める」用針繃上「痛を
止める」止疼、解疼「渴を止める」

解渴

とむしろ藤蓆(名) 藤蓆

とむらひ訪(名) 與とぶらひ同
とむらひ弔(名) 與とぶらひ同
とめおき留置(名) ①留置、存着②
押、拘留、留置「留置郵便」(ウヰン)
郵便存局候領

とめおく留置ク(四段他動) ①留置
「此品は暫く私の處に留置きます」
這個東西暫在我這兒留着②收
着、押、拘留、押候、還押、留置

「罪人を警察に留置く」把罪人收
在警區裡、把囚犯押在警署裡
③記在「手帳に留置く」記在手帳
上④爲止「話は此處で留置く」話
是說到這裡爲止
とめがは留川(名) 禁止漁獵的河

とめど止處(名) 底止「止處がない」
沒有底止之處、沒有限度

とめばり留針(名) 頂針、扣衣針
とめやま留山(名) 禁止伐木打獵
とも友(名) 友、朋友 「的山
とも侶(名) 侶、同伴
とも供(名) 跟伴的、陪從、從者、
跟人、跟役

とも艦(名) 船尾、船梢
とも柄(名) 拉弓纏肘之具
とも(助) 雖、也、縱然、寧「悔ゆる
とも及ばず」後悔也不及「如何に
云ふとも人は信ぜず」縱然怎麼
說人不信「死すとも肯ぜず」死也
不肯、寧死不讓「死すとも惡事を
してはならぬ」寧死不要做惡事
「とも共(助) 連、都、也「私とも六

想的直掛慮(兎や角云つても駄目だ) 怎麼説也不行

どやき土焼(名) 瓦器、泥性的

(どやどや(副) 與どかどか同)

どよあしはら(名) 豐葦原(名) 日本別名(豐葦原中國)(カククニ)同上(豐葦原瑞穂國)(ゾホノクニ)同上

どやう土用(名) ①季節之名、一年有四回(伏天(土用)(土用休暇)(キウカ) 暑假、伏假、歇伏(土用乾(ボシ) 三伏曬暎東西(土用休(ヤスミ) 與土用休暇同)

どよめく(四段自動) 響動、轟(どよめきわたる) 響遍、轟傳

どら虎(名) 老虎 (Lao? Tui?)

どら寅(名) 寅

どら銅鑼(名) 鑼 (銅鑼聲)(ゴ) 破

鑼似的聲音、喇叭噪子

(どら(名) 荒蕩(ラウ)

(どら(感) 與どりや同)

どらい渡來(名) ①由水路來的(由外洋來的)

どらう徒勞(名) 徒勞、白効勞

どらがしら虎頭(名) 虎字頭兒

どらかす盪ス(四段他動) ①鏢、用火銷金(迷蕩住、令人銷魂、蕩心)

どらく盪ク(下二段自動) 與とろく同

どらす取ス(下二段他動) ①使收(給、送)使拿來

トラスト(名) (Trust) 托辣斯、托

トラック(名) (Truck) ①軌車、板車、手搖車(運送汽車(貨物自)、運送汽車(有蓋トラック) 遮蓋式

運貨車(無蓋トラック) 敞式運貨

(どらね(名) 野猫 「車

(どらのこ虎子(名) ①老虎崽子(珍寶、寶貝)

どらのまき虎卷(名) 黑書、秘本

どらのる虎威(名) 虎威(虎威を借る狐) 狐假虎威

どらはる囚ル(下二段自動) ①囚起來

(囚はれて獄に下る) 囚起來下在獄裡頭(拘泥、墨守、固守、拘執)

(舊例に囚はれる) 拘執舊例、墨守舊法(此字はあまり筆法に囚はれて居る) 這個字筆法太拘泥

どらはれびと囚人(名) 囚人、囚犯

どらひげ虎鬚(名) 直擡擡的鬚子

どらふ虎斑(名) 虎斑

とらふ捕フ(下二段他動) 捕、拿(猫が鼠を捕へる) 猫撲耗子(巡查が賊を捕へる) 巡警拿賊(よい機会を捕へる) 抓機會、趁好機會

とらへどころ捕處(名) 把握(彼の議論は捕處がない) 他的議論沒有可把握之處

トランプ(名) 西洋紙牌、將牌

とり鳥(名) ①鳥 ②小鷄兒(トリ)

とり酉(名) 酉

とりあぐ取上グ(下二段他動) ①舉、拿起、舉起(手に取上げて見る) 舉在手裡看(私人を取上げる) 舉用私人(願は取上げられない) 所稟的事官署不准(入官、抄没(お上で財産を取上げられた) 家産都入了官了、把產業抄沒

とらとり

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

入官(捨(子供が庖丁を持って居る危いから取上げなさい) 唉懸呀小孩子拿着菜刀哪你去搶過來) 收稅(産婆が子を取上げる) 收生婆收小孩子(褌、革(官位を取上げる) 革職、褌職 (取上げて云ふ程の事はない) 沒甚麼可說的話、沒有大説頭 (は) 同

とりあげば取上婆(名) 與産婆

とりあつかひ取扱(名) ①管理、辦理(待、接待(客の取扱) 待客法

③辦法(取扱人) (ニ) 經手人(取扱所) (ドコロ) 代辦所(事務取扱規定) (キタイ) 辦事規則(校長事務取扱) (カウチャウ) 權理校長

とりあつかふ取扱フ(四段他動) ①

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とら

とり

とりあはず 取合ス(下二段他動) 配合

〔此色とあの色を取合すと好い〕
把這兩樣兒顏色配合配合就好

とりあはせ 鷄合(名) 鬪鷄

とりあひ 取合(名) 爭奪、爭取、搶

取、爭(兩人は取合を初めた) 兩人彼此爭奪起來了

二人の男が取合をする 一個姑娘兩個男子爭

とりあふ 取合フ(四段他動) ① 爭、爭奪、

取、搶取、爭先奪取(土地を取合ふ) 爭土地、爭取地畝

くら交渉しても向うは取合はな

い 怎麼交渉他也不採

とりあへず 不取敢(動) 急速、快

快的、先、匆匆(取る物も取り敢

とり

へす立ち出る 急速出門、手忙

脚亂不敢耽悞就趕緊的起了身

了(不取敢御返事申上候) 先行肅

復、匆匆佈復

とりあみ 鳥網(名) 拉鳥兒的網

とりいだす 取出ス(四段他動) 拿出

來、掏出(ポケットから時計を

取出す) 從衣兜兒掏出錶來

とりいづ 取出ヅ(下二段他動) 同上

とりいる 取入ル(四段自動) 打點、巴

結、逢迎、討人愛、和人討好(人

に取入る) 鑽求人的寵愛、巴結

人、和人討好(彼は人に取入るの

が上手だ) 他會巴結人(彼は大官

に取入って居るから位置は大丈夫

です) 他巴結上司所以他這個

缺很牢固

とり

とりいる 取入ル(下二段他動) 收、打

〔穀物を取入れる〕 收糧食、打糧

食、收成、收莊稼(外に乾した着

物の中へ取入れる) 把外頭曬着

的衣裳收起來

とりいれ 取入(名) 收莊稼、收成、

收割、打糧食(取入時) (トキ) 收割

的時候、收斂時

とりうしなふ 取失フ(四段他動) 與

うしなふ 同

とりうち 鳥打(名) 打鳥兒(鳥打帽

トリウム(名) (Thorium) 鈾、篤留

謨、土利武母、土里恩

とりえ 取得(名) 所長

とりえだ 壓枝(名) 與とりき 同

とりおく 取置ク(四段他動) 收着、留

着

一一三六

とりおこなふ 執行フ(四段他動) 辦、

行、執行(政務を執行ふ) 執行政

務

とりおさふ 取押フ(下二段他動) 拿住

〔巡查が賊を取押へた〕 巡警把賊

拿住了

とりおとし 鳥威(名) 草人、按山

人、茅人、嚇唬鳥兒的東西

とりおとす 取落ス(四段他動) 落下

了、丟(何處で取落したか覺えま

せん) 我也不曉得是在那裡丟

的(つい取落してあの人へ手紙を

出さなかつた) 不知不覺的落下

了沒給他寫信

とりおや 取親(名) 義父、乾爹

とりおろす 取下ス(四段他動) 下、揭

下、卸下(額を取下す) 下匾額(鞍

とり

〔ヲ)を取下す) 把鞍子揭下來(荷

物を取下す) 把貨物卸下來

とりか 取個(名) ① 稅額、稅項

進項(名)

とりかか 取掛ル(四段自動) 着手、

下手(仕事に取掛る) 下手做活、

做起活來

とりかご 鳥籠(名) 籠子、鳥籠

とりかこむ 取圍ム(四段他動) 與か

こむ 同

とりかた 捕方(名) ① 緝捕的方法

とりかたづく 取片付ク(下二段他動)

與かたづく 同

とりかぢ 取舵(名) 右舵、外舵

とりかはす 取交ス(四段他動) 交換、

相互、互換(條約を取交す) 互換

約章(禮を取交す) 相互行禮(結

とり

納を取交す) 放了定了

とりかひ 鳥飼(名) 養活鳥兒(カウ)、

養活鳥兒的(フナ)

とりかふ 取替フ(下二段他動) 換、來

回(銀貨を銅貨に取替へる) 把銀

錢換銅子兒(今日は敷布(シキ)を

取替へればならぬ) 今天得換褥

單子(品物が悪ければ御取替へ申

します) 若是東西不好管打來回

とりかへ 取替(名) ① 換(靴の裏は

一度破れたら取替が出来ます) 鞋

底兒若是一破了還可以換換

替換(此品は取替がない) 這個東

西就是一個沒有替換

とりかへし 取返(名) 挽回(此處で

やり損へば取返がつかない) 在這

とり

一一三七

とり

裡一做錯了再不能挽回(挽回
不了)(光陰一たび過ぐれば取返
は出来ない)光陰一過就回不來
了

とりかへず取返す(四段他動) 挽回、
收回、找回、取回、得回來(利權
を取返す)收回利權、挽回利權
[名譽を取返す]把丟了的體面
找回來[一度遣った物は取返す]
とは出来ない]已經給人家的東
西再不能收回來[紛失物を取返
す]得回失物、失而復得[城を取
返す]克復失城

とりき 壓枝(名) 壓枝兒、壓條
とりきむ 取極ム(下二段他動) 定、定
規、定妥、定下[話を取極める]
定下話了[來月三日出發する、]

とり

とに取極めた)定規是下月三號
起身[縁談を取極める]定親、下
定禮[死罪に取極める]定成死罪
[場所を取極めた]採了他方了
[値段を取極める]1.定價 2.說
好了價錢[結果デ]

とりくづす 取崩す(四段他動) 拆、拆
毀[家を取崩す]拆房子
とりくみ 取組(名) ①對手 ②結婚
[貴下方二人の基はよい取組です]
你們二位の棋實在是好對手
とりくむ 取組ム(四段自動) ①揪扭
(組付) ②做敵手

とりけす 取消ス(四段他動) 註銷、取
銷、作廢、收回、銷廢、廢棄
[新聞の記事を取消す]把報上所

とり

登的事作廢、取銷報上紀事
[約束を取消す]把契約作廢、註
銷契約[發令を取消す]收回成
命[前の説を取消す]撤消前言

とりこ 浮虜(名) 浮囚、浮虜、被擄
的[浮虜にする]拿獲、捕拿到、
擒獲[浮虜にせらる]被擄、被擒
とりこ 取子(名) 義子、乾兒子
(とりこ)取粉(名) 撥撥麵兒
とりこし 取越(名) 往前勻日子[取
越苦勞](クラーウ) 杞憂、無益的憂
慮、自找愁煩
とりこす 取越ス(四段他動) 往前勻
日子[誕生祝を取越してする]把
生日往前勻日子辦

とりこはす 取毀ス(四段他動) 拆、拆
毀[砲臺を取毀す]拆毀砲臺

とりこみ 取込(名) 收成、收割、
收莊稼[農家は取込で忙しい]農
家因爲收莊稼很忙 ②忙亂[あ
の家では何か取込がある様だ]我
看他家裡有甚麼忙亂似的

とりこむ 取込ム(四段他動) ①貪贓
[あの校長は取込む事ばかり考へ
て居る]那位校長竟想貪贓 ②籠
絡、牢籠[自分の仲間に取込む]
籠絡他爲自己的黨羽

とりこむ 取込ム(四段自動) 忙亂[先
日は取込んで居て御目に掛らず失
禮しました]上回你来我正在忙
亂時故此失迎實在短禮了
とりころす 取殺ス(四段他動) 做祟
害人、化鬼害人
とりざかな 取着(名) 茶

とり

とりさぐ 取下グ(上二段他動) 消、撤、
撤回[訴訟を取下グ]把案給消
了、撤回訴訟、罷訴

とりさし 烏刺(名) 黏鳥兒、黏鳥
兒的人[鳥刺竿](デ)黏竿
とりさた 取沙汰(名) 風聲、風聞
とりしまり 取締(名) ①約束、管
理、取締、支配、監督[事務の取
締]管理事務[家事の取締]治理
家務[家内の取締]管理家口[あ
の家は不取締です]他門家沒有
規矩[彼は自分で取締が出来な
い]他自己約束不住自己 ②與
取締役・取締人同[取締人](シ)
監督、管理者、監察人、理事、司
事[取締役](チ)公司董事人、經
理人

とりしまる 取締ル(四段他動) 約束、
管理、取締、支配、監督[支配人
が嚴重に取締る]經理嚴嚴的管
理舖子[巡查が場内を取締る]巡
警取締場内
とりしらぶ 取調ブ(下二段他動) 察、
查、考察、盤查[取調への上返事
する]查一查再回復[數を取調べ
る]盤查數目、把數兒點點[罪人
を取調べる]審問罪人[新聞社が
事實を取調べる]報館訪查實情
とりしらべ 取調(名) 察、查、考察
[商業を取調に歐洲へ行く]考察
商務上歐羅巴去
とりすつ 取捨ツ(下二段他動) 與すつ
とりそろふ 取揃フ(下二段他動) 歸
着、整理[出發の際慌てぬ様に荷

とり

とり

とり

物を取揃へておく」省得動身時
搗亂先歸着行李②湊齊、配齊
〔同じ品を取揃へる〕湊齊一様の
東西〔御注文の品を取揃へ高砂丸
に積込御送申上候〕承定各貨已
經配齊由高砂輪裝運〔物品取揃
へ差出候につき御受取被下度候〕
點齊貨物送上祈爲查收是幸
〔あの店は色色の雜貨を取揃へて
居ます〕那個舖子諸色雜貨一概
俱全

とりだか取高(名) ①收成、年成、
打的糧食②薪水的額數

とりだす 取出ス(四段他動) 與とり
いだし同
とりたつ 取立ツ(下二段他動) ①收、
歛(租税を取立てる)抽税、收税、

とり

歛賦〔掛を取立てる〕收賬〔借金
を取立てる〕收債②保舉、舉薦、
登庸〔能吏を取立てる〕舉薦有能
耐的官員〔代金取立〕(ダイキ) 歛項
代收〔取立爲換〕(カヘセ) 代收匯款
とりちがふ 取違フ(下二段他動) 穿錯
了、拿錯了、抓錯了、記錯了〔人
の靴と取違へた〕穿錯了人家的
鞋〔彼は私の話の意味を取違へて
居ます〕他聽錯了我的意思〔私
は日を取違へた〕我記錯了日子
〔昨日私は貴下の蝙蝠傘を取違へ
て歸りました〕昨天我拿錯了帶
着您的洋傘回去了
とりちらす 取散ス(四段他動) 弄的
亂七八糟〔座敷を取散す〕把屋
子弄的亂七八糟

とり

とりつき取附(名) 剛一下手〔取附
は骨が折れるが慣れれば何ともな
い〕剛一下手的時候累的慌可
做慣了倒沒有甚麼〔あの人は取
附の悪い人です〕他那個人是不
容易親近的人

とりつき取次(名) ①轉致、轉交
②回事、回稟〔取次に出る〕回事
的出來接客人〔取次を頼む〕讓
回事的給回一聲兒〔取次人〕(シ)
回事的③代辦、代賣、寄賣、經
售、代銷〔取次所〕(シヨ) 1. 回事處
(受) 2. 代辦所、代售處、經售處、
寄賣的舖子〔取次販賣〕(シバ) 經
售、代賣、寄賣、代銷
とりつきしんしやう 取附身上(名)
新立的家、新成的家

一一四〇

とりつく 取付ク(四段自動) ①扶着

〔船のへりに取付いて居て助かつ
た〕扶着船幫纜活了〔欄杆に取
付く〕扶着欄杆②纏上、做祟〔幽
靈が取付く〕鬼纏着了、鬼做祟、
鬼祟惑〔狐に取付かれた〕叫狐狸
給纏上了〔仕事に取付いた〕有
了生意了

とりつく 取付ク(下二段他動) ①安上、

安置、裝置〔電話の機械を取付け
る〕安上電話機器②平常買的
〔私の處では食品はあの店から取
付けて居る〕我這兒吃的東西平
常買那個舖子的

とりつぐ 取次グ(四段他動) ①回稟、
回事〔これを御主人に取次いで下
さい〕把這個話回稟你們老爺

とり

去罷②代售、代賣、寄賣、代辦

〔取次販賣をする〕代賣、代售、代
銷、寄賣③代交〔此手紙を取次い
であの人に渡して下さい〕請您把
這封信代交某兄

とりつくらふ 取繕フ(四段他動) ①收

拾、拾掇〔少しも取繕はない〕沒
加修飾、不加粉飾〔様子を取繕
ふ〕修飾外面②遮掩、護短、護
庇〔誰も知って居る事だから取繕
うに及ばない〕這是誰都知道的
你不用遮掩〔母が父の前を取繕っ
てくれた〕我母親在父親跟前護
庇我了

とりつけ 取付(名) ①從銀行擠兌
銀錢、擠銀行〔銀行が取付に遇っ
た〕銀行被擠了②熟〔取付の店〕

とり

熟舖子③裝置、裝配、安置、安

〔機械の取付〕裝置機器
とりつむ 取詰ム(下二段自動) ①急〔取
詰めて氣狂になった〕急的瘋了②
迫切〔取詰めて催促する〕迫切的
催逼

とりて 捕手(名) 馬快、捕頭、捕快

とりて 把手(名) 與とって同

とりで 取手(名) 好、好處〔彼は一
つも取手の無い人間だ〕他是一
無可取的東西

とりで 砦(名) 砦、寨、堡障、堡壘

とりで どり(名) 多拿多有便宜

とりで どり(名) 所長、好處

とりで どり(名) 確實

とりで どり(名) 確實

とりで どり(名) 確實

とりで どり(名) 確實

とりで どり(名) 確實

とり

一一四一

とり

た) 纒保得任命了(取留のない事を云ふ) 糊説、説夢話、説捕風捉影的話

とりどり取取(副) ①好些樣兒(取取の噂をする) 有好些樣兒的風聲、街談巷議 ②紛紛(説が取取に分れる) 議論紛紛

とりなし執成(名) ①照應、照料(宜しく御執成を願ひます) 請您好好兒的給照應照應 ②應酬(執成が好ければ客も増える) 若是應酬周到來的客人也就多了 ③學薦(彼は私の父の執成で官に就いた) 他是因爲家父給學薦做的官

とりなす執成ス(四段他動) ①説和、調停、調解、勸解、勸和(色色

とり

と執成して仲直をさせた) 好好兒的給説和纒説和好了 ②應酬(客を執成す) 應酬客人 ③學薦(執成して役に就ける) 給學薦做官 ④照料、照應(何もかも私が執成してあげます) 諸事都有我給您照料

とりなは捕繩(名) 警繩

とりなほす取直ス(四段他動) ①倒拿着(刀を取直す) 把刀倒拿着 ②轉(氣を取直す) 轉想

とりにがす取逃ス(四段他動) ①跑到りにげ取逃(名) 搶去、搶跑

とりのあと鳥跡(名) 鳥跡 ①掃除(庭の雪を取除ける) 掃院子的雪、撮院子的雪 ②挪開(往來の

とり

石を取除ける) 把道路上的石頭挪開 ③除……外(老人婦女子供を取除け皆兵に出る) 除了老頭兒婦女小孩子們以外都得當兵 ④除……外(此事は取除にして置かう) 這件事姑且先擱在一邊兒別管他

とりの二鳥子(名) ①雞蛋 ②紙名(鳥子色) (白) 淡黄色、米色

とりのこし取殘(名) 落下的 ①私一人が取殘された) 我一個人叫他們給落下了(掛取が掛金を取に行つて一軒取殘した) 要賬的要賬去落下了) 一家兒

とりのぞく取除ク(四段他動) 與と

一一四二

りのく同

とりのほす取逆ス(下二段自動) 着急、とりはからひ取計(名) ①辦、辦理 ②作主

とりはからふ取計フ(四段他動) 同上(よい様に取計つて下さい) 請您好好兒的給我們辦(私一個の了見で取計ふ) ことは出來ません) 我一個人不能作主

とりはだ鳥肌(名) 雞皮疙瘩(鳥肌になる) 身上起了雞皮疙瘩

とりはづし取外(名) 摘下、卸下(取外の出来る) 可以卸下來的、活

とりはづす取外ス(四段他動) ①摘下、卸下(戸を取外す) 把屋門摘下來(端下來) (器械を取外す) 把

機器卸下來(義齒(歯)を取外す) 摘下假牙(眼鏡を取外す) 把眼鏡摘下來 ②耽悞(折角の機會を取外した) 好好兒的機會給耽悞了

とりはなす取離ス(四段他動) 搶、奪(手に持って居た拳銃を取離す) 把手裡拿着的手槍搶過來 ①籌、とりははき鳥箒(名) 鳥毛做的箒

とりはやす取稱ス(四段他動) 稱讚、誇獎

とりはらふ取拂フ(四段他動) 撤去、とりひき取引(名) 交買賣、交易、穿換、往來(永年取引する) 交買賣有多年(取引關係) 賬目來往、交易關係(取引を開始する) 開始交易、立賬(取引を止める) 停止

とり

とり

交易(取引所) (シ) 交易所(株式取引所) (カブシキ) 股份交易所(米穀取引所) (ベイシヨク) 米穀交易所

とりひろぐ取廣グ(下二段他動) ①改寬、寬大、使寬、展闊、放寬(道路を取廣げる) 把道路改修寬大、放寬街道 ②擴充、擴張(店を取廣げる) 擴張舖子、把買賣做大(居留地を取廣げる) 擴充租界 ③擺上(風呂敷から出して取廣げる) 從包袱裡頭拿出來擺上

とりひろむ取廣ム(下二段他動) 同上

とりぶん取分(名) 我的份兒、分出來了的我自己的份兒

とりまき取巻(名) ①圍上、圍住

とりまき取巻(名) ①圍上、圍住

とりまき取巻(名) ①圍上、圍住

とりまき取巻(名) ①圍上、圍住

とりまき取巻(名) ①圍上、圍住

とり

一一四三

とり

②奉承人的人

とりまざる取紛ル(下二段自動) 忙亂、混雜(用事に取紛れて忘れて居た)事情忙亂的把那件事情忘了(大勢が取紛れて居る時)大家這麼混雜的時候、大家都手忙脚亂的時候

とりまく取巻ク(四段他動) 圍、圍住 [真中に取巻く]圍在當心了[蟻も通さぬ程に取巻く]圍了一個風雨不透(輪になつて取巻く)圍做一個圈盤

とりまざる取混ズ(下二段他動) 攪和、攪雜(善い品と悪い品と取混せて賣る)把好的不好的攪雜在一塊兒賣
とりまばし取廻(名) 應酬

とり

とりまばす取廻ス(四段他動) ①應酬

「あの人は客の取廻が上手です」他應酬客人很講究の辦理「あの人は何事も甘く取廻します」他辦理甚麼辦的很妥當③遞送(肴(ナカ)を取廻す)把菜挨着排兒遞送

とりみだす取亂ス(四段他動) 亂七八糟(座敷を取亂す)屋裡弄的亂七八糟(取亂した姿)奢奢咧咧的(あの女は夫(トッ)の死を聞いて取亂した風をしない)那個婦人一聽說他男人死了沒有慌亂的樣子

とりみだる取亂ル(四段他動) 同上
トリミングス(名) (Trimings)花邊

とり

とりむすぶ取結ブ(四段他動) 立、結

「契約を取結ぶ」立合同「條約を取結ぶ」締結條約、訂約、訂立約章
とりめ鳥目(名) 雀瞶眼、雀迷眼、とりもち取持(名) 應酬、周旋、照應

とりもち鳥鷄(名) 黏鳥兒膠(取鷄木)(キ)冬青
とりもつ取持ツ(四段他動) ①拿着(手に弓を取持つ)手拿箭弓②應酬、周旋(客を取持つ)應酬客人(酒の座を取持つ)周旋酒席③調停、調處、調和、説和、勸解(私は二人の間を取持つて喧嘩をさせなかつた)我居中調停沒叫他們備打架④鼓吹、吹噓(どうか長

とりわけ取分(詞) 格外、尤其(今年は取分寒さがひどい)今年格外冷的利害(これが取分よく書いてある)這個寫的格外好(それは取分結構です)那尤其妙極了
とりる鳥居(名) 牌坊、華表柱(鳥とりを取索(名) 稱毫、毫繫兒
とる取ル(四段他動) ①取(善を取り悪を捨つ)取善捨惡「天下を取る」取天下「水から水素を取る」從水裡取水素(彼は取るに足らぬ人物だ)他是不足取的人(試験の上百名の學生を取る)考學生取一百名(日本兵は旅順を取った)日本兵攻取了旅順了(官吏

一一四四

とり

官の前を甘く取持つて下さい」求您在上司面前多給美言、請您在上憲跟前給鼓吹(男女の情事を取持つ)拉皮條子
とりもどす取戻ス(四段他動) 與とりかへす同 「是

とりもなほさず取不直(詞) 即、就
とりや鳥屋(名) ①賣雀鳥的 ②賣鷄鴨的
(とりや(感) 噯(どりや出掛けやう)噯這就走罷

とりやう度量(名) 度量(あの人は度量が大きい)他度量大(度量衡(カウ)度量衡、度量權衡
とりやり取遣(名) 贈答、酬獻(手紙の取遣)贈答書信(贈物の取遣)贈答禮物(酒杯の取遣)酬獻

とり

酒杯
とりよく努力(名) 努力、出力、用力、勉力、奮力、勤力、竭力、盡力、努勁
とりよす取寄ス(下二段他動) 叫舖子送來、把貨叫來、送(これは三越呉服店から取寄せたのです)這是叫三越綢緞舖給送來買的(この茶は國から取寄せたのです)這

個茶葉是我從敝國叫來的(その本なら英國から取寄せればなりません)那本書非得從英國書舖給送來纔能買
ドリル(名) (Drill)斜紋布(マヤモ、裕褌布(詞)
とりわく取分ク(下二段他動) 撥(肴(ナカ)を小皿に取分ける)把菜撥

とりわく取分ク(下二段他動) 撥(肴(ナカ)を小皿に取分ける)把菜撥

とりとる

一一四五

とる

は人民からの贈物は取らない」
做官的不能從人民身上取禮物
「決を取る」取決「自ら取れる禍」
自取的禍「大に取るべき者あり」
大有可取②拿、得③「筆を取っ
て字を書く」拿筆寫字「杯を取
る」手裡拿酒杯「箸を取る」拿起
筷子來「鼠を取る」得耗子「蠅を
取る」得蒼蠅「蟲を取る」拿蟲子
「罪人を召し取る」拿罪人「譽を取
る」得名譽「一ヶ月二百圓の月俸
を取る」一ヶ月得二百塊錢的薪
水④採「人の説⑤を取る」採人
的意見「山に入りて藥を取る」上
山採藥⑥執「政務を執る」執政、
掌政務「固く執りて聽かない」固
執不聽⑦偷、竊「人の物を取る」

とる

偷人家的東西⑧娶「妻を取る」
娶媳婦兒⑨摘「帽子を取って禮
をする」摘帽子行禮「眼鏡を取
る」摘眼鏡⑩要「勘定を取る」要
賬「掛を取る」要賒的錢「此本は
幾り取りましたか」這本書要了
多少錢「命を取る」要命、害命⑪
布「着⑫」を取って客に勧める」給
客人布菜⑬打「魚を取る」打魚
「柴⑭」を取る」打柴⑮去「毒を取
る」去毒「三十五から八を取る」三
十五去八⑯脱「外套を取る」脱
外套「袴を取る」脱下裙子⑰量
「尺を取る」量尺寸「(Yang)⑱數
屋から米を取る」從雜房叫米「料
理を取る」叫菜⑲於「私に取って

とる

は大變便利です」於我很方便⑳
留「取って置く」留、留下、存留、
留用「娼妓が客を取る」妓女留客
㉑拉「手を取る」拉手㉒解、會「此
文章は意味が取れない」這個文
章我不解意思「彼は私の話を惡
く取った」他把我說的話錯會了
㉓估「これを此處に置く」と場を取
る」這個東西擱在這兒佔地方
㉔請「(師匠を取る)請教師㉕教
授「弟子を取る」教授學生㉖紮
「陣を取る」紮陣㉗上「歳を取る」
上歳數兒㉘診、搵「脈を取る」診
脈、搵脈㉙費、耽悞「手間を取
る」費工夫、耽悞工夫「(暇)を取
る」1.同上2.請假、告假(leave)

一一四六

とるとれ

⑩照「寫眞を取る」照像⑪拍「拍
子を取る」拍板「耻を取る」出
醜、做頂額「射て取る」射死「相撲
を取る」捺跤、摔跤「人の機嫌を
取る」奉承人「宿⑫」を取る」落
店、住客店「手に取る様に聞え
る」聽見的很真切「机の上の本を
取って下さい」把桌子上的書遞
給我「高利を取って金を貸す」放
重利息錢
ドル弗(名) 與ドルラル同
とるこ土耳其(名) 土國、土耳其
とるばこ弗箱(名) 與きんこ同
ドルラル弗(名) ①他頼、他拉(Do-
llars)②元、圓(支那)
「どれ(代) 那個(na)「どれが欲し
いか」你要那個「どれも氣に入ら

とれとる

ない」那個都不中意
「どれ(感) 與どりや同 「人
ざれい 奴隸(名) 奴隸、奴才、底下
とれう 塗料(名) 塗料、油漆
とる泥(名) 泥「泥の様に酔ふ」喝
的成了泥了「泥がはれる」濺泥、
濺了泥點
トロール船(名) (Trawler) 拖
網魚船、拖網船、括網漁船
「どろいぢり(名) 混泥玩兒
とるかす 盪ス(四段他動) 與とらか
す同
どろがめ 泥龜(名) 龜、王八
どろく 盪ク(下二段自動) ①化、鎔、鑠
「金が盪ける」鐵化了②迷蕩住、
蕩心、銷魂「女に盪ける」叫女人
給迷蕩住了

とる

「どろしあひ 泥仕合(名) 混打、亂
闘
「どろだらけ(名) 一身的泥
トロッコ(名) (Truck) 與トラック同
「どろとろ(名) ①黏埃採兒的「鉛
をとるとろに盪す」把鉛化的黏
採兒的②稀零稀零的「火をと
るとろ燃す」把火點的稀零稀零
的「とるとろ眠る」打盹兒、冲盹
兒
「どろどろ(動) ①呼嚕呼嚕的「雷
がどろどろ鳴る」雷呼嚕呼嚕的
響②濕拉汪激的「泥の様にどろ
どろになる」像泥似的那麼濕拉
汪激的了
「どろどろび(名) 慢火、微火、文
火

一一四七

とろとわ

（どろばう泥棒）賊
 （どろび）與とろとろび同
 どろまみれ泥塗（色）一身的泥
 どろみち泥道（色）泥濘的道路
 どろみづ泥水（色）①泥水②妓女、娼妓（泥水を呑む）落水、作妓女
 （泥水商賣）娼業、皮肉生涯、賣笑生涯（泥水稼業）（カゲフ）同上
 どろよけ泥除（色）蓋瓦、粘轆刮、車輪撥泥圈
 （どろり）冲盹兒、打盹兒（とろり眠る）同上
 どろろじる薯蕷汁（色）山藥泥
 どわすれ朧忘（色）忘了、朦住了（*blurred*）「よく知って居る人だが朧忘れして誰だか思ひ出せない」素日認識の人忽然朦住了想不

とぎとん

起是誰來
 とを十（名）十、十個
 とをか十日（名）①初十（十日）、十號
 （*ton*）十天（十日）
 とん噸（名）噸、噸（あの船は何噸積ですか）那隻船裝多少噸
 どん鈍（名）①鈍②慢性、笨
 どん貪（名）貪
 どん（*ton*）咚咚的（どんどん發砲する）咚咚的放槍（太鼓をどんどん敲く）咚咚的打鼓
 とんえい屯營（名）屯紮
 どんえふ嫩葉（名）嫩葉
 どんが嫩芽（名）嫩芽
 どんかく鈍角（名）鈍角
 どんかん鈍感（名）悟性慢的、愚鈍、沒火性的、一錐子擡（*stupid*）

とん

不出血來的、慢性子的、疲性子的
 的「の椀」椀碗子
 どんぐり（名）椀子、椀實（どん栗）
 どんざ頓挫（名）頓挫、波折
 どんさい頓才（名）機智
 どんさい鈍才（名）才短
 どんじ頓死（名）暴死
 どんじ遁辭（名）遁辭、支吾的話
 どんじ豚兒（名）小兒、犬子、小孩子、豚犬之兒
 「どんじまひ（名）最後、最後頭、どんじゆ頓首（名）叩頭、叩首、頓首（*ton*）檢衽（同上）
 どんじよ屯所（名）屯駐之所
 （どんじり）（名）與どんじまひ同
 どんす緞子（名）綢子
 どんすう噸數（名）噸量、噸數兒

とん

とんせい遁世（名）遁世
 とんぜい噸稅（名）船鈔（噸稅證書）
 船鈔執照
 とんそう遁走（名）逃跑、逃走、逃遁
 どんぞこ（名）最底下、最下等
 （とんだ）（形）意外的、忽然的（とんだ災難）意外的災禍（とんだ目に遇いました）遇見意外的變故了（それはとんでもない話です）這是甚麼話呢（とんだ事が出來ました）鬧出意外的事情來了
 どんたう鈍刀（名）鈍刀、不快的刀
 どんたく（名）禮拜、星期
 とんち頓智（名）機智、急智、機敏、靈敏才
 （とんちき頓痴氣）笨人、馡子

とん

とんちやく頓着（名）①擱在心裡、掛心、掛念、掛慮（そなたつまらぬ事）這事擱在心裡（人の批評など）這事不用擱在心裡（人の批評などに頓着しなくてもよい）你不用管人家怎麼說你的講究（あの人は服裝にはちつとも頓着しない）他於服裝上一點兒也不講究
 （とんちゃん）打鼓鳴鑼（どんちゃん騒）鼓鑼喧天
 （とんちゃんかん）不縫襠兒的、前後不符、所答非所問（君はとんちゃんかんの事を云ふ）你說不縫襠兒的話、你所答非所問（とんちゃんかんの事をする）他辦的前後不符
 （とんづまり）最後、最後頭、

とん

（とんぞめ）同上
 とんでん屯田（名）屯田（屯田兵）
 （とん）屯田兵
 どんてん曇天（名）陰天
 とんと（*ton*）總（不）沒、簡直的（不）沒（何處を捜してもとんと見付からない）那裏找總找不着（あの人はとんと私の所へ來ません）他總沒到我這裏來（彼は法律のことはとんと知らない）他於法律學簡直的不明白
 （とんと）（*ton*）咚咚的、噹噹的（どんと銃を打出す）咚咚的放槍（柱で頭をどんと打った）在柱子上噹噹的碰頭
 （とんとん）（*ton*）①噹噹的（門をとんとん敲く）噹噹的叩門②順順

とん

當當的〔事がとんとん運ぶ〕事情順順當當的進步〔損益がとんとんになった〕無損無益的兩上算了

〔とんざん〕
① 咚咚的〔太鼓をどんでん敲く〕咚咚的打鼓〔大砲をどんでん打つ〕咚咚的放大砲
② 嘩啦嘩啦的〔水がどんでん流れる〕水嘩啦嘩啦的流
③ 麻麻俐俐的、快〔するべき事はどんでんする〕該辦的事麻麻俐俐的辦
〔此品はどんでん賣れます〕這個貨銷的很快

とんとんびやうし〔色〕一順百順的〔一つ商賣を初めたらとんとん拍子で大金を儲けた〕一開買賣就一順百順的賺了好些個錢

とん

とんな〔形〕那樣兒、怎麼樣、怎麼個〔どんな風なのが御入用ですか〕您要那樣兒的〔なご〕どんなに嬉しかったらう〕心裡得怎麼樣歡喜呢、心裡有多麼歡喜呢〔貴下ならどんな苦勞も厭いません〕若是和您一塊兒怎麼樣艱難也不要緊〔どんなに勸めても聞き入れない〕怎麼勸他也不聽〔今の様子では此後どんな事が出来るかも知れない〕按着目下看不知後來鬧出甚麼樣兒的事故來

とんにく 豚肉〔色〕猪肉
トンネル 隧道〔色〕(Tunnel) 穿山路、穿山洞、山洞、隧洞
とんばう 蜻蛉〔色〕與とんぼ同

とん

とんび 豚尾〔色〕
① 猪尾巴
② 辮子
とんび 鳶〔色〕
① 鳶、鶴鷹
② 鷓鴣
風箏〔外ゴ〕
③ 與とんびかっぱ同
とんびかっぱ 鳶合羽〔色〕 外套子、斗篷

とんびだこ 鳶風〔色〕 鷓鴣風箏
とんびやう 頓病〔色〕 暴病
とんぶく 頓服〔色〕 頓服藥
とんぶつ 鈍物〔色〕 才短的人、慢性子、笨人
とんぶり 井〔色〕 海碗〔井鉢〕〔バチ〕同
とんぶり 咕噎〔とんぶり河の中へ落ちた〕咕噎掉在河裏了
とんぶりわうじやう 跳河死、跳井死
とんぼ 蜻蛉〔色〕 螞螂、蜻蛉、老琉璃〔蜻蛉釣〕〔ツリ〕招螞螂

一一五〇

とんぼがへり〔色〕 翻筋斗 (Van)

とんま 頓馬〔色〕 與とんちき同

とんよく 貪欲〔色〕 貪欲、貪心不足、貪圖、貪財

とんより 陰陰沈沈的、重濁〔天氣がとんよりとして居る〕天氣陰陰沈沈的、天氣重濁〔日がとんより暮れた〕暮色迫人、晦冥四合

な

な名〔色〕
① 名、名字、名號、名稱
〔これは何と云ふ名ですか〕這叫甚麼名字〔名を借る〕借名、藉名、冒名〔名を付ける〕起名、命名

とんな

名、稱名、叫做〔名を偽る〕冒名、充名、頂名〔名を隠す〕匿名〔名ありて實なし〕有名無實〔名を後世に残す〕芳名萬古、流芳後世〔貴下の御名は〕請問您官印〔彼は名は遊に行くと云って居るが實は口を捜しに行くのだ〕他名是作樂去其實是找事情去的
② 姓
③ 名譽、名聲、名望〔名を取る〕得名譽〔名を落す〕把名聲弄壞〔名のある人〕有名望的人

な菜〔色〕 青菜、白菜
な魚〔色〕 魚
な七〔色〕 七、七個
な別、勿〔行くな〕別去〔忘れるな〕別忘了
なあて 名宛〔色〕 信外之名、信上

ななあ

之名、收信人的姓名

ない内〔色〕 内、裡頭
ない 無イ〔形久語〕 無、沒有、末、不
〔あの人は學問がない〕他沒有學問〔あの人は教育がない〕他沒受過教育〔幾ら捜してもない〕怎麼找也沒有〔まだ聞いた事もない〕聞所未聞〔食ふ物がな〕沒東西吃〔鹽は一日でも無くてはならぬ物です〕鹽是人一天也離不開的、鹽是人一天也不可缺的〔彼は北京人でない〕他不是北京人
ない 不、不是、
〔助動ナクナイナケレ〕
沒〔私は今日御飯を食へない〕今天我不吃飯〔私は今日はまた御飯を食へなかった〕今天我還沒吃飯哪〔病氣ではない用事が有って

ない

一一五一

ない

來られないのです」他不是有病
是有事情不能來的「大きくもな
く小さくもなく中位のが入りま
す」要不大不小合其中的罷
ないい 内意(名) 心、心裡(内意を
伺ふ) 探他心裡的意思(内意を
漏す) 說出心裡的秘密來了

ないいう 内憂(名) 内憂
ないえん 内縁(名) 湊合的兩口子
「内縁の妻」不是正經娶的媳婦
「内縁の夫」挨挨上的爺們

ないかい 内海(名) 内海
ないおう 内應(名) 内應、倒戈
ないかく 内閣(名) 内閣(語)、國務
院(語)、行政院(語)、廟堂(内閣會
議)(イイセ)國務會議、内閣會議、
行政院會議(政黨内閣)(イイセ)政

ない

黨内閣
ないがしろ 蔑(名) 蔑視、藐視、小
看、瞧不起(蔑にする)同上動詞
ないき 内規(名) 同伴們的私規矩
ないぎ 内儀(名) 媳婦兒
ないきやく 内客(名) 近客
ないくわ 内科(名) 内科(内科醫)

(一)内科大夫
ないぐわい 内外(名) 内外
ないくわん 内官(名) 内官(宮中奉
京官(任官ノ官)
ないくん 内訓(名) 密飭
ないくん 内君(名) 令正、令正夫人
ないけん 内見(名) 先請來參觀
ないこ 内願(名) 内願(内願の憂な
し)沒有内願之憂

ないこう 内政(名) 内政、倒陷(抱
ないしつ 内室(名) 令正、令正夫人
ないじつ 内實(名) 内實、實情(彼
は大きな事ばかり云って居るが内
實は餘程困って居るらしい)他竟
說大話可是心裡很爲難的樣子
「誰も彼の内實を知らない」誰都
不知道他內囊的實情(部長)
ないしやう 内相(名) 内務部總長
ないしやう 内省(名) 内省、自省、
反觀

ない

瘡が内攻する) 天花倒陷
ないこう 内証(名) 内証、窩兒反
ないこう 乃公(代) 乃公
ないこく 内國(名) 國內、本國、內
地(内國債)(イイ) 國內借款(内國
産)(イイ) 本國產、國產、國貨(内
國産の米) 本國產的米(内國製)
(イイ) 本國製造的(内國博覽會)
(ランクワ) 國內博覽會(國內爲替)
(カハセ) 國內匯兌 「相退讓
ないさい 内濟(名) 通融辦理、互
ないざう 内贓(名) 五臟六腑
ないし 内侍(名) 官女之名
ないし 乃至(名) ①自……至、以
及②或、或是(乃至は)或、或是
ないしうげん 内祝言(名) 先不驚
動人簡便的行婚禮

ないじん 内心(名) 心裡
ないしんわう 内親王(名) 公主
ないせい 内政(名) 國內政治
ないそん 内損(名) 肚子壞了
ないたつ 内達(名) 密飭
ないだん 内談(名) 秘密的話
ないち 内地(名) 內地、國內、國裡
ないち 内治(名) 内治
ないつう 内通(名) 内應 「裡
ないてい 内廷(名) 內廷、禁地、內
ないてい 内庭(名) 裡頭院子
ないてい 内定(名) 內定
ないご 内幣(名) 內幣(內幣を下賜
せらる)頒發內幣
ないない 内内(名) 暗暗的、機密

ないしよく 内職(名) 旁兼着的事
項、副業(細君が内職に人の着物
ない 我的銀子、預付 「同
ないしよ 内證(名) 與ないしよ
ないじよ 内助(名) 内助
ないしよう 内證(名) 秘密、機密、
隱情(これは内證ですから人に話
してはいけない)這是秘密的事
情你別給洩漏了、這話在牙齒
之内密可別告訴別人說、這是
俗們倆人說(内證事)(イイ) 鬼鬼
祟祟兒的事情、秘密的事情(内
證子)(イイ) 私生兒(内證話)(イイ)
唧唧咕咕的話、鬼鬼祟祟的話、
體息(あの二人は彼處で内證話を
して居ます)他們倆在那兒打體
息

ない

ないしつ 内室(名) 令正、令正夫人
ないじつ 内實(名) 内實、實情(彼
は大きな事ばかり云って居るが内
實は餘程困って居るらしい)他竟
說大話可是心裡很爲難的樣子
「誰も彼の内實を知らない」誰都
不知道他內囊的實情(部長)
ないしやう 内相(名) 内務部總長
ないしやう 内省(名) 内省、自省、
反觀

ないしよ 内證(名) 與ないしよ
ないじよ 内助(名) 内助
ないしよう 内證(名) 秘密、機密、
隱情(これは内證ですから人に話
してはいけない)這是秘密的事
情你別給洩漏了、這話在牙齒
之内密可別告訴別人說、這是
俗們倆人說(内證事)(イイ) 鬼鬼
祟祟兒的事情、秘密的事情(内
證子)(イイ) 私生兒(内證話)(イイ)
唧唧咕咕的話、鬼鬼祟祟的話、
體息(あの二人は彼處で内證話を
して居ます)他們倆在那兒打體
息

ないじん 内心(名) 心裡
ないしんわう 内親王(名) 公主
ないせい 内政(名) 國內政治
ないそん 内損(名) 肚子壞了
ないたつ 内達(名) 密飭
ないだん 内談(名) 秘密的話
ないち 内地(名) 內地、國內、國裡
ないち 内治(名) 内治
ないつう 内通(名) 内應 「裡
ないてい 内廷(名) 內廷、禁地、內
ないてい 内庭(名) 裡頭院子
ないてい 内定(名) 內定
ないご 内幣(名) 內幣(內幣を下賜
せらる)頒發內幣
ないない 内内(名) 暗暗的、機密

ない

的「私はあの人と内内で相談した」我和他暗地商量了「これは内内の話です」這是機密的話「私は内内其事を彼に告げた」我把這件事情暗暗的告訴他了

ナイフ (Knife) 小刀子、小洋刀、摺刀 「内裏、内容、内部

ないぶ内部(色) 裡頭、裡面、内面、

ないぶく内福(色) 家裡有錢

ないぶく内服(色) 吃的藥、内服藥

ないぶん内分(色) 私和、說和「内分で済す」私和了結

ないみつ内密(色) 秘密、機密

ないむしやう内務省(色) 内務部

ないめい内命(色) 密扎

ないめん内面(色) 裡頭、裡面、内面、内裏

ないなう

ないやう内洋(色) 内海

ないやく内約(色) 密約、内約、私

ないゆ内諭(色) 密諭 「約

ないよう内用(色) ①私事 ②密事

③内用(藥)

ないよう内容(色) 内容

ないらん内亂(色) 内亂、民變、國

内變亂、窩兒裡反

なう腦(色) 腦子、腦髓、腦漿子、

腦筋「腦を使ふ」勞心思、勞心

力、勞心

なうがいこつ腦蓋骨(色) 腦髑骨

なうさつ惱殺(色) 煩惱、迷惑住、

迷惑住、勾魂「人を惱殺する」把人

迷惑住了

なうしやう腦漿(色) 腦漿子、腦

なう

一一五四

子、腦髓「腦漿を搾る」翻着腦子

想 「血氣上攻、血湧入腦

なうじゆうけつ腦充血(色) 中風、

なうしゆうけつ腦出血(色) 腦血

中風、絡暴中風

なうしんたう腦震盪(色) 顛腦受

震、腦袋受震

なうずる腦髓(色) 腦子、腦髓、腦

筋、腦漿子

なうちゆう囊中(色) 囊中

なうて(色) 高名、有名

なうてん腦天(色) 頂兒

なうびやう腦病(色) 腦病「腦病院」

(キ) 瘋人院

なうまく腦膜(色) 腦膜「腦膜炎」

(シ) 腦膜炎、驚風

なうみそ腦味噌(色) 腦漿子

なうり菜賣(色) 賣青菜的 「人

なおや名親(色) 命名者、命名之

なか中(色) 中、裡、裡頭「外は寒い

が中は暖かです」外頭冷可屋裡

暖和「箱の中に何かがあるか」箱子

裡頭有甚麼東西「森の中を通っ

て行く」穿過樹林子裡走「あの

夫婦は中が善い」他們夫妻倆很

和睦、夫妻團圓「あの兄弟は中が

悪い」他們弟兄們不和睦「中に

這入って仲裁をする」當中勸架

「中に立って利を占める」從中佔

便宜「中に立って調停する」從中

調停「二人の中を割く」把兩人辦

開(離間) 「和睦

なかあし中惡シ(形容久語) 不和、不

なうなか

ながあめ長雨(色) 潦雨

ながいき長生(色) 長生、長壽、長

命 「一天

ながいちにちおき中一日置(色) 隔

ながいちねんおき中一年置(色) 隔

ながいも長薯(色) 山藥 「一年

ながいもの長イ物(色) ①很長的

②長輩 ③有勢力的人「長い物に

は巻かれよ」既在矮簷下怎敢不

低頭

なかいり中入(色) 歇晌臺

ながうた長歌(色) 長歌

ながうた長唄(色) 日本俗謡一類

なかうご仲人(色) 媒人、媒婆兒、

氷人、月下氷人「仲人口」(ケ) 媒

婆兒的嘴、媒人的話是靠不住

的

ながえ轆(色) 車轆子 (Wheel)

ながえ長柄(色) ①長把兒的 ②傘

ながおひ長追(色) 長驅

なががき中垣(色) 靠着隔坊的牆

なががひ仲買(色) 經紀、牙行、捐

客、牙子、售儉「仲買人」(ニ) 同

上「土地の仲買人」地皮捐客、地

販「仲買業」(ゲ) 做牙行的、經紀

的營業「仲買手数料」(スウレウ) 中

費、佣錢、經手費、用錢

ながぎせる長煙管(色) 線桿兒、桿

兒長的煙袋

ながくし名隠(色) 匿名

ながぐち中口(色) 離間的話、辦

交情的話

ながぐつ長靴(色) 靴子

なかくほ中窪(色) 窪窪窩兒

なか

なか

一一五五

なか

なかご 中子(名) ①中心 ②瓢兒(瓜)
 ③(カウ)子蓋兒、子箱子、子匣子
 なかごろ 中頃(名) 中旬、中間兒
 「此月の中頃には梅の花が咲く」
 到了本月中旬梅花就開(彼は初
 め日本語を習ひ中頃英語を習った)
 他當初學日本語中間兒學的英
 國話 「尺」八尺長
 ながさ 長サ(名) 長、長短(長さ八
 ながさぎ 長座(名) 久坐、坐的工夫大
 ながささげ 長虹(名) 虹豆
 なかざし 中差(名) 扁方兒(丸マゲニ
 なかし 仲仕(名) 裝貨卸貨的挑夫
 ながし流(名) ①流 ②洗傢伙的槽
 子(案所) ③搓澡(湯屋ニテハス) ④彈絃
 子的彈着彈着過來 ⑤長、水(長い
 ながし長シ(形久語) ⑥長、水(長い

なか

顔)長臉(長く紀念とする)永作
 紀念(日が長くなった)天長了(五
 年と云へば長い様ですが經つて見
 ると短い)五年的工夫說着很長
 啊可一經過實在短(私の壽命も
 もう長くはあるまい)我想我的
 壽數也長不了、我想我也活不
 了多少年(帶を長く引する)把帶
 子長兒搭拉着 ②大(時間が長
 い)工夫大 ③老、久(長く交際す
 る)老有交情(あの人の縁談も長
 いものだ)他說親的這話已經有
 好些年了(氣を長く持つてする)
 不着急慢慢兒的辦(彼が來ると
 いつも長く談します)他一來老
 說好大工夫兒的話(長く御目に
 掛りません)老沒見、久違久違

なか

ながしめ 流目(名) 斜着瞧、瞅着
 瞧、瞟、流盼、含情睇視
 ながじゆばん 長襦袢(名) 長汗榻
 ながしら 名頭(名) 百家姓 「兒
 (ながじり)長尻(名) 屁股沈
 ながす 流ス(四段他動) ①流(涙を流
 す)流眼淚、流淚、下淚、掉淚
 「汗を流す」流汗(血を流す)流血
 「鼻を流す」流鼻涕(涎を流す)流
 黏涎子 ②倒(こ)「汚水を溝に流
 す」把臟水倒在溝裡 ③發遣(罪
 人を流す)把罪人發遣 ④傳(浮
 名を流す)傳遍風流名聲 ⑤當死
 (hang)「實物を流す」把當的東西
 當死 ⑥搓(三助が背を流す)搓
 澡的搓客人肩膊 ⑦彈着過來
 「三味線を流して來る」彈絃子的

なか

彈着彈着過來 ⑧洗掉(垢を流
 す)洗掉身上的油泥(前の事は
 水に流しませう)俗們把先前的
 事不用提出來、先前的事都付
 之流水罷
 なかすみ 中墨(名) 中心
 ながそで 長袖(名) ①長袖子 ②和
 尙醫生等之稱
 なかぞら 中空(名) 中空、半懸空
 なかぞり 中剃(名) 剃腦瓜頂兒
 なかだえ 中絶(名) 絶交
 なかだか 中高(名) 凸、中間兒高
 なかたがひ 仲違(名) 不和、仇扣、
 生分(仲違をする)犯生分、有仇
 扣、不和
 なかだち 仲立(名) ①做媒 ②媒人、
 媒妁 ③經紀、牙行(仲立人)(ニシ)

なか

1. 媒人、媒妁 2. 經紀、牙行
 ながだち 長太刀(名) 長把兒刀
 ながたらし(形志久語) 連長不斷的、
 絮絮叨叨的(長たらしい演說で
 皆飽きてしまった)因爲連長不
 斷的演說大家都膩了(長たらし
 い文章で要領がない)這篇文章
 連長不斷的沒有要領(長たらし
 く喋(セ)べる)絮絮叨叨的說
 ながち 長血(名) 瘡氣
 なかつぎ 仲次(名) 介紹、中繼(仲
 次の驛)腰站(電話中繼機)電話
 中繼機
 ながつき 長月(名) 菊月(九
 月)
 なかつせば 微バ(句) 與なかりせ
 ば同
 ながつづき 長續(名) 長、長久(彼

なか

は朋友に交るに長續が出來ん)他
 交朋友不能長好(不義の富は長
 續せぬ)不義而得富貴不能長久
 なかて 中手(名) 中撥兒的稻子
 なかなか 中中(名) ①很、甚(今日は
 中中寒い)今天很冷 ②不容易、
 輕容易(中中白狀せぬ)輕容易
 不認賬(二年位習つても英字新聞
 は中中讀めない)縱然學兩年的
 話英國新報不容易看明白
 ながなが 長長(名) 好些年、好些
 個月(長長御厄介になりました)
 蒙您這些年的照拂謝謝(長長拜
 借致しました)耽悞您使謝謝
 ながながし 長長シ(形志久語) 很長、
 絮絮叨叨(長長しい話を聞かせ
 られた)被他絮絮叨叨的說了半

なか

天

なかなほり中直色 講和、説和、和好、解和、調和、和息、修好、復和中直の宴會をする吃和氣酒 「頭、就中

なかにつきて就中副 其中、裡なかには中庭色 裡頭院子

なかば半色 一半兒、半截兒、半途半を減する減半半成功です成功了一半兒工事は半落成した工程修到一半兒了橋は半から落ちた橋從半截兒塌了賭博の半に巡查が踏込んだ正在要錢的時候巡警抓局去了二つに分けて其半を取る分爲兩截兒取其一半兒

なかばすぎ半過色 過一半兒秋

なか

の半過になった秋天過了一半兒了

なかばたらき中働色 ヽ頭、ヽ鬢

ながばなし長話色 説的工夫大、ながび長日色 長天 「長談

ながびく中低色 與なくほ同ながびく長引色 延耽、延纏此病氣は長引きませう這場病要延耽日子罷相談が長引いてまだ決しない商量的還延耽着沒有定規哪

ながびつ長櫃色 長箱子なかにひとつきおき中一月置色 隔一個月

ながひばち長火鉢色 長方火爐なかにほ中程色 ①一半兒②半途、半路途中、半截兒秋が中程

なか

一一五八

から折れた」棍子從半截兒折了中程で仕事を止める在半路途中止工中程から歸って来た走到半道兒上轉回來了當間兒、中間名古屋は東西兩京の中程にある名古屋在東西兩京的當間兒中程に河をへだつ當間兒隔一道河

なにかま仲間色 夥伴兒、黨夥、一夥子人、黨羽、黨友、同人、朋友、同僚、同事、班子、僚友、伴侶遊び仲間遊伴官吏の仲間同寅、同僚乞食の仲間老花子們的夥伴役者の仲間唱戲的班子學生の仲間學生們的學友商人の仲間買賣人的同夥勞動者の仲間工友、工夥、工作

なか

同事仲間を組む結夥仲間いぢめ咬羣仲間相場商人間之折扣價值仲間入入なかまく中幕色 中畫子「夥ながまくら長枕色 二人枕ながみち長道色 走長道兒ながむ眺下二段他動 ①釘着眼看君は何を眺めて居るか你眼睛釘甚麼②遠望、望見二階から富士山を眺める從樓上遠望富士山

なかむかし中古色 中古ながむし長虫色 長蟲ながめ眺色 ①眺望、遠望、望見②景致、風景

ながもち長持色 ①耐久、耐長、經久この布は弱くて長持しな

なか

い這塊布不結實不耐長不能經久②長箱子ながや長屋色 連房、一溜幾間房子長屋建一溜幾間房子長屋造同上なかなやすみ中休色 歇息ながやみ長病色 纏綿的病ながやもん長屋門色 過堂門なかつゆひ中結色 中間捆着的扣なかつゆび中指色 中指「兒ながよ長夜色 長夜「勁兒なかつゆひ中好色 和睦、相好、對なから半色 與なかば同なから接尾 ①可、可是、然、雖然知って居ながら云はない他知道是知道可是不是說朋友でありながら助けてくれない他是我

ながらく長らく副 老、久私はあの人と長らく一緒に居ました我和他老在一塊兒來着長らくお目に掛りません許久沒見、老

なか

一一五九

なか

没見、一向少見、久違久違

なからひ仲合(名) 交情、交際

ながらふ長フ(下二段自動) 長生、長壽、命長

なからむすこ半息子(名) 半子(名)

なかりせば微バ(句) 微、没有、就

ながる流る(下二段自動) ①流(水が)

下の方へ流る) 水往下流(血が流れる) 流血(汗が流れる) 流汗

〔對答流るるが如し〕對答如流②

當死(hang?)〔實が流れる〕當死③

没成〔會がお流れになった〕會没

開成

なかれ莫レ、勿レ、毋レ(動) 莫、勿、毋、別、休、不要、不用(過ちては改むるに憚るなかれ) 過則勿憚

改(名)〔爲すなかれ〕莫作、莫爲

なか

〔恐るるなかれ〕休怕、莫怕、別害怕、不要怕

ながれ流(名) ①流〔急な流〕急流

〔清き流〕清流〔御流れ頂戴〕賜杯、賜酌②當死〔實の流を賣拂ふ〕打當(hang?)③没成〔相談がお流れになった〕没商量成

「子ながれ流(名) 面〔旗一流〕一面旗

ながれぎ流木(名) 水發的木頭

ながれじち流質(名) 當死的(hang?)

ながれだま流丸(名) 飛彈、流彈

ながれのさかづき流酒杯(名) 君

主所賜的酒、長輩所賜的酒

ながれのみ流身(名) 妓女的身子

ながれほし流星(名) 流星、賊星

ながれもの流物(名) 當死的貨

ながれや流矢(名) 流矢 (hang?)

なかなき

ながわづらひ長煩(名) 與ながや

み同 〔斟酒的女人

なかる仲居(名) 服侍酒席的女人、

ながる長居(名) 久坐、坐的工夫

大〔今日は長居は出来ません〕今天我不能久坐〔實に長居を致しました〕實在耽悞了您的工夫了

なかわればう中折帽(名) 銅盆帽

なかんづく就中(副) 與なかにつきて同

なぎ風(名) 風平浪靜的

なきあかす泣明ス(四段自動) 哭着

過一宿、哭一宿

なきあと亡後(名) 死後、没後(mo?)

なきいる泣入ル(四段自動) 痛哭

なきかず亡數(名) 死亡的數目〔亡數に入る〕死了、去世了

なきがほ泣顔(名) 哭臉、哭面、哭

なきがら亡軀(名) 死屍 〔喪臉

なきくづる泣崩ル(下二段自動) 哭天

哭地 〔一天

なきくらす泣暮ス(四段他動) 直哭

〔なきこと〕泣言(名) 訴苦〔泣言を

言ふ〕說訴苦的話、和人訴苦窮

なきこゑ泣聲(名) 哭聲

なきさ渚(名) 渚、汀

なきさけぶ泣叫ブ(四段自動) 哭喊

なきしづむ泣沈ム(四段自動) 痛哭

なきじやう泣上戸(名) 一喝醉

了就愛哭的人 〔倒羣人

なきたま亡魂(名) 魂靈 猛烈殺

なきつく泣付ク(四段自動) 哀求、央告、央求、切求、懇求

なき

なきつら泣面(名) 哭臉、哭面、哭

喪臉〔泣面に蜂〕船破又遇打頭

風、屋漏更逢連夜雨

なきな無名(名) 冤名、冤聞

なきなき泣泣(副) ①哭着〔泣泣語

る〕哭着說②忍氣吞聲的、無可

如何〔泣泣承諾した〕忍氣吞聲

的答應了

なきなた薙刀(名) 偃月刀、關刀

なきねいり泣寝入(名) ①小孩子

哭着哭着睡覺②忍氣吞聲、無

可如何〔あの事は遂に泣寝入にな

った〕那件事到底無可如何了

なきはらす泣腫ス(四段他動) 眼胞

兒哭腫 〔刀往裡(往外)砍

なきはらふ薙拂フ(四段他動) 拿着

なきひと亡人(名) 亡人、死人

なき

なきふす泣伏ス(四段自動) 哭地

なきふす難伏ス(四段自動) 拿刀殺

泣

なきまね泣眞似(名) 假哭(chico?)

〔なきむし〕泣蟲(名) 愛哭的人、眼

淚窩子淺的人

なきめ泣女(名) 陪靈的女人

なきもの亡者(名) 死人

なぎやうへんかく奈行變格(名) 奈

行變格唯有死ぬ往ぬ二語、其

語尾變化爲な、に、ぬ、ぬる、ぬ

れ、ね

なきりばうちやう菜切庖丁(名) 菜

刀、切菜刀

なきわらひ泣笑(名) 行哭行樂

なきわかれ泣別(名) 哭着離別

なきをこ泣男(名) 愛哭的爺們

なき

なく

なく泣ク(四段自動) 哭、哭泣(子供が泣く) 小孩子哭(大聲で泣く) 放聲大哭

なく啼ク・鳴ク(四段自動) 叫、叫喚、打鳴兒、吵(shao) 豚が鳴く、猪叫喚(鶏が鳴く) 小鷄兒打鳴(ツウクウ) 小鷄兒叫喚(ツウクウ) 驚が鳴く、黃鶯吵(犬がきやんと鳴く) 狗噉噉的一聲叫喚

なく薙グ(四段他動) 甩(鎌で草を薙ぐ) 用鎌刀割草

なく和グ(四段自動) 平靜起來

なく和グ(上二段自動) 同上

なく風グ(上二段自動) 風住海面上平靜起來了

なく投グ(下二段他動) ① 扔、抛、擲、砍(爆彈(ボク)を投げる) 扔炸彈、

なく

抛放炸彈(球を投げる) 扔球兒(采(サイ)を投げる) 擲骰子(石を投げる) 扔石頭、砍石頭 ② 投、跳(身を投げる) 跳河、跳井 ③ 蹣倒(賊に組み付き取って投げる) 和賊揪扭把他蹣倒了(醫者が七を投じた) 大夫不保了、大夫推了

なくさみ慰(名) ① 消遣、近來は何を御慰で御過しですか、近來做何消遣 ② 樂事、取樂兒、開心的事(暮を打つのが私の第一の慰です) 下棋是我第一的樂事 ③ 玩意兒(私の日本語は只だ慰にやつて居るのです) 我的日本語不過是學着玩兒就是了 「樂、解悶

なくさむ慰(名) 消遣、爲なくさむ慰(四段自動) ① 取安戲(カワ)

なく

② 強姦、汚辱婦女 なくさむ慰(下二段他動) ① 安慰、勸慰、寬慰、撫慰(人の不幸を慰める) 安慰人不幸 ② 悅(目を慰める) 悅目賞心

なくす失ス(四段他動) ① 失、丟、失丟(時計を失した) 丟了一個錢 ② 死(去年妻を失した) 去年死的媳婦兒、去年斷的絃

なくなく泣泣(副) 與なきなき同 同

なくなる失ル(四段自動) ① 失、丟、失丟、沒(今、ここに置いた物が失る筈はない) 剛在這裡擱着的東西怎麼會丟了呢(私の本が失った) 我的書沒了(米が失りかけた)

から米屋に早く送りせよ」白米完上來了(叫糧食店快送來罷) なる擲ル(四段他動) 打(横面(ヨコ)を擲る) 打了一個嘴巴(棒で犬を擲る) 拿棍子打狗

なくぐりあひ(名) 鬪毆

なくぐりあふ(名) 鬪毆

なくぐりがき(名) 亂寫、亂塗、塗鴉、潦草書寫

なげあぐ(下二段他動) 扔高兒

なげいる(下二段他動) 扔在、扔進去(手紙を郵便箱へ投入れる) 把信扔在信桶子裏(毬を網の中へ投入れる) 把球兒扔進網裡去

なげうつ(四段他動) 扔、擲、扔棄(官職を擲ちて國に歸る) 把功

なくなけ

名扔棄回鄉下去了(一命を擲つて事に當る) 拚着命辦

なげかはし(名) 可歎

なげき歎(名) ① 歎息、歎氣 ② 悲歎、悲傷

なげく(四段自動) ① 歎息、歎氣

② 悲歎、悲傷、悲哀 ③ 哀求

なげこむ(四段他動) 與なげいる同

なげすつ(下二段他動) 扔、扔棄、擲棄、拋(賊が刀を投棄てて逃げた) 賊扔下刀就跑了

なげだす(四段他動) ① 伸着(足を投出す) 伸着腿坐着、伸開腿 ② 不顧、豁出去(一身を投出して盡力する) 不顧身子的盡力(年年の缺損で店を投出した) 因

なくなけ

爲做買賣連年的賠把舖子豁出去了(内閣を投出す) 内閣大臣連袂下臺了

なげつく(下二段他動) ① 扔、擲(爆裂彈を投付けて) 扔炸藥、投炸彈(手紙を投付けて怒って歸った) 把信扔下生氣回去了(石を投付ける) 扔石打人、拿石頭砍人、投石打人 ② 蹣倒了(賊を投付けた) 把賊蹣倒了

なげとばす(四段他動) 撮出去(汽車に投飛された) 叫火車給撮出去了

なげなは(名) 套索、捕索、絆

なげやり(名) 標、標槍、投槍、手箭(投鎗を投げる) 扔標、發標、放手箭

なくなけ

なせなそ

なぜに何故(二)同上

なぞ謎(名) 謎兒(mé)、謎語、隱謎、

啞謎、燈謎、燈題、燈虎兒(謎を

掛ける) 1. 破謎兒、出燈虎兒、

出燈謎 2. 繞着灣兒探人的意

思(謎を解く) 解謎兒、猜謎兒、

猜燈虎兒、解謎語(謎の様な話)

難解的話、不可解的話、曖昧難

明的話

(なぞ等(接尾) 與など同 「謎

なぞかけ謎掛(名) 破謎兒、出燈

なぞとき謎解(名) 猜謎兒、解謎

なぞへ(名) 斜 「兒

なぞらふ準フ(下二段他動) 按、照(先

例に準へてやれば間違はない) 按

着舊例辦就沒有錯兒(官吏の夫

人は夫に準へて待遇を受く) 官員

なた

們的夫人照着他們爺們一樣的

相待

なた鈍(名) 劈劈柴的刀

なだ灘(名) 海洋

なだい名題(名) ①有名、高名(名

題の役者) 名角兒、紅角兒 ②揭

名字

なだかし名高シ(形容) 有名、高名

なだたる名立ル(形) 同上

なたね菜種(名) 白菜子兒

なたまめ鈍豆(名) 刀豈

なだむ宥ム(下二段他動) 勸、勸慰、安

撫(いくら宥めても聞かない) 怎

麼勸他他也不聽我的话(甘言を

以て宥める) 拿好話安撫他

なだらか(名) ①慢(なだらかな坂)

慢坡兒 ②淺、平易(文章をなだ

なたなつ

らかに書く) 做淺近的文章

なだる頽ル(下二段自動) ①歪、歪斜

②崩

なだれ頽(名) ①歪、歪斜 ②雪墜、

雪落、冰雪峯崩(頽を打って押寄

せて来る) 蜂擁而來

なつ夏(名) 夏、夏天

なづ撫ツ(下二段他動) 摩、摩挲、摩

弄、摸(頭を撫でる) 摸腦袋(撫で

て平かにする) 摩挲平(身體の痛

い所を撫でる) 摩挲身上疼的地

方 「蓋印、鈴章、蓋戳

なつかげ夏蔭(名) 打戳子、蓋章、

なつかし懐シ(形容) 依戀、戀慕、

欽慕、榮思、榮懷(一別以來お

懐しく存居候) 自別臺額榮思莫

なつば夏場(名) 夏天間

(なつば菜(名) 青菜、白菜

なつばおり夏羽織(名) 紗褂、絹褂

ナツキン(名) (Napkin) 飯單、布

巾、拭嘴布

なつほし夏干(名) 與土用于(どよう)

なつまけ夏負(名) 苦夏

なつみかん夏蜜柑(名) 橙子

なづむ拘ム(四段自動) 拘泥(古に拘

む) 泥古(舊例に拘む) 拘執舊例

なつめ棗(名) 棗兒

なつもの夏物(名) 與なつぎ同

なつやせ夏瘦(名) 苦夏

なであく撫上グ(下二段他動) 往上摩

挲(拜)、攏(撫) (髪を撫上げる) 把頭

髪往上摩挲

なでがく撫角(名) 圓犄角

なつ

釋、別後以來時切繁懷、自違雅

教時切遐思

なつぎ夏着(名) 夏天的衣裳

なつく懐ク(四段自動) 親熱、感戴、

悅服(あの繼母はきついから子供

が懐かない) 那個繼母太利害小

孩子們怵他(不親熱他) (人民が

懐く) 人民都感戴他

なつく懐ク(下二段他動) ①撫愛、撫

育(人民を懐ける) 撫愛百姓 ②

哄(乳母が子供を懐ける) 奶母哄

小孩兒 ③熟合(猛獸を懐ける)

熟合猛獸

なづく名ク(下二段他動) ①起名、定

名、稱名、命名 ②叫、叫做、名

爲(どう云ふわけでさう名けます

か) 這是怎麼起的名字(かう云

なつ

ふ人を君子と名けます) 這麼樣

的人叫做君子

なつぐさ夏草(名) 夏天長的草

なづけ菜漬(名) 鹹菜

なづけ名付(名) 起名字、命名

なつけおや名付親(名) 給小孩子

起名字的人、命名人

なつこ夏蠶(名) 夏蠶、二蠶

なつこだち夏木立(名) 綠陰

なつぜみ夏蟬(名) 響了兒(ching

nao's chirp)

なつだいたい夏橙(名) 橙子

なつだいこん夏大根(名) 夏天出

的蘿蔔

なつてない成ッテ無イ(名) 不成事

なつとう納豆(名) 豆黃(大豆ヲ煮テ鹽

なつとく納得(名) 心滿意足、滿意

なつなて

一一六七

なて なんと

なでがた撫肩(名) 圓肩髻兒
なでぎり撫斬(名) 拿刀亂砍

など何故(副) 與なぞ同
など(接尾) ①等、等類、等項、等

等、等物、甚麼的、們(あの店で
は酒煙草などを賣ります)那個鋪
子賣烟酒甚麼的(人の悪口など
云ふものでない)別說甚麼搔弄
人的話(米麥粟などは穀物です)
米麥子穀子等類都是糧食(像
「私などはそんな事は出来ない」
像我這麼樣的人不能做那麼樣
的事情)或是……或是(山を踰
え河を渡りなどする)或是過山
或是過河而去
なぞか(副) 與なぞ同
なぞころ名所(名) ①姓名住址

なとなな

名目(名) 名勝之區
なとて(副) 與なぞ同
ナトリウム(名) (Natrium) 鈉、那

篤留謨、蕪精
なないろたうがらし七色唐辛(名)
把芝麻秦椒罌粟芥子麻子橘皮
摻合做的麪「人日、正月初七
ななくさ七種(名) ①七種青菜
②海鑿的花樣
③綢子之名
ななし無名(名) 沒有名兒、無名
〔無名指〕(オヨビ)無名指、四指
ななつ七(名) ①七、七個 ②上午
四點鐘、下午四點鐘
ななつげ膝(名) 手指頭上的寒毛
ななつさがり七下(名) 顏色落了
的衣裳

なななに

〔ななつや七屋(名) 當舖(Kangy)
〔ななとこがり七所借(名) 東摘西
借
なななぬか七七日(名) 人死了第
四十九天修的法會、七七
ななまがり七曲(名) 曲曲灣灣
ななめ斜(副) 斜、歪(斜に西に向
て流れる)斜着往西流(帽子を斜
にかぶる)歪戴着帽子(日が斜に
さす)日光斜射(斜に切る)斜着
切
ななめならず不斜(副) 非常的、
很(不斜喜ぶ)歡喜的很、非常的
歡喜
なに何(代) 何、甚麼(何の用事で
すか)有甚麼事情(何も悪い事は
ない)沒甚麼不可以的(何より

なに

〔これがよい〕這是比甚麼還好的
〔何が御入用ですか〕您要甚麼東
西〔何でも御入用の物は皆ござい
ます〕您要甚麼有甚麼(何をす
るにも金が第一です)做甚麼最
要緊的是錢(御名前は何とおし
やいますか)您貴姓、您怎麼稱
呼〔何の役にも立たない〕沒甚
應用處〔何とか返事をして下さい〕
求您是怎麼樣給我一個回
信〔あの人の云ふ事は何か信用
が出来ない〕他所說的有點兒不
能信用(これは何か知って居ま
すか)這是甚麼東西您知道麼
〔あの人は何か大變忙しい様で
した〕我看他是不知道有甚麼
事很忙的樣子

なに

なに何(代) 甚麼、麼、啊(何、あの
人が死んだか)甚麼、他死了麼
〔何、これ位の事に困ってどうする〕
麼、爲這麼點兒事爲難做甚麼
〔何、あんな者に負けるものか〕啊、
我怎麼輸那麼樣的人呢
なにおふ名二負フ(四段自動) ①名實
相副(有名的、高名的)
なにがし某(代) ①某②我
なにがしくれがし(名) 某某人
なにがしそれがし(名) 同上
なにかと何彼ト(副) ①這個那個
〔近頃は何彼と忙しい〕近來有這
個事那個事很忙②一味的〔あ
の人は何彼といつて承知しない〕
他一味的支吾不答應③事事、
甚麼(何彼と御世話になりました

なに

有難うございませう)事事都蒙您
照料謝謝
なにかなしに(副) 沒事人兒似的
〔何かなしに先方の意向を調べて
見やう〕沒事人兒似的先探一探
前路的意思
なにかにつけて(副) 諸事上、甚
麼事情上〔田舎は何かにつけて
不便が多い〕在鄉下裡住諸事很
不方便〔姑が何かにつけて嫁を苦
しめる〕婆婆在甚麼事情上給媳
婦兒氣受
なにからなにまで(副) 甚麼事都、
事事都〔あの人は何かから何までよ
く行届きます〕他那個人無論甚
麼事都是辦的很周到
なにくはぬかほ何食又顔(名) 假

なに

粧不知道的樣子、沒事人兒似的

なにくれど(副) 與なにかと同

なにげなく(副) 何氣無ク(副) 無心中、

無心(私)が何氣無ク云った事を彼は

は大に怒って居る)我無心中説的

話他聽很有了氣了

なに(副)ころなく(副)何心無ク(副)同上

なに(副)ごと(副)何事(名) 甚麼事情、何

事、甚麼事、怎麼了(何事もな

い)沒甚麼事情(何事も贅澤にす

る)事事都講究濶(今の警鐘は何

事ですか)剛打了警鐘是怎麼了

(君が自分で申出して自分で違反

するとは何事ですか)你自己説

出來如今自己違背是甚麼理

なに(副)さま(副)何様(副) 無論怎麼樣、

なに

無論如何

なに(副)し(副)お(副)ふ(副)名(名)負(動)フ(四段自動) 與な

なに(副)し(副)に(副) 爲甚麼、做甚麼、幹

甚麼、何必(汝は何しに來た)你

是幹甚麼來了(君は何しに彼を

擲った)你爲甚麼打了他了(三百

圓ですむなら何しに五百圓借りま

せう)若是三百元行何必借五

百元呢

なに(副)に(副)す(副)れ(副)ぞ(副)何(名)爲(動) 何爲

なに(副)に(副)と(副)い(副)つ(副)ても(副)何(名)ト(副)云(動)ッ(動)テ(動)モ(副) 無

論怎麼樣、怎麼説也不

なに(副)に(副)ご(副)き(副)何(名)時(名) 何時、幾時、

多略、甚麼時候(何時騒動が起

きるか分らない)不知甚麼時候

開出事來(何時でも出發出來る

様に用意する)爲得是多略可以

なに

動身多略預備(幾點鐘(今は何

時です)現在幾點鐘

なに(副)に(副)ぞ(副)何(名)卒(名) 請、伏祈、切望

(何卒御宥し下さい)請您寬恕寬

恕(何卒御納め被下度候)伏祈鑒

存是荷(何卒御來車被下度候)切

望屆時移玉是荷

なに(副)に(副)と(副)て(副) 爲甚麼、做甚麼、怎

なに(副)に(副)と(副)なく(副)何(名)ト(副)無(動)ク(副) ①不知

道甚麼地方、不知道甚麼緣故、

不知何故(あの人は何となく厭

味がある)他那個人不知道甚麼

地方有討厭的地方(何と無く云

ひ出しにくい)不知道甚麼緣故

不好説出來(暗含着(何と無く

云ひ聞かす)暗含着訓戒他

なに(副)に(副)と(副)なし(副)に(副)何(名)ト(副)無(動)ク(副) 同上

なに(副)に(副)何(名)何(名) ①都是甚麼(貴

下の御持になった物は何何です)

您帶來的都是甚麼東西(某某

(何何の事は役所で許可しない)

某某的事情官署不准辦

なに(副)に(副)は(副)さ(副)て(副)お(副)き(副)何(名)ハ(副)備(置)キ(副) 與

なに(副)に(副)は(副)とも(副)あれ(副)同

無論怎麼樣、無論如何(何は兎

もあれ先づ電報で問合せて見や

う)無論怎麼樣先打一個電報

打聽打聽

なに(副)に(副)は(副)とも(副)あれ(副)か(副)く(副)も(副)あれ(副)何(名)ハ

兎(モ)ア(レ)角(モ)ア(レ) 同上

なに(副)に(副)は(副)なく(副)とも(副)何(名)ハ(副)無(動)ク(ト)モ(副)

沒有甚麼可是(何は無くとも一

杯召上れ)沒甚麼茶請您喝兩盅

なに

酒罷

なに(副)に(副)ぶ(副)ん(副)何(名)分(名) ①請(何分宜

しく願ひます)請您多照應、請

您多給費心(何分御察を願ひま

す)請您原諒原諒(無奈(何分

道が悪いので遅れました)我怎麼

想快來無奈道路不好走故此來

遲了(何分人が大勢で行届かな

い)我怎麼辦無奈來的人多應

酬不到

なに(副)に(副)も(副)何(名)モ(副) 沒甚麼(彼は只遊

んで居て何も勉強しない)他竟玩

兒甚麼功也不用(何も遠慮する

には及ばない)你有何拘泥的呢

(何も馳走はありません)沒甚麼

菜(何も難しい事はない)沒甚麼

難的(何も知らない)甚麼都不

なに

知道、任甚麼不知道

なに(副)に(副)も(副)か(副)も(副)何(名)モ(副)彼(名)モ(副) 甚麼事

情都、一伍一什的、事事(何も彼

も都合よく運んだ)甚麼事情都

辦的順順當當的(何も彼も)た

まぜになつて居る)甚麼東西全在

一塊兒混雜着(何も彼も白狀し

た)一伍一什的認出來了(何も

彼も皆買っておく)樣樣兒都留下

なに(副)に(副)も(副)か(副)にも(副)何(名)ニ(副)モ(副)彼(名)ニ(副)モ(副) 同

上

なに(副)に(副)ほ(副)ど(副)何(名)程(名) 多少、若干(値

段は何程ですか)價錢是多少(私

共がいくら儉約しても何程にもな

るまい)我們怎麼儉省也成不了

多大的款項(代價は何程に候哉

御知らせ被下度候)價銀若干即

なに

なになの

祈示知 「かと同
 (なにやかや何ヤ彼ヤ) 與なに
 (なにやらかやら何ヤラ彼ヤラ) 同上
 なにより何ヨリ(副) 比甚麼還(こ
 れは何より結構です) 這個比甚
 麼都好
 なにら何等(副) 何等、甚麼、任
 何、任甚麼(何等の利益もない)
 沒甚麼益處
 なぬか七日(名) ①初七(月)、七號
 (同)②七天(日)
 なぬし名主(名) 里正 「字
 なのり名告(名) 自己宜自己的名
 なのり名乗(名) 印、官印
 なのる名告ル(四段自動) 自己宜自
 己的名字

なは

なは(繩) 繩、繩子(麻繩) アサ麻
 繩子(藁繩) ウラ草繩子、草縹
 (棕欄繩) シュロ棕繩子(太繩) フト
 大條繩子(繩を引く) 縹繩子(繩
 を打つ) 1. 丈量 2. 網綁罪人(繩
 を掛ける) 網綁罪人(繩をなう)
 打繩子(繩造り機) 製繩機、綯繩
 機(繩造工場) 製繩廠、製索所、
 製綱所 「入をする」 丈量地畝
 なはいれ 繩入(名) 丈量(田畑の繩
 なはしろ 苗代(名) 秧田(苗代田)
 (同) 同上 「子
 なはずだれ 繩簾(名) 繩子做的簾
 なはつき 繩附(名) 被網的囚犯
 なはとび 繩跳(名) 跳繩兒、兜繩
 兒

なは

なはぬけ 繩脫(名) 脫套兒 (Tunic
 of the)
 なのはれん 繩暖簾(名) 大貨舖
 なのはしご 繩梯子(名) 軟梯子、
 蜈蚣梯子、繩梯
 なはばり 繩張(名) ①定境界的線
 路、範圍場所的繩子(繩張をす
 る) 張繩分隔、張繩子劃界 ②牢
 籠(四方ニナハバリ) ③窩子、道、倒
 水的窩子(水汲) 淘茅廁的窩子
 (糞便汲) 死地(鎌日商人ノ語
 取夫) 店ノナハバリ)
 なはむしろ 繩蕙(名) 草繩子編的
 蓆
 なはめ 繩目(名) ①被繩子所網(繩
 目の耻辱) 受網綁的羞辱(繩目に
 かかる) 被網上了 ②扣兒(指と)

一一七二

なひなふ

なびく 靡ク(四段自動) 靡、服從(草
 が風に靡く) 草被風所壓(ナホレ
 オンの威勢に靡かぬ國はなかつた)
 沒有不服從拿破崙威力的國
 なひろめ 名弘(名) 賣剛
 なふ 綯フ(四段他動) 打(繩を綯ふ) 打
 繩子
 なふき 納期(名) 交納時期(租稅の
 納期) 兩忙(春秋二) 上忙(春) 下忙
 (秋)、交錢糧的日子
 ナフキン(名) 與ナッフキン同
 なふきん 納金(名) 納錢糧(租稅)、附
 錢、付欸
 なふくわん 納完(名) 完納、交足
 なふじゆ 納受(名) 收、收下
 なふぜい 納稅(名) 上稅、納稅、納

なふなへ

なふだ 名札(名) 名片(札) 姓氏牌
 (同) 名牌(名札書) 「夫搭林
 ナフタリン(名) (Naphthalene) 那
 なふにふ 納入(名) 與なふふ同
 なふはい 納杯(名) ①坐完酒席 ②
 臨坐完酒席喝的酒 「納、繳
 なふふ 納付(名) 上納、繳納、交
 なふほん 納本(名) 送教育部查驗
 的書
 なぶりごろし 鬪殺(名) 凌遲
 なぶりやう 納涼(名) 乘涼、涼快
 なぶる 黷ル(四段他動) 耍笑、耍戲、
 挖刺、耻笑
 なへ 苗(名) 苗、秧子(稻の苗) 稻秧
 子(瓜の苗) 瓜秧(樹の苗) 樹秧

なへなほ

なへ 樹苗(菊苗) 菊花秧子
 なべ 鍋(名) 鍋(鐵鍋) (ツ) 鐵鍋(土
 鍋) (下) 沙鍋(破れ鍋にとちぶた)
 瘡腫對破磨
 なべがね 鍋鐵(名) 生鐵
 なへぎ 苗木(名) 樹秧子、樹苗
 なへぐ 蹇グ(四段自動) 蹇、腿有病
 走不動
 なべずみ 鍋墨(名) 鍋烟子
 なべせん 鍋錢(名) 鐵錢
 なべづる 鍋鉉(名) 鍋梁兒
 なへごこ 苗床(名) 花池子(草花)
 (野菜)、養樹秧子的地方
 なべぶた 鍋蓋(名) 鍋蓋
 なべやき 鍋燒(名) 鍋燒
 なほ 猶・尙(副) 猶、尙、還(今尙) 迄

一一七三

今、今猶、現尙(猶未だ定まらず) 猶未定(文)、還沒定(老いたれども尙騎馬を能くす) 雖老尙能騎

なほ^ホ馬 ①何況②更(聖人でも過がある吾吾に於ては尙更の事です) 連聖人還有錯處何況

你我哪(聖人尙且有錯處)(貴下は病後だから尙更氣を付けなさい) 您的病剛好了往後更得小心

なほ^ホ心 荒疎、苟且(自分の職務を等閑にするな) 不可荒疎自己的職務(遊に耽って勉強が等閑になる) 竟貪玩兒學問荒疎了

なほ^ホ直(色) ①收拾、拾掇、修理

(この時計は直がきかない) 這個錶拾掇不了 ②皮匠、縫鞋的(靴直) 同上 ③蜜酒

なほ^ホ直(形久語) 直 ①治(病氣を直す) 治病、醫病 ②拾掇、收拾、修理(靴を直す) 拾掇鞋 ③改、改正、矯正、刪改(悪い癖を直す)

改不好的脾氣、改正壞脾氣(自分) 矯正壞脾氣(人) (文語を俗語に直す) 把文話改俗話(文章を直す) 刪改文章 ④還(使つたら原の通り直しておく) 使完了就攔回原處、使完了仍舊的放下 (妾を本妻に直す) 把姨奶奶扶正(客を

なま^ホかじり 生齧(色) 曉得幾分、半瓶子醋、半瓶子洗蕩、一知半解、淺學、粗知一二的(生齧の支那語を使ふ) 用半瓶子醋的中國話説(生齧の知識) 一知半解的知識

なま^ホ改(悪い癖が直る) 不好的脾氣 改了

なま^ホ生(色) 生(生で食ふ) 生着吃 (この芋はまだ生です) 這個白薯還沒烤透哪 「鮮

なま^ホあたらし 生新シ(形久語) 新

なま^ホあへ 生齧(色) 生拌的菜(ちさは醋で生齧にして食べられる) 生菜可以用醋生拌着吃

なま^ホいえ 生癒(色) 病還沒十分好

なま^ホいさ 生意氣(色) ①(チヌル) 冒失、冒昧、逞能、愛出風頭 ②驕傲

なま^ホおほえ 生覺(色) 記不清、記的不清楚

なま^ホがくもん 生學問(色) 淺學、皮毛的學問、半瓶子醋的學問

上座に直す(把客人讓到上座) なほ^ホ尙尙(副) ①越發、更(風が尙尙烈しくなつた) 風越發利害起來了、風更大了(それでは尙尙勉強しなくてはいけない) 若這麼樣更得用功 ②再者(尙尙書(ガキ) 與おつてがき同) 「同

なほ^ホもって 尙以テ(副) 與なほさら

なほ^ホる 直ル(四段自動) ①好、復元、治(病氣が直る) 病好了、醫好了、治好了、療癒了、痊癒了(直る病氣) 可治的病、可醫的病、可以治好的病(直らぬ病氣) 無法醫好的病、無治之症、難治的病(天氣が直つた) 天氣復元了 ②歸(自分の席に直る) 歸自己的座位

なま^ホき 生木(色) 活着的樹木(生木を割く) 硬要離縁、父母硬把兒媳婦給休了

なま^ホぎき 生聞(色) ①聽明白了幾分 ②裝做甚麼事都知道的樣子

なま^ホきず 生傷(色) 新受的傷

なま^ホぐさ 生臭(色) 葷菜

なま^ホぐさし 生臭シ(形久語) 有腥

味、有魚腥味(魚)、有羶味(羊)

なま^ホぐさばうず 生臭坊主(色) 破戒的出家人、酒肉和尚

なま^ホくび 生首(色) 剛殺了的人頭

なま^ホくは 鈍(色) ①刀不快 ②人笨

なま^ホくはがた 鈍刀(色) 鈍刀、不快的刀 「游手好閒的、懶人

なま^ホけもの 懶者(色) 懶惰的人、(なまける 懶ケル(下二段自動) 懶惰、

なま^ホかた 生方(副) 一點兒

なま^ホがつを 生齧(色) 鯧魚

なま^ホがてん 生合點(色) 早有了八成了、心裡還不十分了然可是自己早斷就了(あの人は生合點をするから常に間違が出来ます) 他心裡早有了八成了所以常有錯處

なま^ホがね 生鐵(色) 沒鍊的鐵

なま^ホかは 生皮(色) 生皮

なま^ホかべ 生壁(色) 剛抹了的墻

なま^ホ 一一七五

なま

怠惰、游手好閑、貪閒兒

なま(一)海鼠(名) 海參(hai'shen)

なま(二)ろし生殺(名) 半死不活兒

「打って生殺にした」打的他半死

不活兒了、打了个半死

なま(三)かな生肴(名) 生魚、鮮魚

「なまじ(副) 苟且、好好歹歹的、

草草了事的

「なまじ(副) 同上

なまじ(四)に怒(二) 同上(怒學問

するよりしない方がよい)苟且學

學問莫若不學倒好「怒手出しさ

れて却てこまる」草草了事的帮

着我我倒爲難「怒事をすると必

ず仕損する」若是好好歹歹的辦

事情一定壞了

なまじ(五)ろし生白シ(形久活) 白(色の

なま

生白(男)白臉蛋的人

なます 膾(名) 涼魚

なます 燂ス(四段他動) 蕪火

なまたま(一)生卵(名) 鷄子兒、鷄蛋

なまち 生血(名) 鮮血

なまづ 鯰(名) 念魚

なまづ 癩(名) 白駁子(癩肌)(ハ)

なまつば 生唾(名) 流酸水

なまつめ 生爪(名) 指甲(生爪を剥

がす)指甲劈了

「なまなか 生牛(副) 與なまじ(一)同

なまなまし 生牛(形志久活) 新鮮

なまにえ 生煮(名) 半生不熟、菜

還沒煮透的

「なまはんじやく(副) 同上

なまび 生乾(名) 還沒乾透的

なまびやう 生兵法(名) 稍微

なま

知道一點兒兵法、能耐學的不

到家、一知半解的(生兵法大傷

のもと)假行家吃大虧了

なま(一)名前(名) 姓名、名字、稱呼

「御名前は」您貴姓

なまみ 生身(名) 生肉

なまめかし(形志久活) 嬌豔、嬌媚、

嬌姿、冶容、嬌態、妖態

なまめく(四段自動) 嬌豔、嬌媚

なまものじり 生物識(名) 一知半

解的人、半瓶子醋

なまやけ 生燒(名) 沒燒透、沒烤透

なまよひ 生醉(名) 與なま(一)同

なまり 鉛(名) 鉛

なまり 訛(名) 土音、土腔、土調

なまり(二)ことば 訛語(名) 土話

なまる 訛ル(四段自動) 帶土音(言葉

を詠る)說話帶土音

なま(一)ひ生醉(名) ①半醉 ②喝醉

的人 ③假粧喝醉的樣子

なみ(一)並(名) ①平常、尋常、泛常、

平凡(並の人)平常的人、平平凡

凡的人、泛常人、常人(並の品)

平常物兒(十人並の容貌)模樣

平常(人並の技倆)普通人的技

倆(日並)毎日、每天(月並)

毎月、月例(門並)每家的門口

兒、家家戶戶(行、排列)家並

房子的排列

なみ(二)波(名) 波浪、風波(平地に波を

起す)平地起風波、無故生事(波

が高い)波浪大 「慢歩

なみ(三)あし並足(名) 平常的腳步、

なみ(四)あと波跡(名) 波浪的痕跡

なま なみ

なみ(一)うちぎは波打際(名) 水濱、

渚、汀 「轆轤

なみ(二)かせ波風(名) ①風波 ②風潮、

なみ(三)き並木(名) 兩旁種樹的大道、

樹巷子

なみ(四)す無(佐變他動) 藐視、蔑視

なみ(五)だ涙(名) 涙、眼淚、淚珠(空

涙)「ラ」猫兒哭耗子(涙の無い

人)無情的人、鐵石人(涙を流

す)流淚、下淚、落淚、流眼淚

「涙を浮へる」含着一滴眼淚(涙

ぐむ)眼圈兒一紅、含着眼淚(涙

のあと)淚痕(涙ぐむ)眼圈兒一

紅、含着眼淚(涙泉の如し)淚如

泉湧(涙雨の如し)流淚如雨、流

淚滿面(涙をはらって別れる)洒

淚而別(涙片手に)眼淚汪汪的、

なみ

紛紛下淚(風に當ると涙が出る)

迎風流淚

なみ(一)だきん涙金(名) 辭奴僕或休

妾時主人給的酬勞錢

なみ(二)だごる涙聲(名) 含着眼淚說

話的聲兒

なみ(三)たつ波立ッ(四段自動) 起波浪

なみ(四)たつ並立ッ(四段自動) 並立

なみ(五)だもろし涙脆シ(形久活) 眼淚

なみ(六)ち波路(名) 水路 「窩子淺

なみ(七)とう並等(名) 下等

なみ(八)なみ波波(副) 滿滿的(酒を杯

に波波とつぐ)把酒滿滿的斟了

なみ(九)なみ並並(名) 平常、尋常(彼

は並並の人でない)他不是凡人

「並並の人)常人、凡人、泛常人

なみ(十)のしわ波皺(名) 波紋

なみ

なみなむ

なみのはな波花(名) ①浪花 ②白

なみま波間(名) 「ふ」漂在波浪上

なみよけ波除(名) 防波堤

なみある並居ル(上一段自動) 列坐

なむ嘗ム(下一段他動) 嘗(犬が私の手

を嘗めた) 狗嘗我的手(砂糖を嘗

める) 稽白糖(艱難を嘗める) 受

盡苦處

なむ(動) ①想(彼も行きなむ)(文)

想彼亦行焉 ②願、欲(人の子は

皆かくあらなむ)(文) 我願凡爲子

者皆如此

なむ(動) 指定事物之助詞、即也

「是れなむ思の道なれ)(文) 是即

忠之道也

なむ南無(佛) 南無(namō mo)

なむなめ

なむあみだぶつ南無阿彌陀佛(名)

南無阿彌陀佛

なむさん南無三(名) 與次語同

なむさんばう南無三寶(名) ①南無

佛南無法南無僧 ②噴(シマツ)

なめ縋面(名) 縋兒(mōtōshi)

なめくち蛞蝓(名) 蛞蝓、鼻涕蟲、

肉蛆、蠅

なめしがは革(名) 熟皮

なめす鞣ス(四段他動) 做熟皮

なめずる舐ル(四段他動) 碾嘴唇兒

なめらか滑(名) 滑溜、圓滑、光

滑、平滑(滑に木を削る) 把木頭

飽滑溜、把木頭飽平了(事が滑

に行かない) 事情辦的不能順順

當當的(車が滑に走る) 車走的

溜溜(言葉が滑なる) 說的伶牙

なめなや

俐齒的、說的流利、嘴滑串

なめる滑ル(四段自動) 滑

なや納屋(名) 堆房

なや魚屋(名) 魚床子

なやまし惱シ(形志久遠) 苦、辛苦

なやます惱ス(四段他動) 惦记、撓

頭、熬心、煩惱、煩悶、苦惱、使

受苦、熬(學生は試験の爲に頭を

惱す) 學生們惦记考試(頭を惱

す事件) 撓頭的事情(心を惱す)

開心、熬心(敵を惱す) 叫敵兵受

苦子(病に惱される) 爲病所苦惱

「一文の金が英雄を惱す」 一文錢

熬倒英雄漢(此問題には私も少

からず惱まされた) 這個問題真

把我熬住了

なやみ惱(名) ①掛慮、焦慮、憂

思、煩悶、煩惱(病

なやむ惱ム(四段自動) 苦惱、爲難、

煩惱、愁悶、煩惱(病に惱む) 因

爲病苦惱(齒を惱む) 牙疼(どう

しやうと方法に惱む) 要怎麼辦

沒法子的很爲難

「同

なやむ惱ム(下一段他動) 與なやます

なやめる惱メル(下一段他動) 同上

なやらひ追讎(名) 與つゝな同

なゆ萎ユ(下一段自動) 萎、呆(花が萎

えた) 花萎了(nicht) 疲れて體が

萎える) 乏的身子萎了

なよし名吉(名) 與いな同

なよなよ(副) 萎落之貌

(なり) 若是、要(やるなら大き

な事をやれ) 要辦就辦一件大事

「貴下が行くなら私も一緒に行く」

なやなら

若是你去我也一同去(これなら

一圓五十錢で買へます) 若是這

個一塊半可以買(あの人なら屹

度出來ます) 若是他一定辦得了

(今日は土曜だから酔うなら酔う

ても構はない) 今天是星期六醉

了就醉了也不要緊

ならし平(名) 平均、酌中之數、折

中之數(毎月の收入は先づ五十圓

平です) 他毎月的進項平均起來

有五十塊錢

ならず平ス(四段他動) ①平均、折

中、酌中(二人前平して何圓にな

りますか) 平均起來一個人算是

幾塊錢呢 ②墊平(道路を平す)

墊平道路(地面を踏み平す) 把地

踏平了

なら

ならず馴ス(四段他動) ①馴養、養

熟、養馴、馴伏(猛獸を馴す) 馴

養猛獸(馬を馴す) 排馬、排

熟馬匹 ②使慣、習慣、習熟(ホ

ーイを使ひ馴す) 使慣了底下人

「苦勞に馴す」 把身子習慣了勞

苦(寒氣に馴す) 習慣受冷(身體

を馴す) 磨鍊身體

ならず鳴(四段他動) ①鳴(不平を

鳴す) 鳴冤(笛を鳴す) 鳴笛兒 ②

表白(罪を鳴す) 表白罪過 ③招

出名聲來(あの人一時は鳴し

たものです) 他也是一時招出名

聲來了

ならずもの(名) 無賴子、光棍、惡

ならはし習(名) 習慣、習氣、習俗

「これは古からの習です」 這是從

なら

なら

古的習慣〔あの村は一つ悪い習がある〕那個村莊裡有一個不好的習氣

ならはす 習ス(四段他動) 叫學(英語を習す) 叫他學英國話

ならひ 習(名) 習、習慣、習氣(習性となる) 習成性、習慣成自然

ならび 並(名) 行、排(齒の並が悪い) 牙不齊整(二並に並べる) 排列兩行(二並の樹) 一行樹(天下に並無き英雄) 天下無雙的英雄

ならびおこる 並起(四段自動) 並起(土匪並起る) 土匪並起

ならびに(接) 和、跟、並(人並に馬) 人和馬(御手紙並に商品若干先刻慥に受取申候) 頃接華札並來貴貨若干照數無差

學問沒有人可比

なら

ならふ 做(四段自動) 做、仿(以下之に做ふ) 下仿此(古人の筆意に做ふ) 做古人筆意

ならふ 習(四段他動) 習、學、練(學んで時に之を習ふ) 學而時習之

ならぶ 並(四段自動) 排列、連着、並排(二列に排ぶ) 排列兩行

不去分分明明的定規罷

なら

ならぶ 並(下二段他動) 擺、並、排、並列、安排、排列、陳列(基石を並べる) 擺棋子兒(置物を並べる) 排擺設、放擺設(商品を店に並べる) 把貨物擺在舖子裡(人の罪惡を並べ立てる) 察點人的罪過兒(御託(ゴタ)を並べる) 絮絮叨叨的說(二緒に並べる) 並列在一處(肩を並べる者が無い) 沒對兒、沒有比肩的人(馬を並べて進む) 並着馬走(活字を並べる) 排鉛字(順序に並べる) 排次序、按着次序擺

擺列法

ならべかた 並方(名) 擺列的次序、排法(並方が正しくない) 排的不正

ならびなし 並無(形入語) 無雙、無比

なり 打ち、修飾服色、講究打扮(形を構はぬ) 不修飾打扮、不講究打扮(年の割には形が大きい) 按着歲數兒說身量高

なり 聲兒、響(鳴を鎮む) 壓(なり鳴) 聲兒、響(鳴を鎮む) 壓(なり鳴)

なり 生(名) 下來的(今年は果物の生が多い) 今年果子下來的多(なり) 癩瘡

なり 也(助動詞) 也(人に非ざるなり) 非人也(徳は本なり) 徳者本也

なり 或、或是(明日なり明後日なり) 明天或是後天(承知なり不承知なり早く返事をして下さい) 或是答應或是不答應請您快快的回覆我(行くなり止めるなりきっぱり決めなさい) 是去是

なり

なり 不去分分明明的定規罷

なり 白手成家(成上者) 一步登高、高的人、白手成家的人

なり 登高、白手成家

なり 発跡

なり 発跡

なり

なり 成立、局面、組織(その會社はどう云ふ成立です) 那個公司是怎麼個局面呢

なり 成立、組織、成(議會は上院と下院とで成立つ) 議會是由上院下院成立的(その會は何時成立したのです) 這個會幾時組織的

なり 或、或是、是(與なり同) 無論(どうなりと勝手にしなさい) 無論如何都是隨您便(何か御用があれば何なりと申付けて下さい) 有甚麼事情無論甚麼請吩咐我

なり 同上

なり 垂(佐賢自動) 垂、將及、要到(五年に垂とす) 垂五

なり

なり

年(文)、要到五年
 年(文)のほる成上ル(四段自動) 與なりあがる同
 なりはつ成果ツ(下二段自動) 壞到(かう)成果てるのも自業自得だ事情壞到這步天地也是自作自受的
 なりはひ生業(名) 生業、生意、營生、謀生
 なりひびく鳴響ク(四段自動) 響
 名馳四方、四遠馳名
 なりふり形振(名) 打扮兒
 なりもの鳴物(名) 樂器(guitar) 鳴物停止(ヤウジ) 停止音樂
 なりもの生物(名) 果子
 なりゆき成行(名) 結果、收場、進行、趨勢、徑路、經過(自然の成行) 自然之趨勢、自然之徑路(成行)

なりなる

行に委す聽其自然、把事任其流蕩、聽任事物的進行(暫く成行を見て居ませう) 先聽其自然看看後來落到那兒罷(かう云ふ成行にならうとは思はなかつた) 事情辦的辦到這步田地實在想也想不到
 なりゆく成行ク(四段自動) 着落(おち) なる、この談判はどう成行くか分らない) 這件交涉案件怎麼個着落還不明白
 なりわたる鳴渡ル(四段自動) 與なりひびく同
 なる生ル(四段自動) 結(柿が澤山生つた) 柿子結了很多的果子
 なる鳴ル(四段自動) 鳴(耳が鳴る)

なる

耳鳴(耳) 打(雷が鳴る) 打雷(雷) 響(鐘が鳴る) 鐘響(鼓、拍(手が鳴る) 鼓掌、拍掌 (腹が鳴る) 肚子叫喚(名が世に鳴る) 名馳四方、四遠馳名
 なる成ル(爲ル) (四段自動) 成、變、變成(妖怪となる) 成了精了(滄海桑田となる) 滄海變桑田(雲が雨になる) 雲彩成雨(三と五とを加へると八になる) 五個搭三個成八個(到(私は今年十五歳になりました) 我今年到了十五歳了(まだ十時にならない) 還不到十點鐘(做、當(學校の先生に成つた) 做了學校的教師了(兵になる) 當兵(善い人にならない) 難作好人(有(私が東京に來て

なる

から五年になる) 我到東京有五年了(發、起(彼は金持に成つた) 他發了財了(洋服が小さくなつた) 我的洋服發擠了(病氣は風から成るのが多い) 病症是由傷風起的多(見、得(三に五を掛けると十五になる) 三乘五見十五、三五見十五、三乘五得十五(轉、轉成(運がよくなる) 運氣轉佳、轉運(將形容詞變成動詞(段段寒くなる) 漸漸的冷(あの人の字は近來益善くなった) 他的字近來越發好了(開得(彼が承諾しないので私は先方に對しすまなくなつた) 因爲他不答應開得我對不起他(三倍になる) 加了三倍(彼は免職になった) 他

なる

被革職了(一日に五錢づつ溜めると一年に何程になるか) 一天存五個銅子兒一年攢多少錢呢(私の身になって考へてごらんなさい) 您替我想想
 なる馴ル(下二段自動) 熟、養熟、養馴、喂熟、馴熟(此鳥はよく馴れて居る) 這個鳥兒很熟了(此熊はいくら馴しても馴れない) 這個狗熊怎麼馴養也不馴熟
 なる慣ル(下二段自動) 熟、慣、習慣、習熟(自轉車に乗始は骨が折れたが今は慣れた) 剛一騎脚踏車很費力了可是如今熟了(職工が段段慣れて來た) 工人做工漸漸的熟了(貴下は北平の風土に慣れましたか) 您服慣了北平的水土了

なる

麼(「熟れない) 醬還沒熟哪
 なる熟ル(下二段自動) 熟(味噌がまだなるかみ 鳴神(雷)
 なる二鳴子(名) 小木板上擺幾條竹管掛之於田畝間鳴之以驅逐鳥雀(鳴子板) (イタ) 同上
 なるだけ成ル丈(副) 儘(成る丈早くして晩くしてはいけない) 儘早不儘晚(成る丈早く云ふ) 儘着往快裡說(必要な事を成る丈早くする) 把要緊的事情先儘着辦(成る丈大きい方がよい) 越大越好(成るだけ御出で下さい) 請您儘着工夫來
 なるべく成ル可ク(副) 同上
 なるほど成程(副) 可不是麼、說的是呢、說的對了、不錯、敢情